

## 外部評価の評価手順（令和元年度）

### 1. 外部評価委員会の各評価委員による評価

各評価委員がそれぞれ、委員個々の評価結果報告書を作成する。

(1) 評価にあたっては、「外部評価報告（委員提出用）」を用いて、中間評価（内部点検）活動状況と評価、運営協議会によるプレゼンテーション・質疑応答に基づき評価を行う。

(2) 当該評価報告書は、本プログラム担当がんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で一時お預かりした後、全ての委員からの報告が揃い次第、外部評価委員会委員長へメールにて送付・提出する。

※ 各委員からの外部評価報告 がんプロ事務局へ提出 3月16日（月）12時まで

### 2. 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果（案）の作成

各評価委員からの評価報告を受けて、委員長が外部評価委員会としての評価結果（案）を作成する。その後、評価結果（案）を各評価委員へ送付し、評価委員は評価結果（案）を確認する。

各評価委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して評価委員へ送付する。

評価委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果（修正案）を作成し、各評価委員へ送付する。委員長は、メール等で対応できない場合、審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。

最終的に外部評価委員会としての外部評価結果を作成し、事務局へ通知する。

※ 外部評価（総括） 最終提出締切日 3月19日（金）12時まで

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、文科省への取組調査等の報告期限もあり、上記日程にてご対応いただきたく、よろしくお願い致します。

諸事情により、ご対応が困難な場合は、お知らせください。

<p>【問い合わせ先】金沢大学がんプロ事務局 担当 石塚・今村・輿石 TEL 076(234)4205、076(265)2854 FAX 076(265)2855 mail:gpro@med.kanazawa-u.ac.jp</p>
--

令和2年3月6日（金）（金沢大学医学類B棟 小会議室）

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

# 北信がんプロ活動状況報告

事業責任者 矢野 聖二

金沢大学附属病院がんセンター  
金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科  
WPI 金沢大学ナノ生命科学研究所

# 発表内容

- 1、北信がんプロの事業概要
- 2、北信がんプロの予算
- 3、H30年度外部評価委員会の結果と対応
- 4、北信がんプロ事業計画と進捗
  - (1) 教育コース受入れ状況と講義について
  - (2) 地域がんデータベース
  - (3) 広報活動
- 5、今後の予定

# 全国11の「がんプロ」チーム



# 北信がんプロの事業

## ② 演習（多職種連携）

北信オンコロジーセミナー  
ライフステージ事例検討会  
(TV会議システムを使用)

北信4県のがん拠点病院等

北信4県の医師会

北信4県の自治体

金沢大・がん進展制御研究所  
国立がん研究センター

## ① 講義

全国e-learningクラウド  
(筑波大学が主管)

がんゲノム、小児・AYA・希少がん、  
ライフステージに関する教材を  
教員が作成

## ④ スタッフ研修（FD）

地域でのFD研修  
がん拠点病院や  
大学プログラムと連  
携した研修会を実施

海外FD研修  
ライフステージを  
テーマとした研修  
を今年度に予定  
海外連携施設

## ⑤ 人材交流

国際シンポジウム  
合同シンポジウム

他のがんプロ拠点  
他の人材育成プログラム  
「未来医療」、「認プロ」  
「スーパードクター」等

## ③ 地域がん医療の特徴把握

地域がんデータベース  
(院内がん登録データを活用)

小児・AYA世代・高齢者の  
がんデータの把握→対策立案

## ⑥ 市民啓発・教育

市民公開講座・WEBでの広報

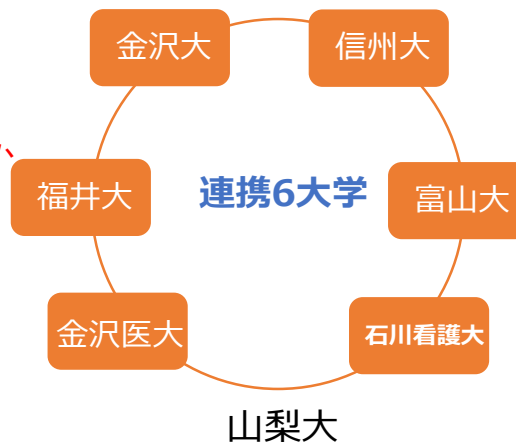
アンケートでニーズの把握

患者会

北信4県の自治体

北信4県の医師会

北信4県のがん拠点病院等



# 北信がんプロの教育に関する基本構想

北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得

## 1、北信6大学の強み

- ・ 金沢大：先進的な集学的個別化ゲノム医療
- ・ 信州大：がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、  
小児・AYA世代がん診療、
- ・ 金沢医大：希少がん病理診断や就学的治療・就労支援
- ・ 富山大：高齢者がん対策、福井大：先進的在宅緩和ケア、
- ・ 石川看護大：患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成)

## 2、各々の強みを生かした相互補完的教育プログラムを20コース新設

(本科10コース、インテンシブ10コース)

大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換を導入

## 3、TV会議システムを活用した遠隔教育システムの構築

多職種が最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習

# 北信がんプロ実施体制

金沢大 信州大 富山大 福井大 金沢医大 石川看護大

学長連絡協議会

外部評価委員会

**北信がんプロ運営協議会**

- ・ 6大学
- ・ 地域医療機関
- ・ 医師会
- ・ 自治体
- ・ 患者会 等

総務委員会

教務委員会

オンコロジー  
セミナー委員会

がんデータ  
ベース委員会

広報委員会

企画委員会

多職種連携  
委員会

運営一般

カリキュラム  
E-learning教材  
など

演習計画

データベース作成法  
解析法決定  
成果発表法など管理

WEB管理  
印刷物作成  
など

シンポジウム  
市民公開講座  
FD研修など

看護、保健、薬学  
系の事案  
事例検討会の計画  
など

# 各種委員会 委員リスト

※会議はTV会議システムで開催

大学名	総務委員会	教務委員会	広報委員会	がんデータベース委員会	オンコロジーセミナー委員会	企画委員会	多職種連携委員会
金沢大学	矢野 聖二	溝上 敦	大島 正伸	中田 光俊	矢野 聖二	絹谷 清剛	稲垣 美智子
	中田 光俊	鈴木 健之	吉崎 智一	土屋 弘行	中田 光俊	谷本 梓	多崎 恵子
		田嶋 敦		谷本 梓			武村 哲浩
		松下 良					松下 良
		武村 哲浩					崔 吉道
							笠島 里美
							徳丸 季聡
信州大学	中山 淳	中山 淳	塩沢 丹里	小泉 知展	小泉 知展	伊藤 研一	内田 緑
	小泉 知展	中沢 洋三		野見山 哲生	中沢 洋三		間宮 敬子
		小泉 知展		中沢 洋三	塩沢 丹里		
				塩沢 丹里	伊藤 研一		
				伊藤 研一			
富山大学	林 龍二	北村 寛	新田 淳美	林 龍二	藤井 努	北村 寛	安田 智美
	新田 淳美	早川 芳弘	長田 拓哉	関根 道和	梶浦 新也	櫻井 宏明	八塚 美樹
							新田 淳美
福井大学	廣野 靖夫	小林 基弘	廣野 靖夫	吉田 好雄	廣野 靖夫	山下 芳範	上野 栄一
	片山 寛次	磯見 智恵	上野 栄一	黒川 哲司	片山 寛次		繁田 里美
	磯見 智恵	廣野 靖夫					
		片山 寛次					
金沢医科大学	元雄 良治	下平 滋隆	犀川 太	西野 善一	安本 和生	山田 壮亮	北村 佳子
	下平 滋隆	川端 浩	新井田 要	浦本 秀隆	高村 博之	川崎 康弘	
石川県立看護大学	石垣 和子	牧野 智恵	林 静子		今方 裕子	牧野 智恵	牧野 智恵
	牧野 智恵	金谷 雅代	瀧澤 里穂			松本 智里	金谷 雅代



# 北信がんプロ

## 連携校責任者

福井大



廣野靖夫

金沢医大



元雄良治

金沢大



矢野聖二

石川看護大



牧野智恵

富山大



林 龍二

信州大



小泉知展

## 北信がんプロ事務局（金沢大内）

スタッフが一部変わりました

今村 麻左美

石塚 靖志

# 発表内容

- 1、北信がんプロの事業概要
- 2、北信がんプロの予算
- 3、H30年度外部評価委員会の結果と対応
- 4、北信がんプロ事業計画と進捗
  - (1) 教育コース受入れ状況と講義について
  - (2) 地域がんデータベース
  - (3) 広報活動
- 5、今後の予定

# 北信がんプロ令和元年度予算概要

(単位：千円)

	共通	金沢大	信州大	富山大	福井大	金沢 医科大	石川 看護大	合計
直接経費	22,369	10,800	16,700	7,700	11,500	7,700	6,100	81,910
間接経費	2,000	2,000	—	—	—	—	—	4,000
事業額	24,369	12,800	16,700	7,700	11,500	7,700	6,100	86,869

平成29年度 131,900

平成30年度 101,420

# 発表内容

- 1、北信がんプロの事業概要
- 2、北信がんプロの予算
- 3、H30年度外部評価委員会の結果と対応**
- 4、北信がんプロ事業計画と進捗
  - (1) 教育コース受入れ状況と講義について
  - (2) 地域がんデータベース
  - (3) 広報活動
- 5、今後の予定

# H30年度外部評価委員会

2019年3月8日に実施

## 外部評価委員

松浦成昭 全国がんプロ協議会会長  
石岡千加史 東北大学教授  
眞島善幸 患者会 NPOパンキャンジャパン理事長  
澁谷武志 シブヤEDI代表取締役

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」

外部評価委員会議事次第

日時：平成31年3月8日(金曜日) 14時30分～16時00分。  
場所：金沢大学医学部B棟1階応接室。

(進行) 統括コーディネーター 金沢大学附属病院がんセンター教授 矢野 聖二。

### I. 開会挨拶

金沢大学基幹教育改革・附属病院担当理事 大竹 茂樹。

### II. 議 事

1. 配付資料確認。
2. 外部評価の手順、確認 (資料1)。
3. 活動状況報告(北信がんプロ全体) (資料2)。  
(発表30分、質疑応答15分 計45分)。
4. 活動状況報告(連携各大学) (資料3)。  
(発表5分程度、質疑応答5分 計60分程度)。  
① 信州大学 包括的がん治療学教授 小泉 知展。  
② 富山大学 附属病院臨床腫瘍部教授 林 龍二。  
③ 福井大学 がん診療推進センター教授 片山 寛次。  
④ 金沢医科大学 腫瘍内科学教授 元雄 良治。  
⑤ 石川県立看護大学 成人看護学領域教授 牧野 智子。  
⑥ 金沢大学 附属病院がんセンター教授 矢野 聖二。
5. 評価委員・コーディネーター意見交換。
6. 各外部評価委員からの講評。
7. 松浦成昭外部評価委員長 講評(総括)。

### III. 閉会挨拶

金沢大学医薬保健学総合研究科長 堀 修。

### IV. 閉 会 (16:00終了予定)。

## 外部評価結果 (総括)

### 【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

### 【実施状況に関するコメント】

6大学がそれぞれの特徴を活かしながら連携・協力し、人材育成を中心に多様な関連事業に積極的に活動している点は高く評価できる。特に参加大学がすべて、各コースに多くの大学院生、受講生を確保した点、E-ラーニングの内容が質量とも充実した点、ICTを用いたオンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会で学生に良い教育環境を提供している点、ゲノム医療に必要な人材養成に向けての新しい取組み、学内外向けの活発なセミナー・講演会の開催、ホームページ更新による適切な情報提供など、全体としてがんプロ事業が優れた幅広い内容で精力的に実施された点が優れている。さらにレベルアップして全国のがんプロのトップランナーになって頂くことを期待したい。

### (優れた点)

- ・がんプロ大学院コース、インテンシブコースとも予定人数を確保して教育を行っている点
- ・医科系5大学がゲノム医療拠点病院に指定された動きに対応して、がんゲノム多職種連携入門のインテンシブコースを新設し、多職種の教育を行い、ゲノム医療開始に貢献している点
- ・E-ラーニングの教材をそれぞれの専門家が充実した内容で収録し、全国がんプロe-ラーニングクラウドに提供した点
- ・FDの一環として、教員を海外の優れた取組みを学んでいる点
- ・各大学が積極的に市民向けの広報活動を積極的に行い、多くの参加者を得た点
- ・ライフステージ事例検討会はよく練られた内容で非常に優れた取り組みである
- ・ホームページを更新し、内容も充実し、わかりやすい形で整備したことは評価できる。特にがんプロの入学者確保に向けたアナウンスは優れている。また、一般市民向けにもがんに関する情報源として大変有益と評価できる。

### (改善を要する点)

- ・大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生の専門性やバックグラウンドを十分に把握したうえで、養成された人材が地域での新しいテーマに対応するがん医療が推進できるように考慮して頂きたい(評価資料やプレゼンで示して頂きたい)。
- ・オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は大学間連携・多職種連携に重要と考えられ、充実した内容であるが、大学を超えた取組み・多職種の連携を図る教育事業がほかにあまりない点を考えると、もう少し開催数をふやせないか考慮いただき、多職種が参加することによる幅広い議論を望みたい。
- ・各大学がそれぞれ教育内容を分担する形で全体して第3期がんプロのテーマが推進されているのはよく理解できるが、必然的に大学ごとにもみると特定の職種や専門性にばらつきがみられることになる。各地域に必要な人材養成の観点から考えると地域単位(大学単位)での後発的な養成も考慮すべきである。
- ・がんプロの活動内容および成果をもっと発信してアピールすることが望ましい。

# 平成30年度 外部評価委員会からのコメント

## 優れた点

- がんプロ大学院コース、インテンシブコースとも予定人数を確保して教育を行っている点
- 医科系5大学がゲノム医療拠点病院に指定された動きに呼応して、がんゲノム多職種連携入門のインテンシブコースを新設し、多職種の教育を行い、ゲノム医療開始に貢献している点
- E-ラーニングの教材をそれぞれの専門家が充実した内容で収録し、全国がんプロe-ラーニングクラウドに提供した点
- FDの一環として、教員が海外の優れた取り組みを学んでいる点
- 各大学が積極的に市民向けの広報活動を積極的に行い、多くの参加者を得た点
- ライフステージ事例検討会はよく練られた内容で非常に優れた取り組みである
- ホームページを更新し、内容も充実し、わかりやすい形で整備したことは評価できる。特にがんプロの入学者確保に向けたアナウンスは優れている。また、一般市民向けにもがんに関する情報源として大変有益と評価できる。

# 平成30年度 外部評価委員会からのコメント

## 改善を要する点

- 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生の専門性やバックグラウンドを十分に把握したうえで、養成された人材が地域での新しいテーマに対応するがん医療が推進できるように考慮していただきたい（評価資料やプレゼンで示していただきたい）。
- オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は大学間連携・多職種連携に重要と考えられ、充実した内容であるが、大学を超えた取組・多職種の連携を図る教育事業がほかにあまりない点を考えると、もう少し開催回数を増やせないか考慮いただき、多職種が参加することによる幅広い議論を望みたい。
- 各大学がそれぞれの教育内容を分担する形で全体として第3期がんプロのテーマが推進されているのはよく理解できるが、必然的に大学ごとにみると特定の職種や専門性にばらつきがみられることになる。各地域に必要な人材養成の観点から考えると地域単位（大学単位）での後発的な養成も考慮すべきである。
- がんプロの活動内容および成果をもっと発信してアピールすることが望ましい。

# 平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策 1

## 改善を要する点

- 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生の専門性やバックグラウンドを十分に把握したうえで、養成された人材が地域での新しいテーマに対応するがん医療が推進できるように考慮していただきたい（評価資料やプレゼンで示していただきたい）。

## 対応策

- 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生のリストを北信がんプロ事務局が作成し、専門性やバックグラウンドの把握を行う。
- 履修生・受講生のバックグラウンドが理解できる図表を作製し、令和元年度の外部評価委員会で提示する。



## 平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策 2

### 改善を要する点

- オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は大学間連携・多職種連携に重要と考えられ、充実した内容であるが、大学を超えた取組・多職種の連携を図る教育事業がほかにあまりない点を考えると、もう少し開催回数を増やせないか考慮いただき、多職種が参加することによる幅広い議論を望みたい。

### 対応策

- 第1期～第2期がんプロにおいて、セミナーの回数を増加（2週間ごと）させると、1回あたりの参加者数の減少やスタッフ・教員の疲弊を招いた経緯があるため、1回あたりの参加者数および職種数を増加させる対応を行う。
- オンコロジーセミナーに事例やケアに関する内容を多く組みこむ、ライフステージ事例検討会になるべく医師が参加するようなテーマを組みこむよう、対策を講じる。

# 平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策3

## 改善を要する点

- 各大学がそれぞれの教育内容を分担する形で全体として第3期がんプロのテーマが推進されているのはよく理解できるが、必然的に大学ごとにみると特定の職種や専門性にばらつきがみられることになる。各地域に必要な人材養成の観点から考えると地域単位（大学単位）での後発的な養成も考慮すべきである。

## 対応策

- 本来のがんプロの趣旨に基づき、自施設で弱い部分を強みを持った他施設の教材、教員による教育により補い、全体のレベルアップを図る。
- さらに専門性や職種のばらつきにより弱い部分については、自施設での研修会、講習会を開催して強化する。
- 可能であれば、インテンシブコースや大学院コースの立ち上げを行い、大学単位での強化を目指す。

## 各大学の独自の対応策と取組み

- 信州大 2019年度に、新規インテンシブコース「がん専門医療人インテンシブコース」を開設。
- 富山大 がんゲノム医療の充実を目的に、地域医療従事者も含めた「がんゲノム医療研修会」4回、「がんゲノム医療」とテーマとした市民公開講座を2年連続で開催。その結果、2019年9月には厚労省から「がんゲノム医療拠点病院」に指定。
- 福井大 平成27年度から福井県の協力のもと専門医を育成するためのがん専門医育成推進講座を医学部に設置。若手医師の資格取得のためにセミナー受講費や学会参加費、資格試験受験費用、論文投稿費用など専門医取得に必要な経費も含めてサポート。
- 金沢医大 遺伝子改変T細胞療法等の新たながん治療技術に対応できる、専門的な認定者の育成。
- 石川看護大 一般の方に「人生会議」をもっと知ってもらおう市民公開講座を企画。「がんになっても自分らしい人生をすごすために ～今から家族と人生会議(ACP)を～」 2020年3月22日(日) ホテル金沢
- 金沢大 大学院医薬保健学総合研究科の修士課程コースとして「遺伝カウンセリングコース」の新設を令和2年度に予定。  
指導教官：渡邊 淳 特任教授（金沢大学附属病院遺伝診療部）

# 平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策 4

## 改善を要する点

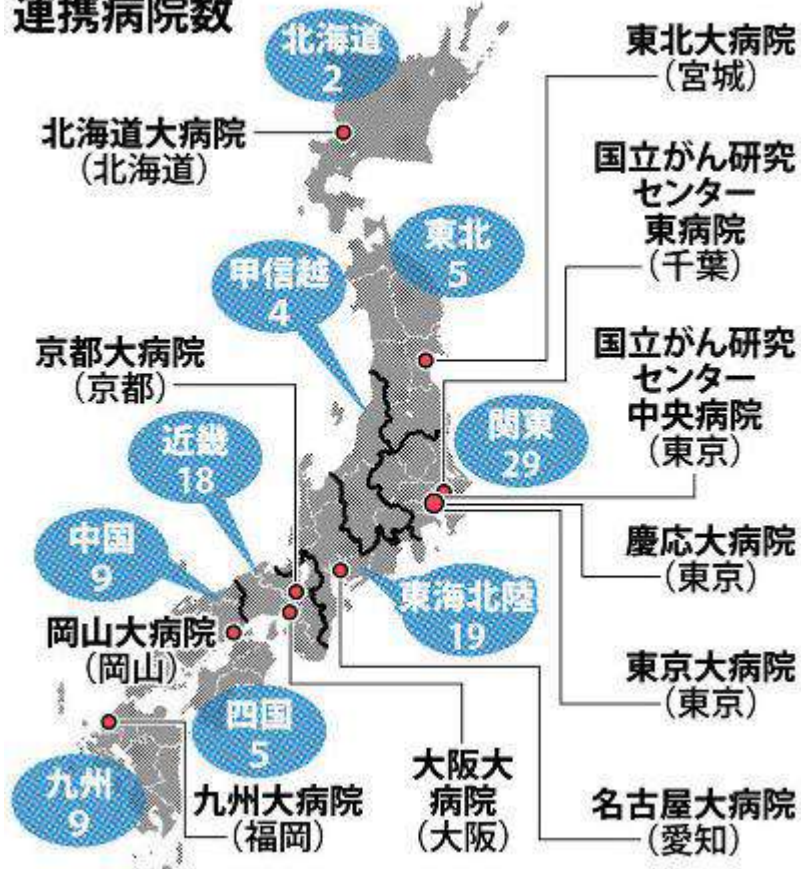
- がんプロの活動内容および成果をもっと発信してアピールすることが望ましい。

## 対応策

- 合同市民公開講座1回、各大学における市民公開講座6～7回を行っているが、さらにその内容を北信4件の新聞社への記事の掲載、ケーブルテレビでの放映などで発信してアピールをする。ホームページのさらなる充実を行う。SNS対応も行っている。

# 北信がんプロの5大学病院はがんゲノム医療連携病院に指定(2018年4月)

## がんゲノム医療の中核拠点病院と連携病院数



連携病院	中核拠点病院
金沢大学	国立がんセンター東病院 慶應義塾大学病院
信州大学	岡山大学病院
富山大学	京都大学医学部附属病院
福井大学	京都大学医学部附属病院 名古屋大学医学部附属病院
金沢医科大学	慶應義塾大学病院



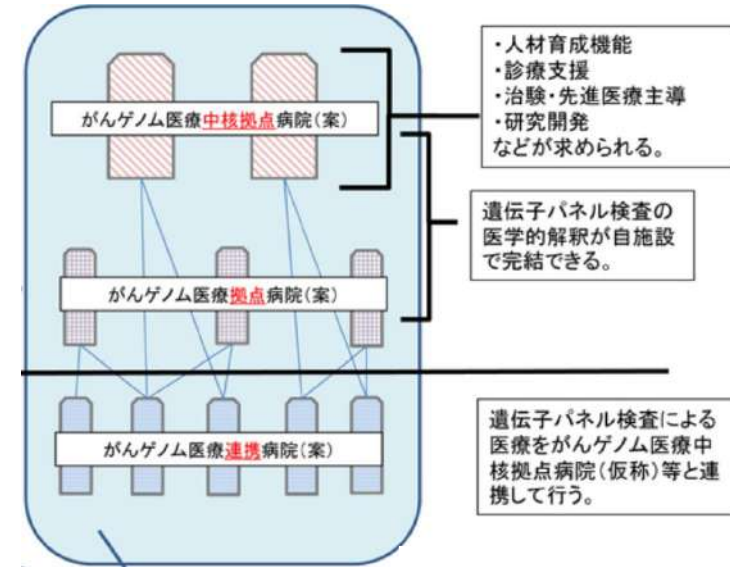
審査委員会(2018/2/14)

# 北信がんプロの3大学病院ががんゲノム医療拠点病院に指定（2019年9月）

## がんゲノム医療拠点病院(34ヶ所)

北海道がんセンター  
弘前大学医学部附属病院  
山形大学医学部附属病院  
筑波大学附属病院  
埼玉県立がんセンター  
埼玉医科大学国際医療センター  
千葉県がんセンター  
がん研究会有明病院  
東京都立駒込病院  
東京医科歯科大学医学部附属病院  
国立成育医療研究センター  
神奈川県立がんセンター  
東海大学医学部附属病院  
聖マリアンナ医科大学病院  
新潟大学医歯学総合病院  
富山大学附属病院  
金沢大学附属病院

信州大学医学部附属病院  
静岡県立静岡がんセンター  
愛知県がんセンター  
三重大学医学部附属病院  
大阪国際がんセンター  
近畿大学病院  
大阪市立総合医療センター  
兵庫県立がんセンター  
神戸大学医学部附属病院  
兵庫医科大学病院  
広島大学病院  
香川大学医学部附属病院  
四国がんセンター  
久留米大学病院  
九州がんセンター  
長崎大学病院  
鹿児島大学病院



# 発表内容

- 1、北信がんプロの事業概要
- 2、北信がんプロの予算
- 3、H30年度外部評価委員会の結果と対応
- 4、北信がんプロ事業計画と進捗
  - (1) 教育コース受入れ状況と講義について
  - (2) 地域がんデータベース
  - (3) 広報活動
- 5、今後の予定

# 北信がんプロ教育コース受入れ目標数

本科生コース 平成30年4月受入れ開始 計10コース

	教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	先端的个人化医療コース	医師・歯科医師	0	5	5	5	5	20
	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	薬剤師	0	1	2	2	2	7
	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース	医学物理士	0	2	2	2	2	8
信州大	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース	医師	0	2	2	2	2	8
	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース	多職種	0	1	1	1	1	4
富山大	高齢がん患者対策専門コース	医師	0	4	4	4	4	16
	個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース	薬剤師	0	1	1	1	1	4
福井大	地域がん専門医養成コース	医師	0	2	2	2	2	8
金沢医大	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース	医師	0	2	2	2	2	8
石川看護大	がんライフステージコース	看護師	0	2	2	2	2	8
合計			0	22	23	23	23	91

インテンシブコース 平成29年10月受入れ開始（一部平成30年4月開始）計11コース

	教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	がんゲノム医療生涯教育コース	医師・歯科医師	2	6	6	6	6	26
	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース	薬剤師	0	1	3	4	4	12
	がんゲノム多職種連携入門コース	多職種	-	10	10	10	10	40
信州大	がん専門医療人養成インテンシブコース	多職種	-	-	5	10	10	25
富山大	高齢がん患者対策専門コース	医師	2	2	2	2	2	10
	個別化医療で支える専門的薬剤師養成コース	薬剤師	1	2	2	2	2	9
	在宅がん緩和リハビリテーションコース	看護師	0	1	2	2	2	7
福井大	在宅栄養管理コース	医師等	0	12	22	22	22	78
	在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	24	96
金沢医大	がん集学的治療医養成コース	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大	がんライフケアコース	多職種	2	5	5	5	5	22
合計			8	66	82	77	77	334



# 北信がんプロの教育コース（受入目標と実績）

（令和元年12月12日現在）

本科生コース（平成30年4月受入開始）

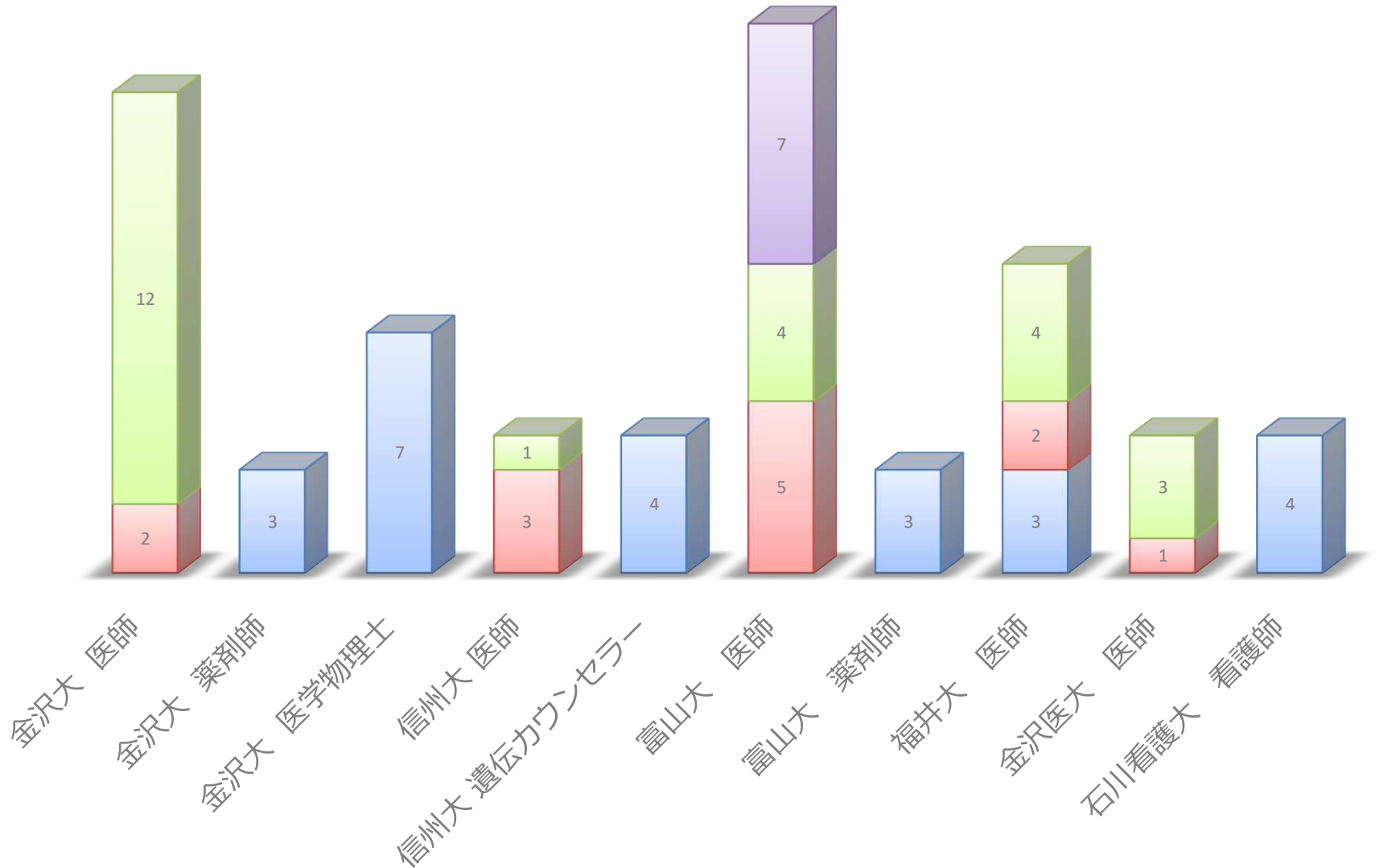
コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5			14
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	2			3
	高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4			7
信州大	ゲノムがん治療医	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1	4	0	1	3			4
富山大	高齢がん患者対策	医師	0	4	4	4	4	16	0	6	10			16
	個別化医療薬剤師	薬剤師	0	1	1	1	1	4	0	1	2			3
福井大	地域がん専門医	医師	0	2	2	2	2	8	0	4	5			9
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
石川看護大	がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3			4
	合計		0	22	23	23	23	91	0	30	38	0	0	68

インテンシブコース 平成29年10月受入開始（一部30年4月受入開始）

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11			25
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3			7
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	13			45
信州大	がん専門医療人養成	多職種	-	-	5	10	10	25	-	-	6			6
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10	2	2	2			6
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9	2	5	2			9
	在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7	0	6	3			9
福井大	在宅栄養管理	多職種	0	12	22	22	22	78	0	23	23			46
	在宅緩和医療	多職種	0	24	24	24	24	96	0	27	24			51
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9	1	2	2			5
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22	3	10	5			18
	合計		8	65	78	79	79	334	10	123	94	0	0	227

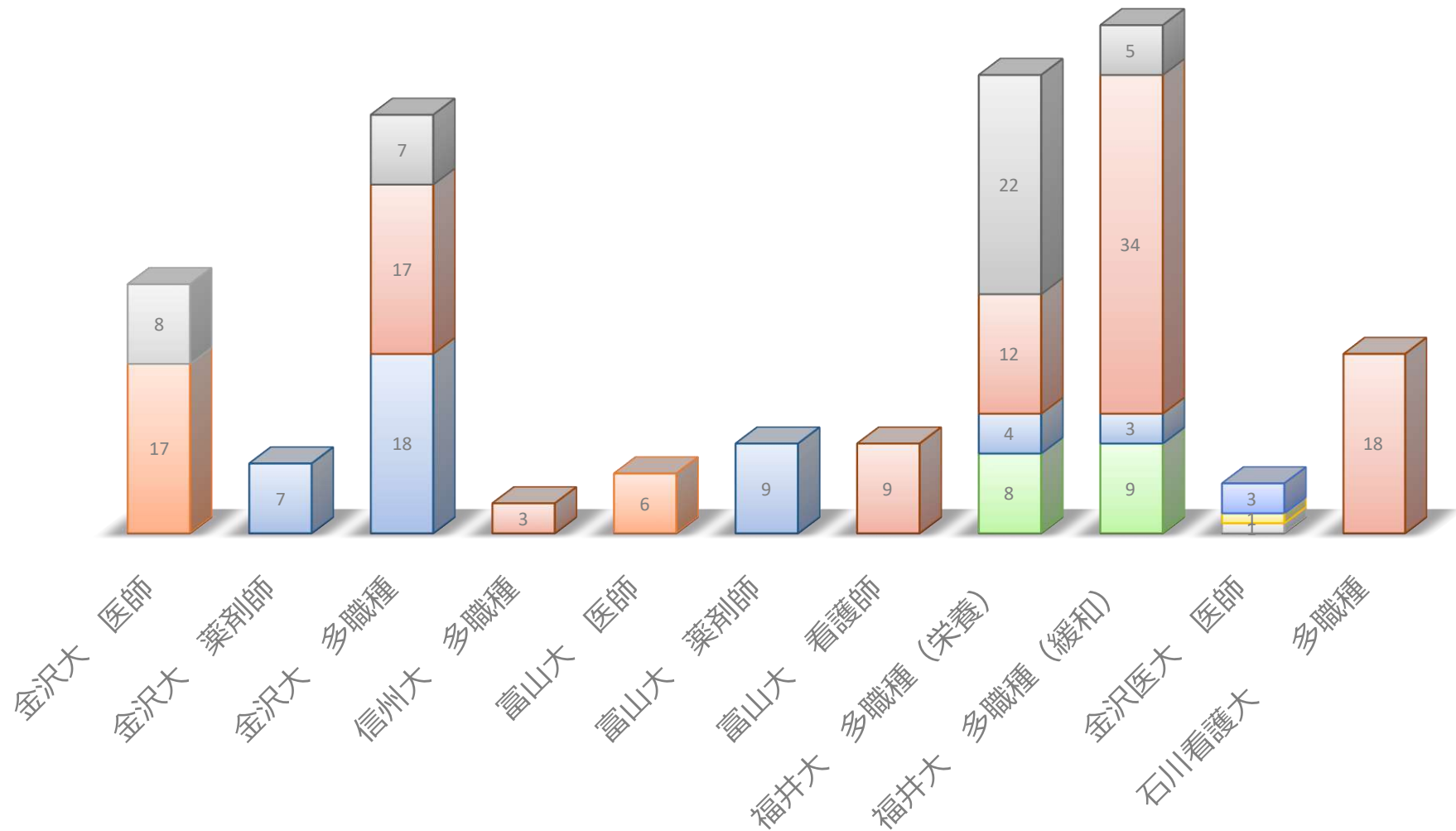
# 本科コース受講生内訳

■ その他 ■ 内科医 ■ 外科医 ■ 学部生



# インテンシブコース受講生内訳

■ 内科医
 ■ 外科医
 ■ 小児科
 ■ 病理
 ■ 医師
 ■ 薬剤師
 ■ 看護師
 ■ その他



# 多職種連携演習

- ・ 目的：最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がん、希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習する演習

## 北信オンコロジーセミナー

- ・ がんの病態、診断、治療に主眼
- ・ 開催頻度：3か月に1回（5年間で18回）

第1回（金沢大） 29.12.8 90名	第6回（金沢大） 31.2.7 69名
第2回（富山大） 30.3.26 92名	第7回（富山大） 01.5.31 115名
第3回（金沢医大） 30.6.29 107名	第8回（金沢医大） 01.9.18 81名
第4回（福井大） 30.9.21 55名	第9回（福井大） 01.11.29 82名
第5回（信州大） 30.11.22 62名	第10回（信州大） 02.2.7 84名

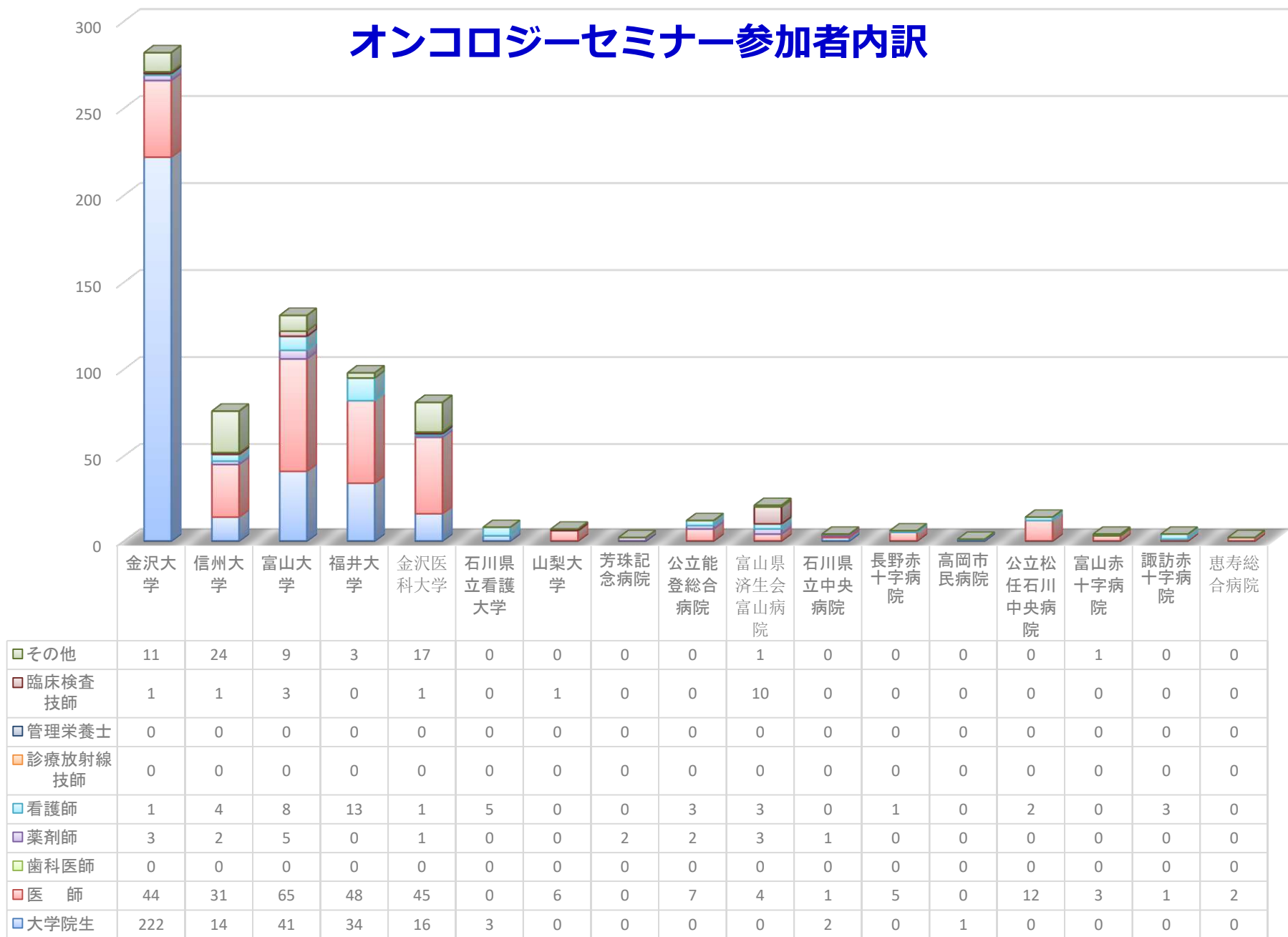
1～10回計 837名参加

## ライフステージ事例検討会

- ・ 患者のケアに主眼
- ・ 開催頻度：年に8回（5年間で30回）
- ・ 石川看護大が主催

(H30年度 参加人数)	(R01年度 参加人数)
第1回 97名	第1回 113名
第2回 85名	第2回 111名
第3回 89名	第3回 98名
第4回 102名	第4回 98名
第5回 118名	第5回 61名
第6回 93名	第6回 100名
第7回 71名	第7回 95名
第8回 77名	第8回 名
計 732名	計 676名

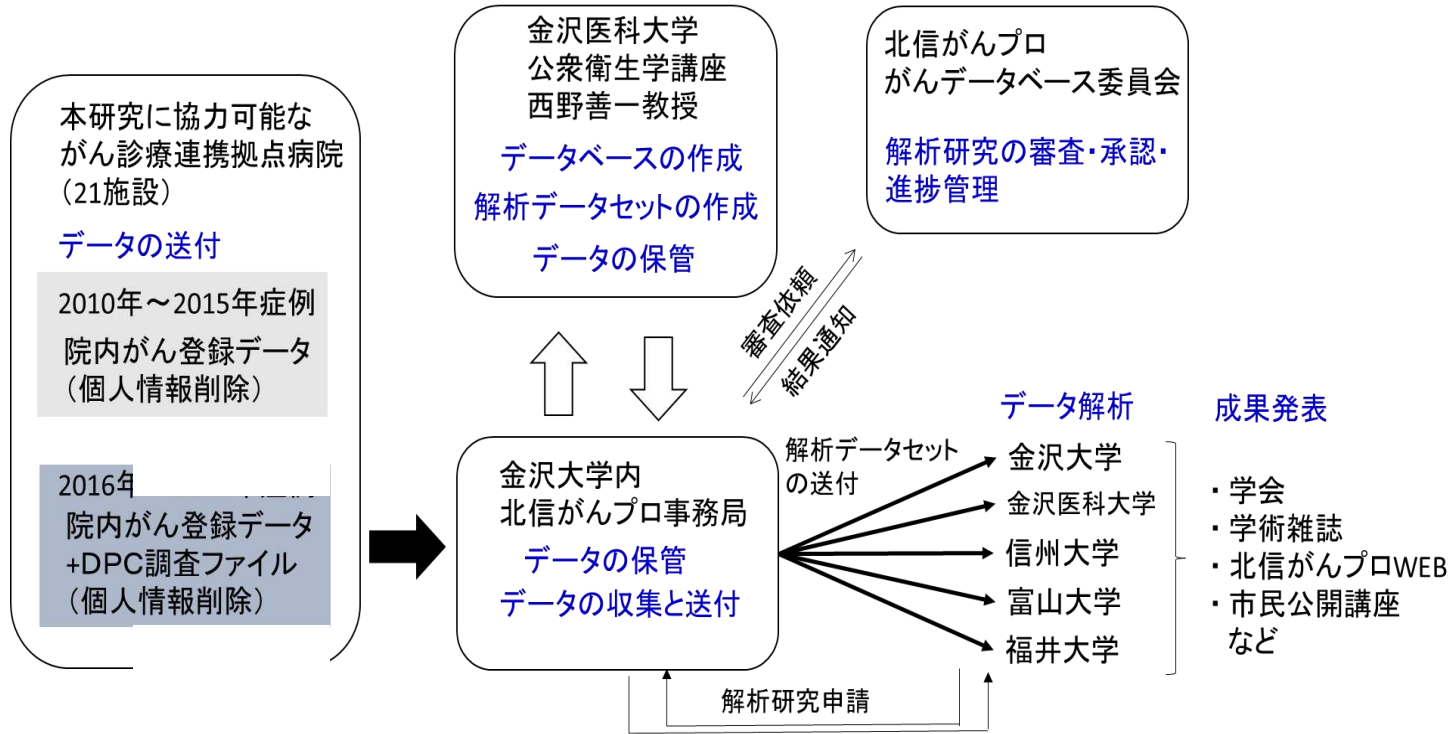
# オンコロジーセミナー参加者内訳



# 発表内容

- 1、北信がんプロの事業概要
- 2、北信がんプロの予算
- 3、H30年度外部評価委員会の結果と対応
- 4、北信がんプロ事業計画と進捗
  - (1) 教育コース受入れ状況と講義について
  - (2) 地域がんデータベース
  - (3) 広報活動
- 5、今後の予定

# 地域がんデータベースの計画と進捗



別紙様式3

審査結果通知書

審査番号 2750-1  
平成30年 4月10日

申請者 矢野 豊二 殿  
(研究実施責任者)

金沢大学がん進展制御研究所長  
平尾 敦

課題名 : 北信地域におけるがん医療の実態を把握するデータベース構築

上記課題にかかる実施計画等について、金沢大学医学倫理審査委員会委員長から審査結果の報告があり、次のとおり判定しましたので通知します。

判定	非該当	承認	条件付承認	変更の勧告	不承認
		○			

勧告あるいは理由  
特段の意見なし。

- 結果通知
- ### 協力施設(22)
- 長野県：信州大学病院、佐久総合病院、諏訪赤十字病院、相澤病院、  
長野赤十字病院、長野市民病院、**長野県立こども病院**
- 富山県：富山大学病院、富山市民病院、黒部市民病院、富山労災病院、  
厚生連高岡病院、高岡市民病院、砺波総合病院、富山県立中央病院
- 石川県：金沢大学病院、金沢医科大学病院、石川県立中央病院、金沢医療センター
- 福井県：福井大学病院、福井県立病院、敦賀医療センター





# データセット1の収集、利用状況について

北信4県のがん診療連携拠点病院より2010年～2015年の院内がん登録データ（22施設）と障がい者医療費受給者証の有無に関するデータ（10施設）を収集しデータベースを構築した

## がんデータベース委員会で承認済の研究課題

### 「高齢者のがん種別治療率の比較」

研究責任者：林 龍二 富山大学附属病院臨床腫瘍部 教授

### 「小児・AYA世代のがん罹患の実態把握」

研究責任者：中沢 洋三 信州大学医学部小児医学教室 教授

### 「胸膜中皮腫の診療実態」、「胸腺癌の診療実態」

研究責任者：浦本 秀隆 金沢医科大学医学部呼吸器外科学 教授

# 発表内容

- 1、北信がんプロの事業概要
- 2、北信がんプロの予算
- 3、H30年度外部評価委員会の結果と対応
- 4、北信がんプロ事業計画と進捗**
  - (1) 教育コース受入れ状況と講義について
  - (2) 地域がんデータベース
  - (3) 広報活動**
- 5、今後の予定



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

- トップ
- 北信がんプロ紹介
- 患者様・一般の方へ
- 医療従事者の方へ
- 受講者向け情報
- 受講者募集
- 事業成果と評価



約132,000件

検索ツール

### 北信がんプロ ～超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成～

gan-pro.net / キャッシュ

文部科学省：平成29年度大学教育再生戦略推進費多様な新ニーズに対応する「がん専門人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン。

- 北信がんプロ紹介
- 受講者募集
- 受講者向け情報
- 事業成果と評価
- 医療従事者の方へ
- お知らせ・活動報告

### 北信がんプロ | 大学院医学研究科 - 金沢医科大学

www.kanazawa-med.ac.jp/graduate/ganpro/ganpro.html - キャッシュ

金沢医科大学大学院医学研究科は、医学・生命科学全般にわたる幅広い学識を基に、独自の医学研究あるいは高度な専門医療を生涯にわたり自立して遂行し、医学の進歩に貢献できる療人の育成を目指しています。

### 北信がんプロ | 福井大学医学部

www.med.u-fukui.ac.jp/laboratory/oncological/ganpro/ - キャッシュ

本事業は、文部科学省の大学間の連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」を養成することで、我が国における...

### がんプロとは | 信州大学 医学部 がんプロ

www.shinshu-u.ac.jp/good\_practice/cancer\_gp/ganpro/ - キャッシュ



- 受講者募集
- 北信がんプロ 市民公開講座
- オンコロジー セミナー
- ライフステージ 事例検討会

## お知らせ

開催日：2020/06/02 **告知** **新着**

令和2年度がんライフステージ事例検討会の開催について 【登録日：2020/02/07】

開催日：2020/03/22 **イベント** **告知**

北信がんプロ2019年度市民公開講座「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」(石川県立看護大学)を開催いたします。 【登録日：2020/01/09】

開催日：2019/12/15 **イベント** **告知**

北信がんプロ 県民公開シンポジウム「がん診療最前線」テーマ：がん治療の新時代(福井大学)を開催致します。 【登録日：2019/11/12】

開催日：2019/11/22 **イベント** **告知**

北信がんプロ 看護セミナー(福井大学)を開催致します。 【登録日：2019/10/04】

開催日：2019/11/17 **イベント** **告知**

北信がんプロ第3回合同市民公開講座「小児・AYA(アヤ)世代のがんを知る」(信州大学)を開催いたします。 【登録日：2019/09/04】



トップ 北信がんプロ紹介 患者様・一般の方へ 医療従事者の方へ 受講者向け情報 受講者募集 事業成果と評価

## 受講者募集

## 受講者募集

ホーム > 受講者募集

ホーム > 受講者募集 > インテンシブコース（公開講座）のご案内

## 受講者募集

## インテンシブコース（公開講座）のご案内

文部科学省 平成29年度大学教育再生戦略推進費  
多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン  
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）教育プログラム・コース履修者募集について

3期北信がんプロでは連携6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補充的教育コース（本科10、インテンシブ9）を新設しました。

定期開催する北信オンコロジーセミナーや、ライフステージ事例検討会の演習と合わせて、地域がん医療の多職種ネットワークの連携・充実の具体的事例とその必要性について学んでいきます。

各教育コースの募集人数・受入数

本科コース

インテンシブコース（公開講座）のご案内

### 北信がんプロ 新教育コース

\*全コース一覧はこちら

- ・がんゲノム医療生涯教育コース（金沢大学）
- ・がん個別化薬物療法実践薬剤師コース（金沢大学）
- ・がんゲノム多職種連携入門コース（金沢大学）
- ・高齢がん患者対策専門コース（富山大学）
- ・高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（富山大学）
- ・在宅がん緩和リハビリテーションコース（富山大学）
- ・在宅栄養管理コース（福井大学）
- ・在宅緩和医療コース（福井大学）
- ・がん集学的治療医療養成コース（金沢医科大学）
- ・がんライフケアコース（石川県立看護大学）
- ・がん専門医療人養成インテンシブコース（信州大学）



北信がんプロ



(金沢大学)



(信州大学)

北信がんプロ  
ホームページ

gan-pro.net

(平成30年10/1～令和元年9/30)

HPアクセス状況 (1年間)

新規ユーザー数 10,727

ページビュー 47,883

ページ/セッション 2.94

(ページ閲覧数/訪問者数)



(富山大学)



(福井大学)



(facebook)

※以下、平成30年4/1～  
平成31年3/30

ホームページ更新状況等

事業全体 60回

金沢大学 58回

信州大 22回

金沢医科大 16回

石川県看護大 31回

SNS

(facebook/Twitter)

事業全体 48回

金沢大 32回

金沢医科大 11回



(金沢医科大学)



(石川県立看護大学)

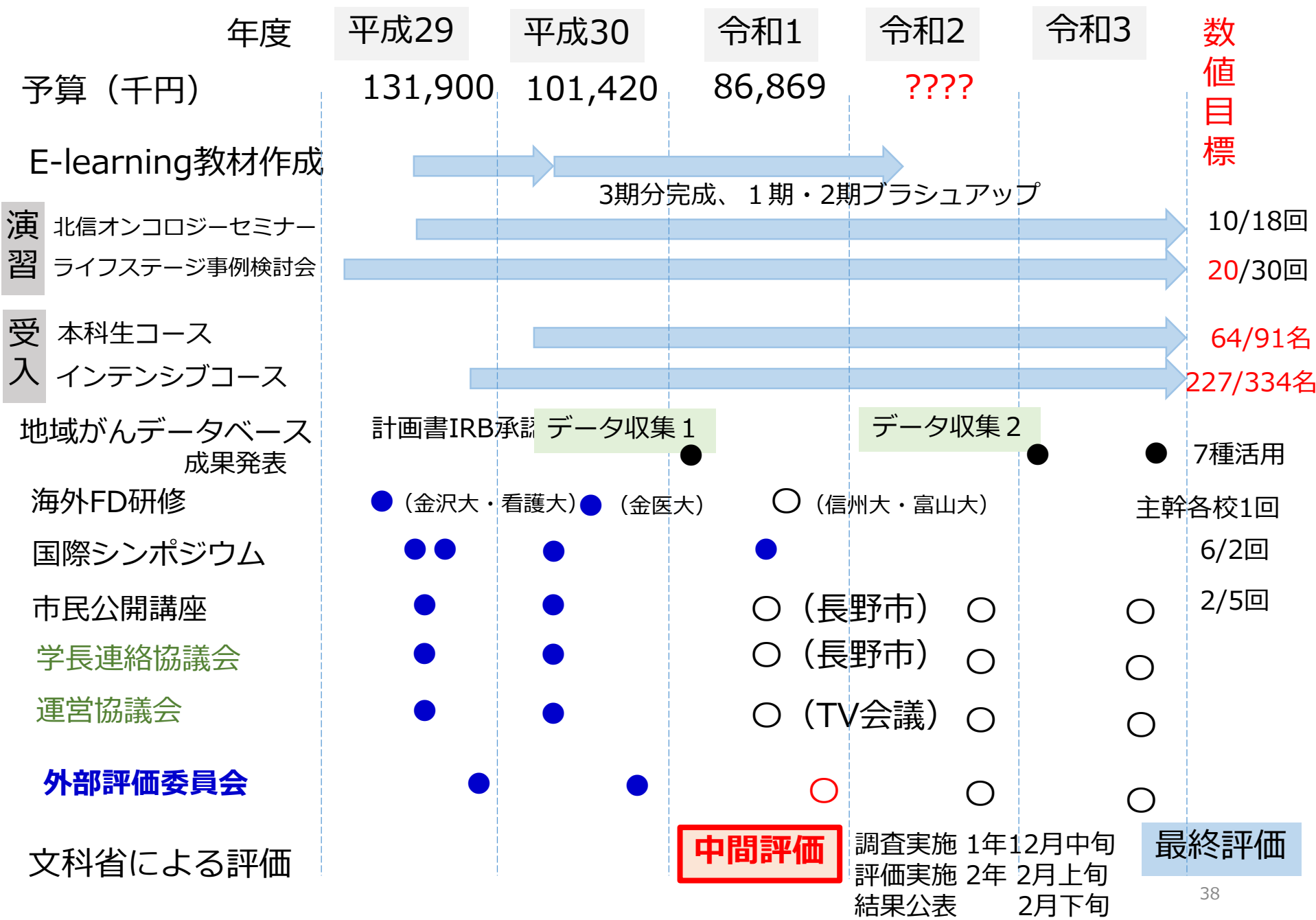


(Twitter)

# 発表内容

- 1、北信がんプロの事業概要
- 2、北信がんプロの予算
- 3、H30年度外部評価委員会の結果と対応
- 4、北信がんプロ事業計画と進捗
  - (1) 教育コース受入れ状況と講義について
  - (2) 地域がんデータベース
  - (3) 広報活動
- 5、今後の予定

# 北信がんプロ全体の今後のスケジュール





## 北信がんプロ

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

今後ともよろしくお願いいたします





第3期北信がんプロ 中間外部評価  
信州大学の取組状況



# コース毎の所属受け入れ学生数

コース名		定数	2018	2019	2020
本科生教育コース	博士課程(ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース)	2	2	2	
	修士課程(がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース)	1	1	3	3名予定
インテンシブコース	がん専門医療人養成インテンシブコース*	5		17*	2020年から定数を10にする予定

\* 2019年度から  
新規開設

充足率 227%

## がんプロ教育コース生の現状(2019年度)

- **博士課程(ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース)**
  - 2018年度;2名 講義主体の単位を取得し独自のテーマで研究開始
    - 1名 がんゲノムEPに毎回参加(小児がんのGermlineの研究)
    - 1名 外勤中 博士論文作成中(CAR-T療法について)
  - 2019年度;2名 がんプロの講義、がんプロセミナーや学内キャンサーボードに参加など 一名は希少がんデータベースの結果を集計
- **修士課程(がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース)**
  - 2018年度 1名 認定遺伝カウンセラー受験資格取得
  - 2019年度 3名 ;がんプロセミナー、ライフステージ事例検討会、学内キャンサーボードおよびがんサロンなどに参加・指導

## 北信がんプロの企画に協力

- 希少がんデータベースの研究  
小児・AYA世代のデータを解析中
- 海外FD研修への参加（平成29-31年度に、毎年2大学が企画）  
平成29年度 金沢大企画 1名、石川看護大企画 2名  
平成30年度 金沢医科大企画（高雄医科大学） 2名  
平成31年度 中止
- オンコロジーセミナーで信州大学は  
第5回および10回を主催
- ライフステージ事例検討会に毎回参加
- 合同市民公開講座（2019年度）を主催

# 希少がんデータベースの研究

第61回 日本小児血液・がん学会学術集会 2019年11月16日 広島

「北信がんプロ・地域がんデータベースを用いた

小児・AYA 世代のがん罹患の実態把握」

信州大学医学部小児科学教室 大倉 絵梨

がんプロ本科生の研究テーマとして学会報告および現在論文執筆中

➤ 希少がんで胸腺がんの本邦における発症頻度を解析

Koizumi T et al JJCO in press

➤ 院内および全国がん登録から見た長野県の肺がんの特徴を解析

田仲百合子 他 肺癌 59:348-353, 2019

# 北信がんプロの企画に協力

## 北信がんプロ 第5回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2018年11月22日(木) 18:00~20:00	各大学・施設 TV会議室
プログラム	

### I. 症例検討会 テーマ「AYA世代のがん症例」

- 【症例1】異所性ACTH産生胸腺神経内分泌腫瘍の一例  
信州大学 医学部附属病院信州がんセンター 奥村太規 先生
- 【症例2】寛解導入療法中に疼痛による長期臥床が誘引と考えられた肺動脈血栓症を合併したT細胞性リンパ芽球性リンパ腫のAYA世代症例  
山梨大学 医学部小児科 原間大輔 先生

### II. 特別講演



#### がん転移前の臓器の転移土壌

信州大学 医学部分子医化学教授 平塚佐千枝 先生！

受講手続き(大学院生)

・受講を希望する学生は履修届を所属大学の学務係に提出してください。

問い合わせ先

・ご不明な点は所属大学の学務担当係または北信がんプロ事務局にお問

オンコロジーセミナーへのご参加お待ちしております！



第5回および10回のオンコロジーセミナーではオブザーバー参加の山梨大学の先生方にも症例提示をお願いし開催した

## 北信がんプロ 第10回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2020年2月7日(金) 18:00~20:00	信州大学医学部 基礎棟5階 第2会議室
プログラム	

### I. 症例検討会

- 【症例1】「10年以上肝転移再発治療も行ってきた乳癌患者に対するがん遺伝子パネル検査」  
山梨大学 第1外科 舘野 井上 慎吾 先生
- 【症例2】「ニボルマブ投与中に劇症1型糖尿病も発症した腎細胞癌の1例」  
金沢大学附属病院 泌尿器科 医師 藤岡 佳樹 先生

### II. 特別講演



#### 「がんゲノム医療の実地臨床における課題」

岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 腫瘍制御学講座(臨床遺伝子医学分野)  
教授 平沢 晃 先生

受講手続き(大学院生)

・受講を希望する学生は履修届を所属大学の学務係に提出してください。

問い合わせ先

・ご不明な点は所属大学の学務担当係または北信がんプロ事務局にお問

オンコロジーセミナーへのご参加お待ちしております！





# 北信がんプロ大学院生交流会(2019.11.17)

合同市民公開講座の後に、がんプロ所属学生の成果・体験発表会を  
指導教官を交えて行う



## がんと 妊孕性温存治療



講師 樋口 正太郎先生 (産科婦人科)

日時 令和2年1月24日 (金) 17:30~18:00

場所 東病棟9階 会議室

研修医向けの勉強会ですが、職員・学生の皆さまもぜひご参加ください。

担当: 医学部臨床研修課 (内線: 6125)

## 小児・AYA世代の がんへの対応



日時 2020年3月1日 (日) 13:00~15:00

参加  
無料 申込  
不要

場所 信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室

対象 どなたでもご参加いただけます  
\*医療者研修会ですが、今回は一般の方もご参加いただけます

### プログラム

講演: 「小児・AYA世代がんの現状」  
大倉 絵梨 医師 信州大学医学部附属病院 小児科



講演: 「がん治療後の晩期合併症  
~長期フォローアップの重要性~」  
盛田 大介 医師 信州大学医学部附属病院 小児科

講演: 「妊孕性温存の実際」  
岡 賢二 医師 信州大学医学部附属病院 産科婦人科

\*車でお越しの際は病院駐車場をご利用ください。駐車場利用料200円をご負担いただけます。  
\*信州大学北信がんプロインセンティブコース対象セミナーになります。  
(本研修の参加証を希望される方は受付で出席票をお受取り下さい。)

◆主催◆ 信州大学医学部附属病院 信州がんセンター  
◆共催◆ 多様な新ニーズに対応する  
「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン (北信がんプロ)



◆問い合わせ先◆  
〒390-8621 松本市旭3-1-1  
信州大学医学部附属病院 医療支援課医療連携係  
TEL: 0263-37-3391 FAX: 0263-37-2854  
E-mail: sca@shinshu-u.ac.jp



# 長野県における妊孕性ネットワークの構築



	精子凍結	卵子凍結	受精卵凍結	卵巣組織凍結	お問合せ先
長野市民病院	○	×	○	×	生殖医療センター
長野赤十字病院	○*1	×	×	×	泌尿器科外来
南長野医療センター 篠ノ井総合病院*2	○*1	○	○	×	産婦人科外来、泌尿器科外来
吉澤産婦人科医院	○*3	×	○	×	外来診療時間内
浅間総合病院	○	×	○	×	産婦人科外来
信州大学医学部附属病院	○	○	○	△	生殖医療センター 月～金 9:00-17:00
諏訪マタニティークリニック	○	○	○	○	月～金 9:00-12:00
菜の花マタニティークリニック	○*3	×	○	×	
西澤病院	○	×	○	×	婦人科外来 月～金 9:00-17:00 土 9:00-12:00

患者用のパンフレット作成



# 信州大学におけるがんプロの 目標および指導体制

- **がんゲノム医療の経験と習得**
- **長野県立こども病院との連携し、小児・AYA世代のがんおよび希少がんの疫学調査と多職種を含めたチーム医療実践や患者支援事業への参加を促すことで、若手医療人の育成へ**

# がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース

- 2018年4月～コース開講

従来の遺伝カウンセリングコース履修内容に、がんに関する講義と実習の場を追加し、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーを養成

- 修了要件

修士課程履修要件 + 遺伝カウンセリングコース必須科目

**+ がんプロコース科目**

**臨床腫瘍学、がんプロ全国共通e-learning、  
がん診療に関連した実習、セミナーへの参加**

- 現在のコース履修生

2018年度 ; 1名 (修了予定)

2019年度 ; 3名

2020年度 ; 3名入学予定

# 履修科目：具体的な内容

---

## <がんプロコース必須科目>

- 臨床腫瘍学：出席とレポートの提出にて単位認定
- e-learning：がんゲノム医療の受講
- エキスパートパネル見学
- がんサロン見学
- がんゲノム外来陪席実習
  - 実習レポート作成
  - 外来陪席実習記録作成







令和元年度 北信がんプロ  
外部評価委員会  
〈富山大学の活動実績〉

富山大学コーディネーター  
富山大学附属病院臨床腫瘍部 林 龍二

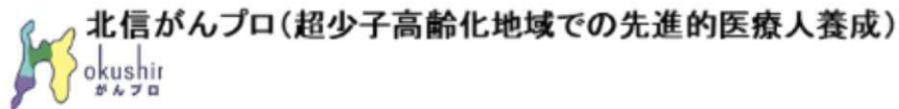
# 2019年の実績

1. 演習・セミナー
2. 地域がん医療の特徴把握
3. スタッフ研修（FD）
4. 市民教育・啓発
5. 教育コース受入状況
6. コース修了者について
7. 地域単位の取り組みについて
8. まとめ

# 1-1. 演習・セミナー

## ＜薬学演習2019＞

薬剤師養成コースでは、学部スタッフ、学外薬剤師の協力を得て講義・実習を行いました。



高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース(大学院生本科・インテンシブ)演習2019

富山大学薬学系では、北信4県の薬学専攻大学院生および薬剤師を対象に演習を実施します。「肺がんの分子標的治療の現状と課題」、「在宅医療と緩和医療」、「がん化学療法における薬剤師の役割～薬物動態の視点から」および「遺伝子変異検出」について、それぞれを専門とする薬学系大学教員による講義・実習をします。奮ってのご参加をお願いします。

日時 令和元年9月14日(土) 13:00～17:00 (予定)

場所 富山大学杉谷キャンパス・薬学研究棟II  
5階 セミナー室5、薬物治療学研究室等

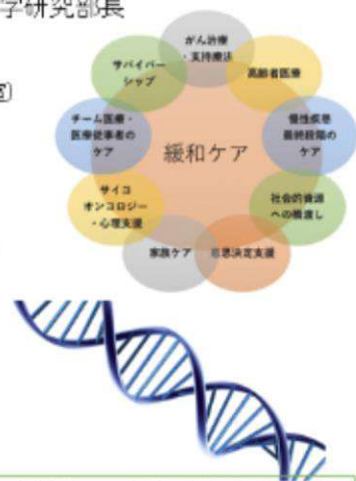
ご挨拶 酒井秀紀 富山大学大学院医学薬学研究部長  
(講義・実習担当)

櫻井宏明 (がん細胞生物学研究室)

田辺 公一 (名城大学薬学部 医薬品情報学研究室)

田口雅登 (医薬品安全性学研究室)

宮本嘉明 (薬物治療学研究室)



実習の準備のため、参加者は9月7日までにお知らせください。参加申込みおよびお問い合わせは、富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)・薬物治療学研究室・新田淳美までお願いします。

(メール [nitta@pha.u-toyama.ac.jp](mailto:nitta@pha.u-toyama.ac.jp)、電話 076-415-8822、8823)

# 1-2. 演習・セミナー

第7回オンコロジーセミナーは、  
富山大学・福井大学医学部附属病院から  
2症例の発表と、特別講演として、  
東北大学大学院 古川 徹教授より  
「膵腫瘍のゲノム解析とゲノム医療」につい  
てわかりやすくご説明いただきました。

(第7回オンコロジーセミナー参加人数：115名)



## 富山大学主催 北信がんプロ 第7回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、  
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2019年5月31日(金) 18:00~20:00	富山大学附属病院2階 カンファレンスルーム2

プログラム テーマ「AYA世代のがん症例」

### I. 症例検討会

- 【症例1】局所進行切除不能膵癌に対するConversion surgeryの2症例  
富山大学大学院医学薬学研究部 消化器・腫瘍・総合外科  
助教 平野 勝久 先生
- 【症例2】長期間のIP治療後に生じた多発肝転移に対してNivolumabが  
奏功したcy陽性胃癌の1例  
福井大学医学部附属病院 消化器外科  
特命助教 成瀬 貴之 先生

### II. 特別講演



#### 膵腫瘍のゲノム解析とゲノム医療

東北大学大学院 医学系研究科医科学専攻  
病理病態学講座 病態病理学分野  
教授 古川 徹 先生

受講に関して

- ・北信がんプロ本科生コース・インテンシブコースの受講科目の単位認定の一部となります。
- ・医学系博士課程の医学特論の単位認定の一部となります。

問い合わせ先

ご不明な点は富山大学学務担当係  
または北信がんプロ事務局にお問い合わせください。



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成  
富山大学北信がんプロ事務局 [富山大学医薬系学務課]  
〒930-0194 富山市杉谷2630番地  
TEL: 076(434)7127 FAX: 076(434)4545

E-mail: [mpin@adm.u-toyama.ac.jp](mailto:mpin@adm.u-toyama.ac.jp) <http://www.gan-pro.net/>

オンコロジーセミナーへの  
ご参加お待ちしております！

# 2. 地域がん医療の特徴把握

[学内研究者用]

西暦 2018 年 5 月 10 日

## 倫理審査申請書

富山大学附属病院長 殿 <sup>1</sup>

### 研究責任者 <sup>2</sup>

所属：臨床腫瘍部

職名：教授

氏名：林 龍二



TEL (内線)：7807

E-mail:hsayaka@med.u-toyama.ac.jp

下記の研究について申請いたします。

記

整理番号	臨30-21 <small>(申請時は空欄のまま提出する。)</small>	
研究の名称	北信地域におけるがん医療の実態を把握するデータベース構築	
ヒトゲノム・ 遺伝子解析	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (研究計画書に遺伝情報の開示を含む取り扱いを記載) <small>(がん等の疾病において病変部位にのみ後天的に出現し次世代には受け継がれないゲノム又は遺伝子の変異を対象とする研究は除く。該当する場合は研究計画書に遺伝情報の開示に係る方針を記載)</small>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書 (版数：8)	27 年 8 月 日付
	<input type="checkbox"/> 説明・同意文書 (版数： )	年 月 日付

[学内研究者用]

西暦 2019 年 5 月 20 日

## 倫理審査申請書

富山大学附属病院長 殿 <sup>1</sup>

### 研究責任者 <sup>2</sup>

所属：附属病院臨床腫瘍部

職名：教授

氏名：林 龍二 印

TEL (内線)：

E-mail:hsayaka@med.u-toyama.ac.jp

下記の研究について申請いたします。

記

整理番号	<small>(申請時は空欄のまま提出する。)</small>	
研究の名称	北信地域における高齢者の癌種別治療率の比較	
ヒトゲノム・ 遺伝子解析	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (研究計画書に遺伝情報の開示を含む取り扱いを記載) <small>(がん等の疾病において病変部位にのみ後天的に出現し次世代には受け継がれないゲノム又は遺伝子の変異を対象とする研究は除く。該当する場合は研究計画書に遺伝情報の開示に係る方針を記載)</small>	
添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書 (版数：1 )	2019 年 5 月 16 日付
	<input type="checkbox"/> 説明・同意文書 (版数： )	年 月 日付
	<input checked="" type="checkbox"/> 研究対象者等への情報公開文書 (版数：1 )	2019 年 5 月 16 日付
	<input type="checkbox"/> 臨床研究保険契約書写し又は見積書 <input type="checkbox"/> 提出予定	年 月 日付
	<input type="checkbox"/> 主機関の承認文書写し	年 月 日付
	<input type="checkbox"/> モニタリング計画書 (版数： )	年 月 日付
	<input type="checkbox"/> 監査計画書 (版数： )	年 月 日付

# 3-1. スタッフ研修 (FD)

## 第10回 日本臨床腫瘍学会

### 北信越地区セミナー

#### —がんゲノム時代と免疫療法—



日時 2019年11月30日(土) 13:30-17:00  
 会場 富山国際会議場 多目的会議室(2階)  
 〒930-0084富山市大手町1番2号  
 当番世話人 富山大学附属病院  
 臨床腫瘍部 林 龍二

#### プログラム

開会挨拶 (13:30-13:35)

#### I. 特別報告 (13:35-14:45) 「がんゲノム医療への各施設の取り組み」

座長: 富山県立中央病院 小川浩平先生

##### ①金沢大学附属病院より

演者: 金沢大学附属病院 がんセンター 竹内伸司先生

##### ②金沢医科大学病院より

演者: 金沢医科大学病院 腫瘍内科 安本和生先生

##### ③富山大学附属病院より

演者: 富山大学附属病院 臨床腫瘍部 樋浦新也先生

##### ④福井大学医学部附属病院より

演者: 福井大学附属病院 がん診療推進センター 廣野靖夫先生

##### ⑤新潟大学医学部総合病院より

演者: 新潟大学医学部総合病院 腫瘍内科 松本吉史先生

(休憩15分)

#### II. 教育講演 (15:00-15:40) 「がん免疫療法」

座長: 厚生連高岡病院 柴田和彦先生

##### ①血液領域のIO治療

演者: 富山大学附属病院 血液内科 佐藤勉先生

##### ②泌尿器がんに対する免疫療法

演者: 富山大学附属病院 泌尿器科 北村寛先生

(休憩15分)

#### III. 特別講演 (15:55-16:55)

座長: 富山大学附属病院 臨床腫瘍部 林龍二先生

##### 「がん免疫応答におけるNK細胞の役割」

演者: 富山大学附属病院 病態制御研究部門 早川芳弘先生

閉会挨拶 (16:55-17:00)

セミナー後、ご希望の方には懇親会がございます。ご予約の上、当日参加費5,000円をお支払いください。

主催: 日本臨床腫瘍学会

共催: 富山大学附属病院集学的がん診療センター・北信がんプロ

後援: 富山市

問い合わせ: 富山大学附属病院 臨床腫瘍部 林 龍二

電話: 076-434-7808 メール: tsuneda@med.u-toyama.ac.jp



### 乳がん領域のがんゲノム医療

日時: 2020年1月29日(水)  
 17:30~18:30

場所: 多目的研修室(総合臨床教育センター2階)

演題  
**—がんゲノム医療—**

講師  
 田村 研治 先生

国立がん研究センター中央病院  
 乳癌・腫瘍内科 科長  
 通院診療センター センター長

2018年12月に、「OncoGuide<sup>SM</sup> NCC オンコパネルシステム」と「FoundationOne CDx (F1CDx)」の2つの遺伝子パネルが薬事承認された。演者は、NCC オンコパネルの承認に向けた複数の前向き研究(TOP-GEAR project)と先進医療における主研究者である。これらの臨床研究の結果を元に、現時点でのがんゲノム医療の有用性と限界、又、近未来のがんゲノム医療の展開について講演する。

【当研修会は、医学系博士課程の医学特論の単位認定の一部となります】  
 この研修会は、AYA世代に関する研修会の一部です。  
 富山大学附属病院集学的がん診療センター・北信がんプロ  
 富山大学附属病院 臨床腫瘍部(集学的がん診療センター)  
 〒930-0194 富山市彩谷2630 TEL:076-434-7808/FAX:076-434-6112

〈共催〉  
 富山大学附属病院 臨床腫瘍部  
 〈お問い合わせ先〉  
 〒930-0194 富山市彩谷2630 TEL:076-434-7808/FAX:076-434-6112

### 2019年度 がん医療に携わる医師に対する コミュニケーション 技術研修会

「悪い知らせ」を伝えられることは、患者とその家族にとって衝撃的な出来事であり、その後の日常生活に大きな影響を与え、場合によっては治療の選択を誤らせることが知られています。また同時に「悪い知らせ」を伝える側の医療者にとっても大きなストレスを伴います。この研修会では、患者が納得したうえで安心して治療法等の選択ができるように、患者-医師間のコミュニケーションの質の向上を目的としています。

開催日  
 2020年  
 2月1日(土)・2月2日(日)  
 (2日間通しての研修会です)

会場  
 厚生連高岡病院  
 会議室2

落ち着いた環境のもとで、演技力に定評のある模擬患者を相手に合計8時間のロールプレイ実演を行います。

受講者の声  
 ●今までは「自分が話すこと」ばかりに注意を向けていましたが、この研修会を受講して、「患者さんの言葉をよく聴き、受け止めること」が大切であるということ学びました。  
 ●ロールプレイを通して、本を読むだけでは習得できないスキルを学ぶことができました。

● 共 催: 厚生連高岡病院、富山大学附属病院、北信がんプロ(文部科学省「がん専門医療人材」養成プラン)  
 ● 協 力: 一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会 / 特定非営利活動法人 日本緩和医療学会  
 ● 受 講 料: がん診療経験年数3年以上の医師  
 ● 時間(予定): 1日目 10:00~18:00 / 2日目 8:30~15:00  
 ● 受 講 料: 無料 ※グループで食事をする際の昼食代として2,000円(2日分)及び受講のための費用(交通費、宿泊費等)は受講者負担となります。  
 ● 内 容: 乳がん、再発、抗がん治療の中止など悪い知らせを患者に伝えるロールプレイ(詳細は <http://www.share-cst.jp/index.html> をご確認ください)  
 ● お申し込み: 厚生連高岡病院 総務課 吉田 TEL: 0766-21-3930代 申込用紙にご記入の上、FAX [0766-24-9509] までお送りください。  
 ● お申込み期限: 2019年12月6日(金)

SHARE  
 JSTM  
 JPOS

富山大学附属病院  
 臨床腫瘍部

## 3-2. スタッフ研修 (FD)

**陽子線がん治療センター、  
治療の実際**

日時：2020年2月5日(水)  
19:00~

場所：多目的研修室（総合臨床教育センター2階）

 福井県立病院陽子線がん治療センター長をお迎えし  
陽子線がん治療のこれまでの診療実績などを  
ご説明いただきます。  
たくさんの方のご来場をお待ちしております。

 C17位重決心装置

 福井県立病院 陽子線がん治療センター長  
玉村 裕保 (たまむら ひろやす)

〈お問い合わせ先〉 富山大学附属病院 臨床研修部（集学的がん診療センター）  
〒930-0194 富山市杉谷 2630 TEL:076-434-7808/FAX: 076-434-5112

**AYA世代のがんの就労  
に関するワークショップ**

※AYA世代とは、15歳～39歳のことを意味します。

一講師一  
一般社団法人CSRプロジェクト代表理事  
がんサージョロジー代表取締役社長  
**桜井 なおみ 先生**

**AYA世代の自立  
～がん経験の“オキドコロ”を考える～**

東京生まれ。入学で都市計画を学んだ後、卒業後はコンサルティング会社に  
てまちづくりや環境学などの仕事に従事。2004年30代でがん診  
断後は自らの経験を活かし、小児がんを含めた患者・家族の支援活動を開  
始。現在に至る。一般社団法人CSRプロジェクト代表理事、がんサ  
ージョロジー代表取締役社長、第21回入団入賞会特別賞受  
賞、社会イノベーター公認2012 掲載入会出題。

日時：2020年2月6日(木)  
18:30~20:00

場所：富山大学附属病院 多目的研修室  
（総合臨床教育センター2階）

※当研修会は、医学系博士課程の医学特修の単位認定の一環となります。

〈共催〉 富山大学附属病院 集学的がん診療センター・北信がんプロ  
〈お問い合わせ先〉 富山大学附属病院 臨床研修部（集学的がん診療センター）  
〒930-0194 富山市杉谷 2630 TEL:076-434-7808/FAX: 076-434-5112

## 3-3. スタッフ研修 (FD)

### <海外FD研修>

台北医学大学、台北医学大学雙和病院への  
訪問視察

<テーマ>

- ・「がんゲノム医療」
- ・「がん免疫」
- ・「台湾におけるがん診療」

日程：2020年2月17日（月）～21日（金）

参加予定人数：10名

➤ **新型コロナウイルスによる影響を  
考慮し、中止を決定。**

台北医学大学  
TAIPEI MEDICAL UNIVERSITY

okushin  
がんプロ 北信がんプロ

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

北信がんプロ  
海外FD研修 参加者募集

研修期間 2020年2月17日(月)～2月21日(金) 予定

北信がんプロでは、事業の一環として、教員、研究者及び医療従事者を海外研究機関へ派遣し、後日TV会議システムを活用したFD講演会で成果発表を行うことにより、北信地域のがん医療の国際化と教育のキャリア形成を図っています。

この度、富山大学・信州大学主催の事業を案内いたしますので、ぜひご応募ください。

〈訪問先〉 台北医学大学、台北医学大学雙和病院  
台北医学大学へ「がんゲノム医療」「がん免疫」「台湾におけるがん診療」を  
テーマに訪問視察を行います。

参加費用：がんプロ予算から支弁(現地での食事代金等は自己負担となります)

申込締切:11月6日(水) ※お名前・所属・役職・ご連絡先を記載の上、メールにてお申し込みください。

募集人員：12名(連携6大学全体) ※応募者多数の場合は選考  
【参加申し込み・問い合わせ先】  
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)  
富山大学医薬系学務課 北信がんプロ担当(経田)  
TEL 076-434-7127 FAX 076-434-4545 e-mail: mpin@adm.u-toyama.ac.jp



# 4-1. 市民教育・啓発

9月16日（月・祝）に、がんゲノム医療市民公開講座を開催し、270名の皆様にご参加いただきました。

特別講演では、京都大学大学院 武藤学教授より「がんゲノム医療の実際とこれから」についてわかりやすくご説明いただきました。



富山大学附属病院

がんゲノム医療

市民公開講座

～がんゲノム医療の到来～

日時

2019年(令和元年)

9月16日 月 12:30 開場・受付  
13:00 ▶ 16:00

会場

富山国際会議場大手町フォーラム  
3F メインホール  
〒930-0084 富山市大手町1番2号  
☎076-424-5931

特別講演  
「がんゲノム医療の  
実際とこれから」

京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学 教授

武藤 学

入場無料

■ 講師 ■ 一般講演

腫瘍腫瘍計測部長・診療講師  
第一内科 診療部長・診療准教授  
第二外科 診療教授  
放射線科 診療准教授  
第三内科 診療准教授

松浦 浩志  
堀又 雄彦  
長田 祐哉  
中島 彰博  
安藤 幸司

■主催：富山大学附属病院

■共催：北信がんプロ 文部科学省「多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」

■後援：富山県・富山市・富山県医師会・富山市医師会・富山県薬剤師会・富山市薬剤師会・富山県看護協会・富山県がん診療連携協議会

■お問い合わせ

がんゲノム医療市民公開講座事務局

株式会社ジェック経営コンサルタント

TEL.076-444-0035

FAX.076-444-1135

E-mail.genome@jeck.com



## 4-2. 市民教育・啓発

10月20日（日）に、緩和ケア市民公開講座を行いました。

サバイバーでもある樋口強先生の迫力ある落語をお聞きし、笑いながら、患者の気持ちを勉強できました。



**参加無料**  
定員 800名 先着順  
どなたでもお申し込みいただけます。

～生きる希望と勇気を笑いにのせて～

がんを経験した樋口 強 先生による「いのちの落語」をお届けいたします。また、パネルディスカッションでは、がん診療・緩和ケアに精通した医師・薬剤師・看護師としてサバイバーの立場から、皆様のご質問にお答えいたします。

**抗がん剤！**

**最高の**

**笑いは**

第一部  
講演 **樋口 強先生**  
いのちの落語家・作家

「いのちの落語  
-生きてるだけで金メダラー-」

第二部  
「緩和ケアについて」  
富山大学附属病院 緩和ケアセンター 樋浦 新也 先生

パネルディスカッション  
議長 富山大学附属病院 緩和ケアセンター 樋浦 新也 先生  
ゲスト 富山大学附属病院 緩和ケアセンター 樋浦 新也 先生  
富山大学附属病院 緩和ケアセンター 樋浦 新也 先生  
富山大学附属病院 緩和ケアセンター 樋浦 新也 先生  
富山大学附属病院 緩和ケアセンター 樋浦 新也 先生

### 2019年 富山大学附属病院 緩和ケア市民公開講座

日時 2019年10月20日（日） 18:30～  
(開場13:00)

会場 富山国際会議場  
3階メインホール  
富山県富山市1番2号



主催 富山大学附属病院、富山県立がんセンター、富山県がん対策推進協議会  
協賛 富山県、富山県立がんセンター、富山県がん対策推進協議会、富山県がん対策推進協議会、富山県がん対策推進協議会



# 5. 教育コース受入状況

◎ **本科・インテンシブ全コースにおいて目標を達成しています。**

＜本科生＞

**高齢がん患者対策専門コース**

目標：4名 新規受入れ：10名 (250%)

**高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門薬剤師養成コース**

目標：1名 新規受入れ：2名 (100%)

＜インテンシブコース生＞

**高齢がん患者対策専門コース**

目標：2名 新規受入れ：2名 (100%)

**高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門薬剤師養成コース**

目標：2名 新規受入れ：2名 (100%)

**在宅がん緩和リハビリテーションコース**

目標：2名 新規受入れ：3名 (150%)

(↓次ページ：教育コースの受入目標と実績)

# 5. 教育コース受入状況

## 北信がんプロの教育コース（受入目標と実績）

本科生コース(平成30年4月受入開始)

(令和元年10月31日現在)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5			14
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	1			2
	高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4			7
信州大	ゲノムがん治療医	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1	4	0	1	3			4
富山大	高齢がん患者対策	医師	0	4	4	4	4	16	0	6	10			16
	個別化医療薬剤師	薬剤師	0	1	1	1	1	4	0	1	2			3
福井大	地域がん専門医	医師	0	2	2	2	2	8	0	4	2			6
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
石川看護大	がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	1			2
	合計		0	22	23	23	23	91	0	30	32	0	0	62

インテンシブコース 平成29年10月受入開始(一部30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	2			16
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	0			4
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	0	10	10	10	10	40	0	32	3			35
信州大	がん専門医療人養成	多職種	0	0	5	10	10	25	-	-	0			
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10	2	2	2			6
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9	2	5	2			9
	在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7	0	6	3			9
福井大	在宅栄養管理	多職種	0	12	22	22	22	78	0	24	7			31
	在宅緩和医療	多職種	0	24	24	24	24	96	0	26	10			36
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9	1	2	1			4
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22	3	10	1			14
	合計		8	65	78	79	79	309	10	123	25	0	0	158

## 6. コース修了者について

「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）」において、1名の修了者がありました。

### 修了証書

■■■■■■■■■■ 殿

あなたは、北信がんプロ「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）」を受講し修了されましたのでこれを証します

がんプロ科目名称

「分子腫瘍学特論」 「臨床統計学特論」  
「臨床栄養学特論」 「がん緩和医療学特論」  
「がん治療におけるゲノム医療演習」  
「地域包括医療でのがん治療演習」  
「ライフステージ事例検討演習」

2019年10月10日

北信がんプロフェッショナル養成プログラム

統括コーディネーター 矢野 聖二



# 7. 地域単位の取り組みについて ～がんゲノム医療への取り組み～

2018年度4回のがんゲノム医療研修会

**第1回 富山県  
がんゲノム医療研修会**

日 時：2018年5月18日(金曜日) 午後6時～

場 所：富山大学附属病院 2階 臨床講義室2  
対 象：富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、その他がん診療に関わるすべての人

**ゲノムバイオマーカー  
に基づくがん最適化医療**

講師：富山大学附属病院がんゲノム医療センター  
土原 一哉 先生

**第2回 富山県  
がんゲノム医療研修会**

日 時：2018年6月9日(土曜日) 10:00～

場 所：富山大学附属病院 総合臨床教育センター2階 多目的研修室  
対 象：富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、その他がん診療に関わるすべての人

**がんゲノム医療  
の臨床実装について**

講師：富山大学附属病院 がんゲノム医療センター  
武藤 学 先生

**第3回 富山県  
がんゲノム医療研修会**

日 時：2018年11月14日(金曜日) 午後6時～

場 所：富山大学附属病院 2階 大講義室  
対 象：富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、その他がん診療に関わるすべての人

**がんゲノム医療  
リキッドバイオプシーとは**

講師：富山大学附属病院がんゲノム医療センター  
池田 貞勝 先生

**第4回 富山県  
がんゲノム医療研修会**

日 時：2018年11月22日(木曜日) 午後6時～

場 所：富山大学附属病院 総合臨床教育センター2階 多目的研修室  
対 象：富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、その他がん診療に関わるすべての人

**ゲノム医療時代の  
がん診療**

講師：富山大学附属病院 がんゲノム医療センター  
櫻井 晃洋 先生

2018, 19年市民公開講座

**富山大学附属病院  
がんゲノム医療  
市民公開講座**

～がん治療の新たな可能性～

日 時：2018年9月22日(土) 10:30 ▶ 12:45

場 所：富山国際会議場大手町フォーラム 3F メインホール  
〒930-0084 富山県富山町1番2号  
☎076-424-5931

特別講演  
「がんのゲノム医療」  
国立がん研究センター  
理事兼、部長  
中 釜 斉

講師：富山大学附属病院 臨床遺伝部 教授 中 釜 斉  
富山大学附属病院 臨床遺伝部 部長 佐 藤 孝  
富山大学附属病院 臨床遺伝部 部長 佐 藤 孝  
富山大学附属病院 臨床遺伝部 部長 佐 藤 孝  
富山大学附属病院 臨床遺伝部 部長 佐 藤 孝

**富山大学附属病院  
がんゲノム医療  
市民公開講座**

～がんゲノム医療の到来～

日 時：2019年(令和元年)9月16日(日) 12:30 ▶ 16:00

場 所：富山国際会議場大手町フォーラム 3F メインホール  
〒930-0084 富山県富山町1番2号  
☎076-424-5931

特別講演  
「がんゲノム医療の  
実際とこれから」  
富山大学大学院医学研究科腫瘍学専攻 教授  
武藤 学

講師：富山大学附属病院 臨床遺伝部 教授 中 釜 斉  
富山大学附属病院 臨床遺伝部 部長 佐 藤 孝  
富山大学附属病院 臨床遺伝部 部長 佐 藤 孝  
富山大学附属病院 臨床遺伝部 部長 佐 藤 孝



Press Release

令和元年9月19日  
照会先 健康局がん・疾病対策課  
課長 楠 佐 空席(内線2975)  
課長 楠 佐 成田(内線2987)  
(代表番号)03-5253-1111

34 医療機関を「がんゲノム医療拠点病院」として初めて指定します

厚生労働省は、本日付で以下の34 医療機関を「がんゲノム医療拠点病院(※)」として、初めて指定しますので、お知らせいたします。  
指定される医療機関は、令和元年9月5日「第2 回がんゲノム医療中核拠点病院等の指定に関する検討会(座長：中釜斉 国立研究開発法人国立がん研究センター理事長)」で、指定することが適当とされた医療機関です。  
厚生労働省としては、引き続き、がんゲノム医療を推進していきます。

(※) がんゲノム医療を提供する機能を有する医療機関として、がんゲノム医療の拠点となる病院です。

- 北海道がんセンター
- 弘前大学医学部附属病院
- 山形大学医学部附属病院
- 筑波大学附属病院
- 埼玉県立がんセンター
- 埼玉医科大学国際医療センター
- 千葉県がんセンター
- がん研究会有明病院
- 東京都立駒込病院
- 東京医科歯科大学医学部附属病院
- 国立成育医療研究センター
- 神奈川県立がんセンター
- 東海大学医学部付属病院
- 聖マリアンナ医科大学病院
- 新潟大学医学部総合病院
- 富山大学附属病院
- 金沢大学附属病院
- 信州大学医学部附属病院
- 静岡県立静岡がんセンター
- 愛知県がんセンター
- 三重大学医学部附属病院
- 大阪国際がんセンター
- 近畿大学病院
- 大阪市立総合医療センター
- 兵庫県立がんセンター
- 神戸大学医学部附属病院
- 兵庫医科大学病院
- 広島大学病院
- 香川大学医学部附属病院
- 四国がんセンター
- 久留米大学病院
- 九州がんセンター
- 長崎大学病院
- 鹿児島大学病院

※ 指定期間：令和元年9月19日から令和4年3月31日まで

## 8. まとめ <2019年 課題>

1. 演習・セミナーの開催は予定通りだが、受講者数を伸ばす必要がある。
2. いよいよデータベースの活用に着手。来年度には成果物が期待できる。
3. FDに関しては富山大学・信州大学主催による海外FDを企画するも、残念ながら中止となった。
4. 市民教育・啓発活動は持続性をもって行っている。がんゲノム医療の啓発も充実している。
5. 教育コース受け入れは目標を上回っている。慢心せずに、来年度の受け入れ強化も行う。
6. 修了者のチェック、評価も確実に行っていく。

令和元年度  
北信がんプロ 外部評価委員会

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

# 北信がんプロ福井大学

福井大学病院

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター  
腫瘍病態治療学講座  
廣野 靖夫

矩形範囲指定(R)

Ctrl+Alt+F5

ER





# 北信がんプロ 公開講座・セミナー

# 第9回 オンコロジー セミナー

## 北信がんプロ 第9回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、  
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2019年11月29日(金) 18:00~20:00	各大学・施設 テレビ会議室

### プログラム

#### 症例検討

【症例1】 脛体尾部切除を行った多発性骨髄腫の肺病変の1例

福井大学医学部附属病院 消化器外科  
講師 小練 研司 先生

【症例2】 HER2陽性再発性乳房外Paget病に対する  
Trasuzumab + paclitaxel療法-5例の経験

信州大学医学部附属病院 信州がんセンター  
医学科3年生 久保田 冨英 先生

#### 特別講演



新たながん医療において、  
がん医療従事者に求められる  
意思決定支援を含めた患者支援

国立がん研究センター  
がん対策情報センターがん医療支援部  
部長 加藤 雅志 先生

#### 受講手続き (大学院生)

- ・受講を希望する学生は履修届を所属大学の学務係に提出してください。
- ・詳細は所属大学の学務係にお問い合わせください。

#### 問い合わせ先

ご不明な点は所属大学の学務担当係  
または北信がんプロ事務局にお問い合わせください。

ご参加お待ちしております！

# 同日開催 緩和ケアセミナー

## 学外の医療従事者も対象

# がん医療に携わる医療者が 知っている役立つ 家族ケア・遺族ケア

日時：2019年11月29日(金)  
17:00 ~ 17:45

会場：臨床小講義室

参加無料  
当日参加可

対象：医師・看護師・  
その他の医療スタッフ

講師：国立がん研究センター  
がん対策情報センターがん医療支援部  
部長 **加藤 雅志** 先生

国立がん研究センターでがん患者さんのご家族やご遺族の方のための専門外来「家族ケア外来」をされている精神科医師が医療者向けにご講演くださいます。

◆ ◆ ご興味のある方は引き続きご参加ください ◆ ◆  
( 当日参加 大歓迎! )

北信がんプロ第9回オンコロジーセミナー  
同日18:00~20:00

◆プログラム◆  
●症例検討 (2例)  
●特別講演 「新たながん医療において、  
がん医療従事者に求められる  
意思決定支援を含めた患者支援」

主催

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター (3355)

共催

北信がんプロ

# 北信がんプロ 看護セミナー

## 超少子高齢化地域での先進的 がん医療人養成 (北信がんプロ) 看護セミナー



患者のニーズに沿った寄り添う看護

日時:令和元年11月22日(金) 17:30~19:00 (17:00開場)

参加費無料

場所:福井大学医学部 講義棟1階 合併講義室

対象:看護職、医療・福祉関係者、一般市民



### 【基調講演】

「私たちは心の声を聞いているか？」

講師 名古屋市立大学病院 精神看護専門看護師 田端 恭兵

### 【事例検討】

講師 名古屋市立大学病院 精神看護専門看護師 田端 恭兵

座長 福井大学医学部看護学科臨床看護学分野 教授 磯見 智恵

(敬称略)

主催:超少子高齢化地域での  
先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

(金沢大学、福井大学、富山大学、金沢医科大学、石川県立看護大学、  
福井大学 共同開催事業)

共催:福井大学大学院医学系研究科

後援:福井県看護協会

お問い合わせ・お申込み:

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合目23-3

福井大学医学部腫瘍病態治療学分野

E-mail [gpro-fukui@ml.u-fukui.ac.jp](mailto:gpro-fukui@ml.u-fukui.ac.jp)

TEL 0776-61-8857 FAX 0776-61-8656

申込み締切:11月15日(金)

※定員になり次第締め切らせていただきます

# 北信がんプロ 医療者セミナー

県内の医療関係者対象



そ、それも今の時点では予測するのは難しいですね  
医師の予想は当たらないと言われて  
え...でもそれは  
もうそんなに真意をいってことですか  
ですから...それははっきり申し上げることは...  
6ヶ月後  
先生として  
本物のことって  
どうしたら  
そうですね  
一度入院  
しましょうか  
仕事...  
入院したら...  
そうですね...

## アドバンスケアプランニングを知っていますか？

～本人・家族・医療者とで考える生き方～

**2019/12/13 (金)**  
**18:30～20:00**



講師

川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター  
腫瘍内科/緩和ケア内科

西智弘先生

参加無料

場所

福井大学医学部附属病院  
臨床小講義室

対象

医療・福祉関係者



「後どれくらい生きられますか？」と聞かれたら...  
誰もが苦手意識を持つ「もしもの時についての話し合い」  
や「余後の告知」に関して、過去の文献や行動経済学など  
さまざまな視点からご講演いただきます。

明日からは、日常臨床でのコミュニケーションに、より自信  
が持てるようになります！

先生が出版されている、アドバンスケアプランニングや悪い知らせの伝え方等の概念・具体的なテクニックが満載の本です。

# 北信がんプロ 県民公開 シンポジウム

ゲノム医療・AYA・  
ロボット手術などを  
取り上げています  
260名参加

北信がんプロ 県民公開シンポジウム  
**がん診療最前線**  
がん治療の新時代



納得できる医療を求めて。

◎福井県県民ホール（アオッサ8階）

定員：300名

◎令和元年12月15日（日） 13:30～15:50（予定）  
開場=13:00

参加費無料  
当日参加も可能

司会進行・開会挨拶 福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター センター長 廣野 靖夫

講演1.「最新の大腸癌治療」

福井大学医学部附属病院 消化器・乳腺内分泌外科 教授 五井 孝憲 先生

講演2.「保険診療に向けたがんゲノム医療の展開」

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 副センター長 根来 英樹 先生

講演3.「ガンになっても子供はできますか?」

福井大学医学部附属病院 産科婦人科 講師 折坂 誠 先生

講演4.「胃癌腹膜転移の新治療」

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター センター長 廣野 靖夫 先生

講演5.「がんと栄養」

福井大学医学部がん専門医育成推進講座 特命教授 片山 寛次 先生

質疑応答 がんに対するQ&A(事前募集)

参加ご希望の方は、FAX・メール・ハガキのいずれかで申し込み下さい。  
QRコードからお申し込みできます。

お問い合わせ・申し込み:  
〒910-1193 福井県吉田郡永平町松岡下合月23-3  
福井大学医学部附属病院がん診療推進センター「県民公開シンポジウム」係  
Tel.0776-61-8857 Fax.0776-61-8656 gpro-huh@ml.u-fukui.ac.jp



お申込みはコチラから

県民の皆さまが対象です。

この講座は、がんと向き合っている患者さんやご家族の方はもちろん、一般の方にもご参加いただける公開講座です。

主催

超少子高齢化地域での  
先進的がん医療人養成  
(北信がんプロ)

創設者 実践力  
福井大学



okushin  
がんプロ

# 北信がんプロ 県民公開 シンポジウム

本年1月26日(日)の福井新聞  
朝刊の全面を使って  
ダイジェストを報告

## 北信がんプロ 県民公開シンポジウム がん診療最前線 がん治療の新時代

近年、医療の急速な発達によりがん治療の常識も変わり、がん治療は新時代となりつつあります。第13回目を迎えた「北信公開シンポジウム がん診療最前線」(2019年12月15日、アオアシ県民ホールにて開催)では、福井大学医学部の専門医らが「がん診療の新時代」をテーマに講演し、それぞれの立場から最新のがん診療について講演し、約200名の参加者は、これからのがん治療の動きについて疑問を解かれました。

※「福井大学医学部での最新のがん治療(北信がんプロ)」は、北信がんプロ協会の主催で開催し、福井大学医学部の協賛で開催されています。



福井大学 理学部  
福井大学 医学部  
福井大学 看護学部  
福井大学 歯学部  
福井大学 薬学部  
福井大学 工学部  
福井大学 経済学部  
福井大学 法学部  
福井大学 文学部  
福井大学 国際学部  
福井大学 情報学部  
福井大学 芸術学部  
福井大学 体育学部  
福井大学 音楽学部  
福井大学 音楽学部

最新の大腸癌治療  
福井大学 消化器内科学 教授 五井 孝憲 氏

大腸は小腸に続いて右下腹から始まり、おなかのなかを大きく大きく回り、紅い口を開いて、肛門に繋がります。長さ約1.2メートル、細い腸管に分けられ、次第とよみながら大きく膨らんでいくのが大腸です。大腸がんは多くは、腸管の内壁に発生するがんが原因で、腸管の壁が厚くなっていくのが特徴です。大腸がんは、大腸のどこかで発生し、大腸の壁を突き破ると、リンパ管や静脈管を介して、他の臓器に転移することがあります。大腸がんは、大腸の内側に発生するがんが原因で、腸管の壁が厚くなっていくのが特徴です。

がん治療の新時代  
福井大学 消化器内科学 教授 荒井 謙次 氏

近年、がんは、遺伝子の異常が原因で発生し、その異常が遺伝子によって引き起こされています。がんは、遺伝子の異常が原因で発生し、その異常が遺伝子によって引き起こされています。がんは、遺伝子の異常が原因で発生し、その異常が遺伝子によって引き起こされています。がんは、遺伝子の異常が原因で発生し、その異常が遺伝子によって引き起こされています。

胃腸癌転移の新治療  
福井大学 消化器内科学 教授 荒井 謙次 氏

胃がんは日本に多く見られます。胃がんは日本に多く見られます。胃がんは日本に多く見られます。胃がんは日本に多く見られます。胃がんは日本に多く見られます。胃がんは日本に多く見られます。胃がんは日本に多く見られます。胃がんは日本に多く見られます。

がんに対するQ&A  
福井大学 消化器内科学 教授 荒井 謙次 氏

Q: がんはどのようにして発生するのでしょうか?  
A: がんは、遺伝子の異常が原因で発生し、その異常が遺伝子によって引き起こされます。がんは、遺伝子の異常が原因で発生し、その異常が遺伝子によって引き起こされます。

# 北信がんプロ 医療者セミナー

インテンシブコース受講の看護師対象

医療スタッフのための

# がん患者の外見ケア 教育研修

日時：2020年1月20日(月)  
17:15～18:00



会場：がんセンター  
(B棟2階EVホール中央側)

対象：がんプロインテンシブコース受講者  
その他の医療従事者

講師：通院治療センター専任看護師  
笹川 良明

参加費：無料  
事前申し込みは不要です



# 北信がんプロ 医療者セミナー

## 福井大学名誉教授/がん専門医育成推進講座特命教授 片山寛次先生退職記念 セミナー

テーマ

「医療の基本である栄養、  
目的である緩和を実践してきた32年」



北陸がんプロ、北信がんプロをコーディネータとして支えてこられた片山先生に栄養と緩和について記念講演をして頂きます。



対象：医学生、大学院生、医師、看護師、その他の医療スタッフ(特にがんプロ受講生)

日時：令和2年3月13日(金)16:30～18:00

会場：臨床大講義室

主催：福井大学医学部がん専門医育成推進講座

共催：北信がんプロ



トップ

北信がんプロ紹介

患者様・一般の方へ

医療従事者の方へ

受講者向け情報

受講者募集

事業成果と評価

## 受講者向け情報

ホーム > 受講者向け情報 > 講義シラバス（講義概要）・開講状況の閲覧

### 講義シラバス（講義概要）・開講状況の閲覧

福井大学担当

在宅緩和医療学特論  
臨床栄養学特論  
老年医療学特論

小児・AYA世代の特徴  
希少がん（小児・AYA世代以外）  
放射線生物学  
その他

# 北信がんプロの教育コース（受入目標と実績）

（令和元年11月5日現在）

## 本科生コース（平成30年4月受入開始）

		職種	人数	H29	H30	R1	R2	R3	合計
福井大学	地域がん専門医	医師	目標	0	2	2	2	2	8
			実績	0	4	5			9

## インテンシブコース 平成29年10月受入開始（一部30年4月受入開始）

		職種	人数	H29	H30	R1	R2	R3	合計
福井大学	在宅栄養管理	多職種	目標	0	12	22	22	22	78
			実績	0	23	23			46
	在宅緩和医療	多職種	目標	0	12	24	24	24	96
			実績	0	27	24			51

# E-Learning コンテンツ



ライフステージにおける壮年期がん医療  
入院期間を最短化する  
外科治療と就労支援

福井大学 医学部 第一外科

廣野 靖夫

在宅栄養療法

福井大学医学部がん専門医育成推進講座  
片山寛次

在宅静脈栄養療法

福井大学医学部がん専門医育成推進講座  
片山寛次



小児・AYA世代の特徴  
精神心理・社会的特徴

福井大学 子どものこころの発達研究センター

小坂 浩隆



在宅経腸栄養療法

福井大学医学部がん専門医育成推進講座  
片山寛次

在宅における緩和と栄養

福井大学医学部がん専門医育成推進講座  
片山寛次



がん患者の栄養療法

福井大学医学部がん専門医育成推進講座  
片山寛次

在宅における終末期の輸液栄養

福井大学医学部がん専門医育成推進講座  
片山寛次

在宅における終末期の  
消化器症状緩和

福井大学医学部がん専門医育成推進講座  
片山寛次

# がんプロ寄附講座 “腫瘍病態治療学講座” のその他業務と業績

# 在宅緩和ケア地域連携パス



この日記は、あなた自身のことを書くものです。あなたの日々の症状だけでなく、希望や目標、大切にしたいことなども自由に書きましょう。

これを見ることであなたのその時の状態や飲み薬の効果などが一目でわかるように作られています。

難しいところは医師や看護師、薬剤師さんなどに記入してもらいましょう。

ご家族と話し合われたことなど、気がついた時に書き留めておくのにも利用してください。

福井県では、平成23年に紙ベースの**県内統一がん在宅緩和ケアパス**の作成を開始し、平成24年から運用開始。平成27年度からはパスの運用を福井県がん連携協議会の委託を受け**福井大学**が中心となって行っている。



在宅緩和ケア地域連携パスの三県合同利用・臨床研究(追加研究)が進行中

福井大学における  
がん診療の啓蒙冊子を作成  
県内の医療機関に配布

現在Ver3を作成中  
令和2年4月発刊予定

# がん診療 最前線

福井大学医学部附属病院における  
最新のがん診療とケア



## 第2回福井県緩和ケアチーム検討会 ～一歩一歩～

### 検討会の目的

緩和ケアチームの相互交流を通じて、県内の各緩和ケアチームの特徴を活かした質の向上を目的とする。

### 検討会の目標

【午前】セルフチェックプログラムを用い、自施設の緩和ケアチームにおける課題を明らかにして、他院チームの意見を受け、改善計画を作成する。

【午後】他施設との相互評価（ピアレビュー）を行う上での課題を解決して、年度内に可能な実施計画を策定する。

※ともにPDCAサイクルを意識して、改善していくことを考え検討する。

### 対象者・人数

- ・7施設の緩和ケアチームメンバー 48名
- ・8職種

### 懇親会 時間

- ・7月16日(月・祝) 午後18:30～20:30
- ・懇親会:



## 第3回

# 福井県緩和ケアチーム検討会

～ポップ、ステップ、ジャンプ!! そして、出会いだ～

日時 2019年7月15日(月・祝)

場所 福井県済生会病院 東館3階 大研修室  
(福井市和田中町舟橋7-1)

講師 坂下 明大氏  
(神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター 特定教授)

対象 : 県内すべての緩和ケアチーム(拠点・非拠点問わず)

定員 : 10チーム(1チーム3名以上)

内容 :

- ・他施設との交流の中でチーム活動についての課題をPDCA化する
- ・チーム間のピアレビュー活動についての検討

受講費 : 無料

主催 : 福井県済生会病院

<問い合わせ先>

福井県済生会病院 集学的がん診療センター

〒918-8503 福井市和田中町舟橋7-1 TEL:0776-23-1111(代) FAX:0776-28-8527

本年も6施設から多職種が参加し、チーム活動の課題をPDCA化し、ピアレビュー活動の準備を行いました



# 2019年度福井県緩和ケアチーム研修 ピアレビュー施設間調整

	日時	丹南病院 ⇒ 福大病院	福大病院 ⇒ 丹南病院
訪問 日程		10月30日(水) 13:10 病院到着 13:20～14:30 病棟カンファ 14:00～16:00 科インテーク、院内見学 16:00～17:00 チームカンファ 17:30 質疑応答後、解散 担当:児玉麻衣子、椿貴佳、水野智之、廣野靖夫、片山寛次、上谷幸男、小林美貴、高野智早 訪問:北島竜美、白崎麻純、清水留美、佐野晶子、遠藤築、水上良恵、玉川奈那、玉村晃	11月8日(金) 14:00～15:00 病院到着、科インテーク 15:00～16:00 病棟・チームカンファ 16:30 質疑応答後、解散 担当:北島竜美、白崎麻純、清水留美、佐野晶子、遠藤築、水上良恵、玉川奈那、玉村晃 訪問:児玉麻衣子、水野智之、片山寛次、上谷幸男、松尾英明、高山マミ、早瀬美香、三嶋一輝、小林美貴、高野智早
事後 報告 日程		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にチェックリスト送付</li> <li>・ピアレビュー1か月以内に報告書送付</li> <li>・ピアレビューの結果、改善した項目についても送付(2020年2月29日まで)</li> </ul>	

ほかにも以下の拠点病院間でピアレビュー施行

福井県立病院 ⇔ 福井県済生会病院

敦賀医療センター ⇔ 福井赤十字病院

# ピアレビュー：合同カンファレンス



公立丹南病院緩和ケアチームが福井大学病院を訪問

# がん教育 モデル授業



2019年度 福井大学公開講座

福井ライフ・アカデミー連携

## がんについて学ぼう -自分のため、家族のために-

対象

中学生、高校生

がん教育に関わる教職員、医療者

【日 時】2019年7月13日(土) 13:30-16:30

【会 場】ACSSA 7階 大学連携センター Fスクエア

【受講料】無料

身近な病気  
がんについて、  
学びましょう。



司会: 廣野 靖夫

(福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 准教授)

講師: 長谷川 正俊

(奈良県立医科大学医学部 教授)

講師: 片山 寛次

(福井大学医学部 がん専門医育成推進講座 特命教授)

講師: 児玉 麻衣子

(福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教)



がん教育の先進県より、有名な長谷川先生を招いて、お話を伺います。がん教育に関わる教職員・医療者向けにも、奈良県のがん教育の取り組みをご紹介します。

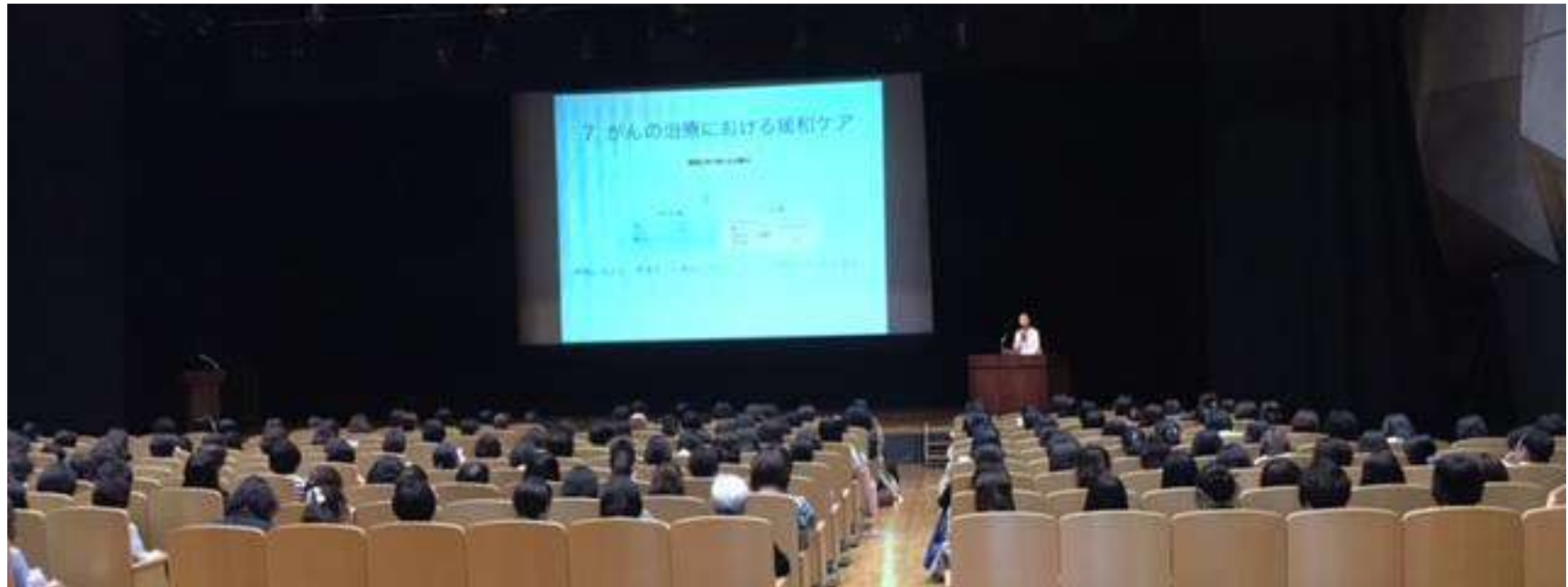
申込期間: 2019年6月13日(木)AM9:00 ~ 7月9日(火)

定員数: 30名

【お問合せ／お申込み】 福井大学地域創生推進本部

TEL: 0776-27-8060(直通) 受付: 平日 9:00 ~ 17:15 FAX: 0776-27-8878 HP <http://chiiki.ad.u-fukui.ac.jp>

# 福井県の保健体育・養護教員に対する がん教育の講義



一昨年度は養護教員約500名，昨年度は保健体育の教諭約500名  
今年度は校長・教頭約500名

# 福井大学の教育学部生に対する がん教育の講義



昨年度からは福井大学教育学部でがん教育の講習は必修に  
年2コマ施行

# がん教育：モデル授業

県内統一の授業スライドを作成し、各がん拠点病院に試用してもらいました。



# 福井大学の 専門医育成のための取り組み



# がん専門医育成推進講座の設置

- 福井県はがんに関連した専門医が不足.
- 特に病理専門医、放射線治療専門医、がん薬物療法専門医の不足が顕著.
- そのため、平成27年度から福井県の協力のもと、専門医を育成するためのがん専門医育成推進講座を医学部に設置.
- 昨年度まで福井大学コーディネーターをされていた片山寛次先生が本年度から特命教授に就任.

# がん専門医育成推進講座の役割

- 若手医師の資格取得のためにセミナー受講費や学会参加費，資格試験受験費用，論文投稿費用などの専門医取得に必要な経費も含めてサポート.
- 対象は前述の3つの専門医を目指す若手医師で，取得後も県内の医療機関で勤務が可能な者.
- 令和元年9月30日現在，18名が在籍中.
- 本年度は放射線治療専門医1名及びがん薬物療法専門医1名が誕生.



令和元年度

北信がんプロ 外部評価委員会

金沢医科大学

元雄 良治

# 【教育コース学生受け入れ状況】

# 北信がんプロの教育コース(受入目標と実績)

本科生コース(平成30年4月受入開始)

(令和元年11月5日現在)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5			14
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	1			2
	高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4			7
信州大	ゲノムがん治療医	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1	4	0	1	3			4
富山大	高齢がん患者対策	医師	0	4	4	4	4	16	0	6	10			16
	個別化医療薬剤師	薬剤師	0	1	1	1	1	4	0	1	2			3
福井大	地域がん専門医	医師	0	2	2	2	2	8	0	4	2			6
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
石川看護大	がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3			4
		合計	0	22	23	23	23	91	0	30	34	0	0	64

インテンシブコース 平成29年10月受入開始(一部30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11			25
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3			7
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	9			41
信州大	がん専門医療人養成	多職種	-	-	5	10	10	25	-	-	1			1
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10	2	2	2			6
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9	2	5	2			9
	在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7	0	6	3			9
福井大	在宅栄養管理	多職種	0	12	22	22	22	78	0	23	22			45
	在宅緩和医療	多職種	0	24	24	24	24	96	0	27	24			51
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9	1	2	2			5
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22	3	10	6			19
		合計	8	65	78	79	79	334	10	123	84	0	0	218

# 【事業の取組状況】

2019.6.17

## 北信がんプロ海外FD研修(台湾高雄)報告会

出席者 46名

(臨床・基礎の医師、基礎研究者(理学・薬学)、  
看護師の多職種)

研修参加者 13名(1名代理)から発表

※前回学長連絡協議会指摘事項:

共通様式の報告書は参加者全員提出済



### 出席者からの感想

- ・他国でどのような役割を担っているか知ることができた。
- ・アカデミアと地域(社会)の共生がとても素晴らしいと思いました。
- ・統合データベースは国内では是非すすむとよいと思った。
- ・海外の場合、国内と全く異なる発想を学べる。
- ・海外FD研修会に今後参加を考えている人には雰囲気が出る報告会でよかった。



## ■ 北信がんプロ海外FD研修(台湾高雄)からその後

2019年 高雄医療體系 / 高雄市長小港醫院 / 高雄醫學大學附設中和紀念醫院から  
医師の短期研修受入、樹状細胞ワクチンの加工技術及び免疫モニタリング技術研修



- ① **Dr. Shih-Hao Tang (唐世豪)** 2019年1月14日(月)– 2月23日(土)  
Division of Hematology and Oncology  
Kaohsiung Municipal Siaogang Hospital, Kaohsiung, Taiwan
- ② **Dr. Yu-Chieh Su (蘇裕傑)** 2019年1月14日(月)– 1月18(金)  
Associate Professor of Medicine,  
Director, Division of Hematology-Oncology,  
Kaohsiung Medical University Hospital, Kaohsiung, Taiwan



## 北信がんプロ海外FD研修(台湾高雄)からその後



### 金沢医科大学と台湾・高雄医学大学との大学間交流に関する覚書調印式 平成31年2月25日、高雄医学大学、高雄、台湾

金沢医科大学は、信州大学に続き、台湾高雄医学大学と学術的及び教育的協力関係を発展させるべく、覚書調印式が執り行われました

- 教育・研修、国際医療支援、国際共同研究(再生医療学)
- 看護交流、派遣(6月)・受入(9月)
- 学生の交流
  - 医学研修の実施(相互派遣型)
  - 教員の相互派遣、国際学会の実施
  - 看護学部生派遣へ向けて本学看護学部教員との協議

2019.07.10



# 第36回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 (演習として開催)

## 「ゲノミクスの病理解剖への応用」

前田 大地 先生

大阪大学大学院医学系研究科  
先端ゲノム医療学共同研究講座 特任教授

担当: 清川 悦子 病理学 I 教授

参加職種: 医師、学部学生、大学院生、基礎研究者、臨床検査技師、診療放射線技師等

### 出席者からの感想

- ・テーマは「がん」であったが、他の疾患にも応用できるとのことで、参考となった。
- ・とても可能性にあふれた研究であると感じました。
- ・スライドが分かりやすく、話も分かりやすかった。
- ・難しい内容でしたが、楽しく参加しました。とても興味深かったです。

等々多数のご意見をいただきました。

2019.07.25

# 第37回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 (演習として開催)

第37回 腫瘍病理セミナー  
北信がんプロFD講演会  
染色体末端領域テロメア・サブテロメアから  
生命の基本原理を探る

染色体の構造  
テロメア  
サブテロメア

大阪大学 蛋白質研究所  
細胞核ネットワーク研究室 独立准教授  
加納 純子

1996年 大阪大学理学部生物科学科卒業  
1998年 大阪大学大学院理学研究科修士課程修了  
2000年 大阪大学大学院理学研究科博士課程修了  
2002年 大阪大学大学院理学研究科博士課程退学  
2003年 大阪大学大学院理学研究科博士課程修了  
2005年 独立准教授

「DNAの複製が完了するとともに起こることを知られています。染色体の端にあるDNAと接する重要な領域として、染色体の安定性を維持してくれます。細胞が正常な細胞としてDNAを複製するときに、染色体の端やサブテロメア領域の複製が、正常な複製を阻害していることが知られています。また、サブテロメア領域はサブテロメア領域の複製と関係が深く、サブテロメア領域の複製が正常に進行しないと、染色体の不安定化やがん発生のリスクが高まることが知られています。本セミナーでは、テロメアやサブテロメアに関する最新の研究結果をご紹介します。」

日時：2019年7月25日（木）18時30分～20時  
会場：大阪大学 基礎研究棟3階大学西ホール5号室  
北信がんプロ e-learning 講座対象の演習です。  
（受講料は0円です）

お問い合わせ先：事務局（TEL）06-6879-8222

「染色体末端領域テロメア・サブテロメアから  
生命の基本原理を探る」  
加納 純子 先生

大阪大学蛋白質研究所  
細胞核ネットワーク研究室 独立准教授

担当：清川 悦子 病理学 I 教授

参加職種：医師、学部学生、大学院生、基礎研究者、診療放射線技師、臨床検査技師、看護師等



2019.07.12

# 第3回先進呼吸器外科学セミナー・北信がんプロFD講演会



第3回先進呼吸器外科学セミナー・北信がんプロFD講演会

2019年7月12日(金) 18:00~19:30  
病院中央棟3階 中会議室2

## 末梢型肺癌に対する気管支鏡診療



浅野 文祐 先生

独立行政法人岐阜総合医療センター  
呼吸器内科 部長

二階堂 1969年 岐阜県岐阜市生まれ。岐阜大学医学部卒業。同大学大学院修士課程修了。同大学呼吸器内科・呼吸器外科専攻、1999年岐阜総合医療センター呼吸器科部長、2009年岐阜総合医療センター呼吸器科部長、2013年独立行政法人岐阜総合医療センター呼吸器内科部長、2016年独立行政法人岐阜総合医療センター呼吸器内科部長、2018年独立行政法人岐阜総合医療センター呼吸器内科部長、2019年独立行政法人岐阜総合医療センター呼吸器内科部長。

### ご講演の概要

末梢型肺癌の診断には、経皮的生検、外科的生検に比較して合併症や侵襲が少ないことから、経気管支生検が勧められているが診断率は十分でない。近年、気管支鏡内視鏡診断法、半経気管支生検などの新たな手技が行われるようになった。本講演ではこれらの新たな手技と成績、注意点を詳しく説明いたします。

主催：金沢医科大学呼吸器外科学 教授 浦本秀隆  
共催：北信がんプロ

## 「末梢型肺がんに対する気管支鏡検査」 浅野 文祐 先生

岐阜県総合医療センター 呼吸器内科 部長

担当：浦本 秀隆 呼吸器外科学 教授

参加職種：医師(診療科横断)、学部学生、大学院生、看護師等



- ライフステージ事例検討会への医師の参加について  
学内全組織へのメールでの開催案内を行っている  
⇒2019年度第1回には医師3名が参加(本学は本年度3回開催)

■ 2019.08.06



## 2019年度 第3回 北信がんプロ・ライフステージ事例検討会

### 事例検討

「AYA世代の乳がん患者の対応に  
苦慮した事例」

### ミニレクチャー

「AYA世代のがん看護」

金沢医科大学病院 看護師から事例検討、  
同 がん看護専門看護師 ミニレクチャーを担当

■ 2019.09.18

# 第8回北信がんプロ・オンコロジーセミナー 症例検討

## 1.急速進行した前胸部原発転移性メルケル細胞癌の1例

葛西 傑 先生

金沢医科大学医学部腫瘍内科学 助教

## 2.巨大肝転移巣切除により診断された膵腺房細胞癌の1例

高村 博之 先生

金沢医科大学医学部一般・消化器外科学 臨床教授

## 特別講演

「がんゲノム医療の展開:  
遺伝子パネル検査とコンパニオン診断」

西原 広史 先生

慶應義塾大学医学部

腫瘍センターゲノム医療ユニット長/教授

参加職種: 医師(診療科横断)、学部学生、大学院生、看護師、薬剤師、  
臨床検査技師、基礎研究者等の多職種

北信がんプロ  
第8回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療連携拠点等の医師、  
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2019年9月18日(水) 18:00~20:00	基礎研究棟3階 大学院セミナー室

プログラム

【症例検討】

- 急速進行した前胸部原発転移性メルケル細胞癌の1例  
(金沢医科大学 腫瘍内科学)
- 巨大肝転移巣切除により診断された膵腺房細胞癌の1例  
(金沢医科大学 一般・消化器外科学)

【特別講演】

がんゲノム医療の展開:  
遺伝子パネル検査から  
全エクソン解析へ

西原 広史 先生  
慶應義塾大学腫瘍センター  
ゲノム医療ユニット長 教授

申込み費: (学生費) 0円 / (社会費) 1000円

申し込みの問い合わせ先  
〒252-0222 慶應義塾大学医学部腫瘍センター  
がんゲノム医療ユニット 事務局  
TEL 045-556-2070 FAX 045-556-2070

金子長壽化産院での先進的がん診断人養成  
北信がんプロ事務局  
〒920-8640 金沢市野津1-1-1 (金沢大学医学部附属1階)  
TEL 076-262-0270 FAX 076-262-0270

okushin  
がんプロ

Email: gpro@med.kanazawa-u.ac.jp / http://www.gpr-pro.net/

2019.10.05

**市民公開講座：北信がんプロ金沢医科大学市民公開講座：**  
**免疫チェックポイント阻害薬：**  
**ノーベル賞を受けた治療への正しい理解のために**

**「消化器がんに対する免疫療法の最前線」**

**馬場 英司 先生**

九州大学大学院医学研究院社会環境医学講座  
連携社会医学分野 教授

**「免疫チェックポイント阻害薬で大きく変わった肺がんの治療」**

**滝口 裕一 先生**

千葉大学大学院医学研究院臨床腫瘍学/  
医学部附属病院腫瘍内科 教授

**主催** 金沢医科大学腫瘍内科学、北信がんプロ  
**共催** 九州がんプロ、石川県がん診療連携協議会

The poster features a blue and green color scheme with a background of water droplets and a plant. At the top left is the 'okushin' logo. The main title is '免疫チェックポイント阻害薬：ノーベル賞を受けた治療への正しい理解のために'. Below this, two columns of text describe the topics: '消化器がんに対する免疫療法の最前線' (The latest in immunotherapy for digestive cancer) and '免疫チェックポイント阻害薬で大きく変わった肺がんの治療' (Treatment of lung cancer that has changed significantly with immunotherapy). Each column lists a speaker: 馬場 英司 (Hama Eiji) and 安本 和生 (Yanoh Kazuo) for the first topic, and 滝口 裕一 (Takikuchi Yūichi) and 元種 良治 (Motokata Ryūji) for the second. The event date is '令和元年 10.5 (土) 15:00~17:00 (開場 14:30)' at 'ホテル金沢 4階 エメラルドルーム'. A yellow circle indicates '入場無料' (Free admission). At the bottom, there is contact information for the organizing institutions.

■ 2019.10.15

# 共催事業：金沢医科大学細胞治療プロジェクトシンポジウム “Reprogramming of Cancer Genome”

## 「Facts and myths of cancer precision medicine」

新井田 要 先生

金沢医科大学総合医学研究所 教授

## 「Cancer reprogramming of human gastric cancer cells inhibits tumorigenicity induced by HOXA13-LNCRNA hottip axis.」

横山 一成 先生

高雄医学大学医学研究所 教授

## 「Dissecting cancer biology with iPS cell technology」

山田 泰広 先生

東京大学 医科学研究所 システム疾患モデル研究センター  
先進病態モデル研究分野 教授

主催 金沢医科大学 細胞治療プロジェクト推進 WG

担当 下平滋隆 再生医療学 教授、加藤 友久 再生医療学 講師

細胞治療プロジェクト シンポジウム  
“Reprogramming of Cancer Genome”

日時：2019年10月15日(火) 16:30～18:30  
場所：医学教育棟5階 E51 講義室

講演者・演題

	新井田 要 先生 (本学 総合医学研究所:教授 ゲノム医療センター:センター長) “Facts and myths of cancer precision medicine”
	横山 一成 先生 (高雄医学大学 医学研究所:教授) “Cancer reprogramming of human gastric cancer cells inhibits tumorigenicity induced by HOXA13-LNCRNA hottip axis.”
	山田 泰広 先生 (東京大学 医科学研究所 システム疾患モデル研究センター 先進病態モデル研究分野:教授) “Dissecting cancer biology with iPS cell technology”

主催：金沢医科大学 細胞治療プロジェクト推進WG  
連絡先：金沢医科大学 医学部 再生医療学講座  
総合医学研究所 ヒト幹細胞創製研究分野  
下平 滋隆 (shimodai@kanazawa-med.ac.jp)  
加藤 友久 (kato@kanazawa-med.ac.jp)

共催：北信がんプロ  
CEL Therapy Project  
Cell Therapy Project  
www.kanazawa-med.ac.jp



# ■ 共催事業： 大学院医学研究セミナー

2019.05.17

## 「がんゲノム医療時代の臨床医の役割」

京 哲 先生

島根大学医学部産科婦人科学 教授



2019.06.21

## 「脂肪幹細胞(ADSC)を用いた乳癌術後の 乳房再生医療臨床試験と脂肪幹細胞の応用技術」

久留 一郎 先生

鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻  
遺伝子再生医療学講座 再生医療学部門 教授



2019.07.17

## 「消化管癌の最新の診断と治療」

片岡 洋望 先生

名古屋市立大学院医学研究科 消化器・代謝内科学 教授



## ■ e-learning教材見直しについて

1・2期がんプロ時作成された教材のうち、  
見直し必要とされた教材

分子生物学入門(6講義項目)  
腫瘍薬物学特論(2講義項目)  
腫瘍放射線医学特論(1講義項目)  
がん外科学特論(1講義項目)  
臨床腫瘍学特論(1講義項目)  
腫瘍病理学演習(4講義項目)  
⇒作成済

腫瘍病理学特論(6講義項目)  
腫瘍病理学演習(3講義項目)  
⇒スライド作成中

Okushin  
OKUSHIN  
UNIVERSITY

腫瘍薬物学特論  
抗がん剤の臨床薬理学 1

金沢医科大学 薬理学  
石橋 隆治

Okushin  
OKUSHIN  
UNIVERSITY

「分子生物学入門」  
第1回 セントラルドグマ  
—遺伝子、RNA、タンパク質の基礎—

金沢医科大学・一般教育機構・生物学  
東海林 博樹

Okushin  
OKUSHIN  
UNIVERSITY

がん外科学特論  
胃 癌

金沢医科大学 一般・消化器外科学  
木南 伸一

一時停止  
00:06 / 11:01

## ■ 北信がんプロがんデータベース構築について

### がんデータベース委員会

(委員長:西野 善一 公衆衛生学 教授)が担当

北信4県のがん診療連携拠点病院等より2010年～2015年の院内がん登録データ(22施設)と障がい者医療費受給者証の有無に関するデータ(10施設)が収集され、データベースが構築される

これまでに以下の5件の研究利用ががんデータベース委員会において承認済み

「高齢者のがん種別治療率の比較」

研究責任者:林 龍二 富山大学附属病院臨床腫瘍部 教授

「小児・AYA世代のがん罹患の実態把握」

研究責任者:中沢 洋三 信州大学医学部小児医学教室 教授

「胸膜中皮腫の診療実態」、「胸腺癌の診療実態」

研究責任者:浦本 秀隆 金沢医科大学医学部呼吸器外科学 教授

「障がい者のがん医療実態の後方視的検討」

研究責任者:谷本 梓 金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科 助教

# 【平成30年度 外部評価への対応】

## ■ 受け入れ学生の背景に応じた教育

本科生4名

外科系3名(頭頸部外科2、耳鼻咽喉科1)、  
内科系1名(呼吸器内科)に所属

⇒e-learning教材履修

+

実際の所属医局とは異なる複数のがんプロ担教員  
が教育研究指導を行っている

がんプロ履修単位が大学院の修了要件の単位と互換

必要に応じて学外での臨床研修を行うことも可能で  
専門医取得とも両立できる教育プログラムである

## ■ 受け入れ学生の背景に応じた教育

インテンシブコース5名：

基礎系3名（臨床病理）、小児科1名、  
外科1名（一般・消化器外科）

⇒e-learning教材履修

+

基礎所属者：

腫瘍病理セミナーへの参加や、本院のゲノム医療センターメンバーでもあるがんプロ担当教員の指導のもと、ゲノム医療を行うにあたって必要な病理診断の経験・知識を涵養

小児科、外科に所属者：

オンコロジーセミナー等への参加で、所属以外の施設の貴重な症例を学ぶほか、がんプロ担当教員の臨床指導も受けている。

## ■ 教育コースの将来計画

「遺伝子改変T細胞療法等の新たながん治療技術に対応できる、専門的な認定者の育成」を目指す

- ・医師だけではなく、コメディカルの専門的な人材育成
- ・ゲノム医療、再生医療等技術、法的なレギュレーションにも精通するための教育を行う

# ■ ホームページの更新

## 各補助事業の開催案内、事業報告、教育コース募集の案内、北信がんプロHP、各大学へのリンク等



### 専門医リーダー養成コース

#### がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース：大学病院学術科博士課程

希少がんを言わずがん患者を顕微鏡的に診察できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望もかえらられるように努力ができる、がん専門医師を養成する

#### 修業する期間

大学病院学術科生命医科学専攻（博士課程）

#### 修業年限（通常）

4年（がん専門医養成系科目は3年次までに履修すること）

#### 履修対象者

#### 大学校生

#### 修了要件等

博士課程に北信がんプロフェッショナルがん専門医養成系として4年以上在学し、所定の単位以上を履修し、かつ必要な研究指導を受け、学位論文の審査に合格することで博士（医学）の学位を授与します。  
また、本コースを修了することによりがん治療計画（がん治療決定支援）中核に際し必要となる学術単位10単位が適用となります。

#### 修了後のキャリアパス

各専門分野の専門医、認定医等の資格も取得し、その後は地域を問わず広く教育職・研究職の第一線の診療室として活躍できる。

#### 履修科目等

専修は、主として履修する科目（主科目）の講義、演習、実習演習、特選研究および共通科目必修1科目のほか、e-Learningによる各特選の履修およびテレビ会議システムを利用したオンコロジーセミナー参加からなる以下の科目の履修となります。

1. 北信がんプロ必修科目…10科目各1単位  
がんゲノム医療特選、小児・AYA・希少がん特選、ライフステージに応じたがん医療特選、在宅緩和ケア特選、臨床がん学特選、国際放射線治療学特選、がん緩和ケア学特選、腫瘍看護学特選、臨床遺伝学特選、がん外科学特選
2. 北信がんプロ選択科目…各1単位、大学院共同科目履修、生命倫理学のいずれかの付加3科目を選択  
分子腫瘍学特選、分子生物学入門、臨床放射線学特選、臨床放射線学特選、臨床放射線学特選、がん緩和ケア学特選、腫瘍看護学特選、臨床遺伝学特選、がん外科学特選、がんライフステージ特選

#### がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コースの履修

北信がんプロ必修科目10単位の修得を必要と大学修了に必要な履修科目2科目履修に相当する8単位として、北信がんプロ選択科目4単位と、大学院共通科目から履修、生命倫理学のいずれかの科目の修得を必要と大学修了要件共通科目4科目に相当する4単位とします。



### 北信がんプロ海外F.D研修（台湾高雄）報告

本学は、金沢大学、信州大学、南山大学、福井大学、石川県立看護大学と連携し、がん医療の新たなコースを創出できる、優れた「がん専門医療人材」を養成するため、「北信がんプロ」の事業を展開して来り、その一環として、海外F.D研修を実施しています。

海外F.D研修とは、日本以外の優れた医師と知りあふ研修及び「がん医療」に、教育および医療従事者が参加し、見聞を広げることにより、多岐種のスキルアップを図り、多岐種・多岐種連携を推進するチーム医療教育を行うものです。

2019年度の研修対象は本学の担当であり、2019年11月14日（日）～15日（金）に、菅文孝先生（独立行政法人国立がん研究センター がん予防・検診部、がん予防学部長）の講義・コーディネートのもと、本学教員に加え、金沢大学、福井大学からの計14名が参加し、台湾の高雄医学大学及び陽明医学大学と協賛し、高雄医学大学にて、高雄医学大学と自費で1号の医学博士課程に開設され、1999年に高雄医学大学となった、台湾で最も歴史があり、7学部（医学部、歯学部、薬学部、看護学部、保健学部、生命科学部、人文社会科学部）に当たるトップレベルの私立大学です。



11月14日（水）：高雄医学大学・高雄医学大学附属高中心臓血管病



### 市民公開講座

#### 全国がんプロ合同市民公開シンポジウム「がんゲノム医療の実像」

がんプロ（がんプロフェッショナル養成プラン）はがんの医療専門家育てる国の事業で、全国で11グループ96大学が行って、がんゲノム医療に携わる医療人材養成が大きな柱となっています。  
がんゲノム医療がスタートしましたが、中核がどんなものかについて、一般市民の方にはあまり理解が進んでいません。  
このシンポジウムではがんゲノム医療の中で最も大切な部分であるがん検査（エキスパートパネル）を実施することにより、一般市民の方にもがんゲノム医療を分かっていただくことを目的に行います。

#### 開催日時

2019年11月9日（土） 14:00～16:00（開場 13:30）

#### 会場

東京医科歯科大学 大塚キャンパス（歯科棟4階 歯学部特設講義室）  
東京都文京区大塚 1-5-4-5

#### 内容

#### 【講演要綱】

がんゲノム医療の全体像

【懇話会キーストーンパネル】

こうやってがんゲノム医療がすすむ

---





# 【教育コースの概要と進捗状況】

- がんプロフェッショナル  
がん専門医リーダー養成コース(本科)
  
- がん集学的治療医養成コース(インテンシブ)  
受け入れ

いずれのコースも医師対象

# ■ がんプロフェッショナル がん専門医リーダー養成コース(本科)

## 人材養成の目的

希少がんを含むがん患者を臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望をかなえられるように努力ができる、がん専門医師を養成する

平成30年度から募集開始。計4名を受け入れ

所属 臨床病理学2名、呼吸器内科学1名、  
耳鼻咽喉科学1名  
がんプロ担当教員の研究指導等を受けている

令和3年度に修了者が予定されている

# ■ がん集学的治療医養成コース(インテンシブ)

人材養成の目的

希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療に造詣の深い医師を養成する

医学研究科の科目等履修生として受け入れており、受け入れ学生の背景(所属)に応じたがんゲノム医療を含む最新の集学的治療を学ぶことができる

平成29年度から募集開始、計5名を受け入れ

所属 臨床病理学2名、一般・消化器外科学1名、  
小児科学1名

がんプロ担当教員の指導を受けている

令和元年度末に3名が修了予定

# 2019年度 「北信がんプロ」 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

日時：2020年3月6日(金)  
会場：金沢大学



成人・老年看護学講座  
牧野 智恵（コーディネーター）

代理：松本智里 講師



# 看護系各コースの紹介

1. がんライフステージコース（本科生）
2. がんライフケアコース（インテンシブ）

# 1. がんライフステージコース (本科生)

## 1. 概要

本コースは、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」に基づくe-learningクラウドと、各大学（がん看護専門看護師養成課程）で実施する講義や演習から成り立っている。

2. 募集定員 2名程度（3大学合わせて）

## 3. 出願資格

1) 出願資格 以下の（1）－（3）の条件を満たす者

（1）石川県立看護大学、福井大学、富山大学において、がん看護専門看護師養成課程に入学している大学院生。

## 4. 本科生の修了要件

1) 各大学院にてがん看護専門看護師養成課程として必要な科目（必須）  
（「特別研究」を除く38単位以上）

2) 選択科目（以下から、3単位以上）

① 「がんライフステージ事例検討会」(1単位)

② 「コンサルテーション論」(1単位)

③ 「がんゲノム学特論」(1単位)

④ 「小児・AYA世代・希少がん特論」(1単位)

⑤ 「住宅緩和ケア特論」(1単位)

⑥ 「老年医療学特論」(1単位)

E-クラウドより履修

石川県立看護大学大学院看護学研究科 博士前期課程  
 (成人看護学分野；がん看護専門看護師コース)を修了し、  
 「がん看護専門看護師 (OCNS)」の資格を取得し、活躍している方

			
坂井桂子 平成22年度 OCNS 取得 富山県立中央病院	長 光代 平成23年度 OCNS 取得 厚生連滑川病院	高地弥里 平成23年度 OCNS 取得 石川県済生会病院	村上真由美 平成23年度 OCNS 取得 富山赤十字病院
			
内村恵理子 平成24年度 OCNS 取得 石川県立中央病院	平 優子 平成25年度 OCNS 取得 砺波総合病院	山瀬勝巳 平成25年度 OCNS 取得 KKR 北陸病院	佐伯千尋 平成26年度 OCNS 取得 金沢大学附属病院
			
松本友梨子 平成27年度 OCNS 取得 福井県済生会病院	上埜千春 平成27年度 OCNS 取得 金沢医科大学病院	今方 裕子 平成27年度 OCNS 取得 金沢医療センター	久保博子 平成28年度 OCNS 取得 福井大学附属病院
			
高野智早 平成28年度 OCNS 取得 福井大学附属病院	時山麻美 平成28年度 OCNS 取得 富山県立中央病院	藪下 佳子 令和元年度 OCNS 取得 金沢医科大学病院	樋口 麻衣子 令和元年度 OCNS 取得 富山大学附属病院



## 2. がんライフケアコース (インテンシブ)

### 1. 本コースの概要

本コースは、北信4県においてテレビ会議システムやWeb会議システムを利用して、看護師や薬剤師、医師、理学療法士など多職種で、緩和ケアや、がんリハビリ、化学療法・放射線療法などを受ける患者事例について意見交換をおこない、各ライフステージに応じたケアの知識・技術を深めることを目的としています。当大学で実施するライフステージ事例検討会では、専門看護師や多職種によるミニレクチャーも行っております。また、北信がんプロに基づくe-learning、またはがんプロ全国e-learningクラウドの科目からがん患者のケアに必要な知識を習得します。

### 2. 受講科目

- 1) がんライフステージ演習(ライフステージ事例検討会)
- 2) 以下の北信がんプロe-learningまたは、がんプロ全国e-learningクラウド  
(<http://pj2.md.tsukuba.ac.jp/pj2/login.php>)の科目から1科目以上

### 3. 修了要件

- ・以下の1)、2)を満たすこと。
  - 1) 石川県立看護大学主催の「ライフステージ事例検討会」を3回以上受講
  - 2) 北信がんプロe-learningの科目または、がんプロ全国e-learningクラウド  
(<http://pj2.md.tsukuba.ac.jp/pj2/login.php>)のうち1科目以上の受講  
(過去5年以内に受講している場合は不要です)

### 4. 本コースの修了者には、「終了証」を発行します

# 北信がんプロの教育コース(受入目標と実績)

(令和元年11月13日現在)

本科生コース(平成30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5			14
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	2			3
	高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4			7
信州大	ゲノムがん治療医	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1	4	0	1	3			4
富山大	高齢がん患者対策	医師	0	4	4	4	4	16	0	6	10			16
	個別化医療薬剤師	薬剤師	0	1	1	1	1	4	0	1	2			3
福井大	地域がん専門医	医師	0	2	2	2	2	8	0	4	5			9
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
石川看護大	がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3			4
		合計	0	22	23	23	23	91	0	30	38	0	0	68

インテンシブコース 平成29年10月受入開始(一部30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11			25
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3			7
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	10			42
信州大	がん専門医療人養成	多職種	-	-	5	10	10	25	-	-	1			1
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10	2	2	2			6
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9	2	5	2			9
	在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7	0	6	3			9
福井大	在宅栄養管理	多職種	0	12	22	22	22	78	0	23	23			46
	在宅緩和医療	多職種	0	24	24	24	24	96	0	27	24			51
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9	1	2	2			5
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22	3	10	5			18
		合計	8	65	78	79	79	334	10	123	86	0	0	219

# 2019年度の活動

## 1. ライフステージ事例検討会

2019年：6月4日(火),7月2日(火),8月6日(火),10月1日(火),11月5日(火),12月3日(火)

2020年：2月4日(火),3月3日(火)

会場：各地域のテレビ会議システム設置室 17:45～

## 2.FD研修「CNS関係者によるがん看護事例検討会」

第1回7月27日(土) 会場：石川県立看護大学

第2回10月6日(日) 会場：ホテル金沢

◆対象者：がん看護CNSおよびその候補者

## 3.公開FD研修「臨床で行うリンパ浮腫のケア」

基礎編：8月24日(土) 会場：石川県立看護大学

応用編：10月26日(土) 会場：石川県立看護大学

◆対象者：医療従事者

## 4.公開FD研修「がんゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう」

石川県立看護大学・金沢大学薬学部との共同開催

◆2019年10月6日(日) ◆対象者：薬剤師、医師、看護師、その他医療従事者 ◆会場：ホテル金沢

## 5.市民公開講座 「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議(ACP)を～」

◆2020年3月22日(日) 13:00～15:00

◆対象：一般の方々、医療従事者 ◆会場：ホテル金沢

# テレビ会議システムを利用したライフステージ事例検討会

多職種とともに日頃のがん患者への関わりを振り返りましょう！

北信4県のテレビ会議システムが設置されている施設を利用して行います！

施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やご家族へのケアについて意見交換しましょう！

## ◆開催日程（8回予定）

2019年 6月4日(火) 7月2日(火) 8月6日(火)

10月1日(火) 11月5日(火) 12月3日(火)

2020年 2月4日(火) 3月3日(火)

## ◆開催時間 17時45分～19時15分

（事例検討：60分、ミニレクチャー：30分）

## ◆対象

看護師、医療従事者

がん看護専門看護師申請予定者

休職中の看護師で復職を予定している方

## ◆会場

開催予定施設のテレビ会議システム設置室

※開催予定施設につきましては、裏面をご覧ください。

## ◆参加費

無料

## ◆内容

1) 事例検討：外来化学療法、在宅の患者支援  
倫理調整、家族看護、緩和ケアなど

2) ミニレクチャー：OCNSの他、医師や薬剤師がミニレクチャーを担当します



## ◆アドバイザー◆

・牧野智恵：石川県立看護大学 成人看護学 教授（がん看護専攻）

・各施設のがん看護専門看護師（OCNS）、医師、薬剤師

◆参加申込先 外部施設から参加される方は前日までに開催予定施設までご連絡下さい。

\* 開催予定施設、連絡先は裏面をご覧ください

◆お問い合わせ先 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 総務課

〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1 TEL (076)281-8300 FAX (076)281-8319

2019年度 石川県立看護大学  
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (北信がんプロ)

## ライフステージ事例検討会

日時: 7月2日(火) 17時45分～

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り  
ケアを一緒に見直してみませんか

### 1.事例検討

テーマ:「揺れ動く気持ちの中で在宅療養が  
叶わなかった事例を振り返って  
～思いに寄り添う看護とは～」

担当施設: 市立砺波総合病院

事例発表者: がん看護専門看護師 平 優子さん  
看護師 森木 郷江さん、藤崎 薫さん

### 2.ミニレクチャー

テーマ:「看護師のグリーフへの援助」

講師: がん看護専門看護師 平 優子さん

◇場所: 各開催施設・テレビ会議室(計18施設)◇

金沢大学、福井大学、石川県立看護大学、信州大学、恵寿総合病院、石川県済生会金沢病院、  
金沢市立病院、小松市民病院、浅野川総合病院、富山県立中央病院、高岡市民病院、  
市立砺波総合病院、富山県済生会富山病院、金沢医科大学氷見市民病院、厚生連高岡病院、  
富山労災病院、諏訪赤十字病院、長野赤十字病院

◇参加申し込み先 お近くの会場の担当者までお願いします。

◇お問い合わせ先 石川県立看護大学 岡山 TEL(076)281-8300 FAX(076)281-8319

2019年度 石川県立看護大学  
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (北信がんプロ)

## ライフステージ事例検討会

日時: 8月6日(火) 17時45分～

### 1.事例検討

テーマ:「AYA世代の乳がん患者の対応に  
苦慮した事例」

担当施設: 金沢医科大学病院

事例発表者: がん専門看護師 上埜 千春さん  
看護師 藪下 佳子さん

### 2.ミニレクチャー

テーマ:「AYA世代のがん看護」

講師: がん専門看護師 上埜 千春さん

◇場所: 各開催施設・テレビ会議室(計19施設)◇

金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学、信州大学、  
金沢赤十字病院、公立能登総合病院、国立病院機構金沢医療センター、国立松任石川中央病院、  
石川県立中央病院、富山市民病院、富山赤十字病院、富山県済生会富山病院、  
富山県済生会高岡病院、厚生連高岡病院、黒部市民病院、諏訪赤十字病院、飯田市立病院

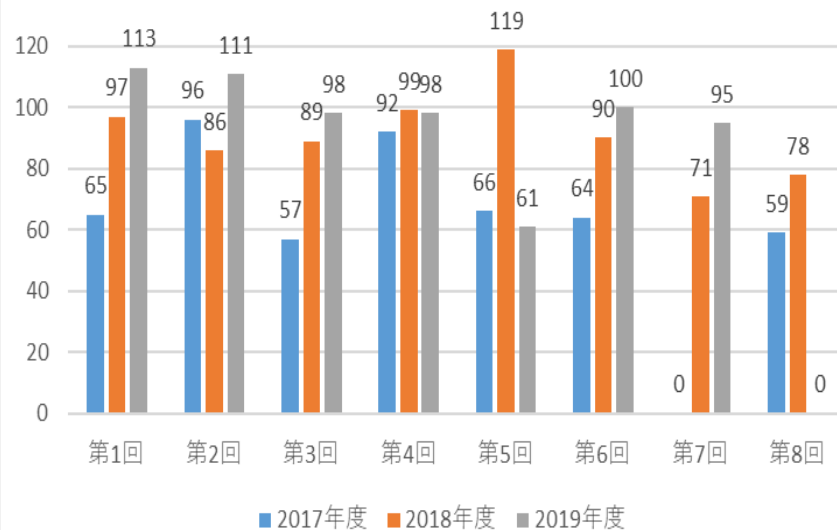
◇参加申し込み先 お近くの会場の担当者までお願いします。

◇お問い合わせ先 石川県立看護大学 岡山 TEL(076)281-8300 FAX(076)281-8319

ライフステージ事例検討会 参加者数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
2017年度	65	96	57	92	66	64	未開催	59
2018年度	97	86	89	99	119	90	71	78
2019年度	113	111	98	98	61	100	95	-

ライフステージ事例検討会 参加者数



ライフステージ事例検討会 参加者職種

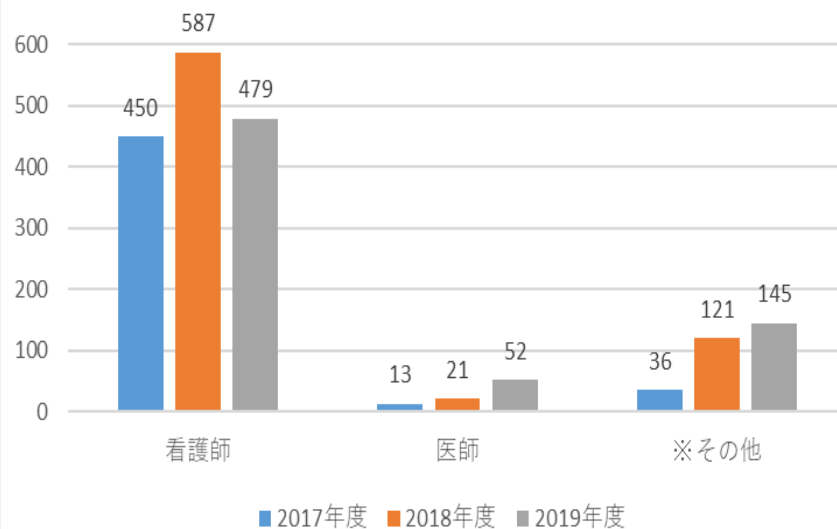
	看護師	医師	※その他
2017年度	450	13	36
2018年度	587	21	121
2019年度	479	52	145

※その他 薬剤師、放射線技師、福祉士、大学院生他

2018年度は医師、その他の割合が全体の19%だったのに対し、2019年度は**29%**であった。

➤多職種(医師、その他)の参加者が年々増加している

ライフステージ事例検討会 参加者職種



石川県立看護大学  
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2019年度 ライフステージ事例検討会

# 第1回 CNS関係者による がん看護事例検討会

CNS関係者を対象としたがん看護事例検討会を  
スーパーバイザーをお招きし下記の日程で開催致します。

## 参加資格

CNSの方(どの領域の方でも)、今後CNS  
受験予定の方、CNSコースの大学院生

## 日時・場所

7月27日(土) 14:00~16:30  
場所: 石川県立看護大学 3階 会議室

スーパーバイザー: 北里大学病院  
がん看護専門看護師 近藤 まゆみ 先生

## 第1部

14:00~ 事例検討会

## 第2部

15:30~ 意見交換会  
「CNSの高度実践のあり方について」  
~日々の悩みを語り合おう~

## お問い合わせ

石川県立看護大学 がんプロ担当(岡山)  
TEL: 076-281-8300(代表)  
E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

共催: 北陸CNSの会

2019年度 ライフステージ事例検討会

# 第2回 CNS関係者による がん看護事例検討会

CNS関係者を対象としたがん看護事例検討会を  
下記の日程で開催致します。

## 参加資格

- ・CNSの方(どの領域の方でも)
- ・今後CNS受験予定の方
- ・CNSコースの大学院生

## 日時・場所

10月6日(日) 13:30~15:00  
場所: ホテル金沢 6階 ミーティングルーム

## お問い合わせ

〒929-1210  
石川県かほく市学園台1丁目1番地  
石川県立看護大学 がんプロ担当(岡山)  
TEL: 076-281-8300(代表)  
E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

# CNS関係者によるがん看護事例検討会

2017年度  
スーパーバイザー  
北海道医療大学  
石垣 靖子先生



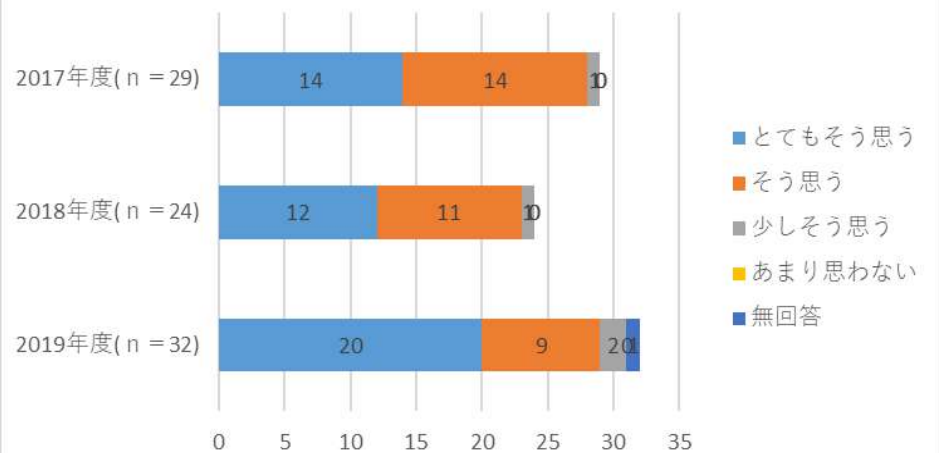
2019年度  
スーパーバイザー  
北里大学病院  
近藤 まゆみ先生



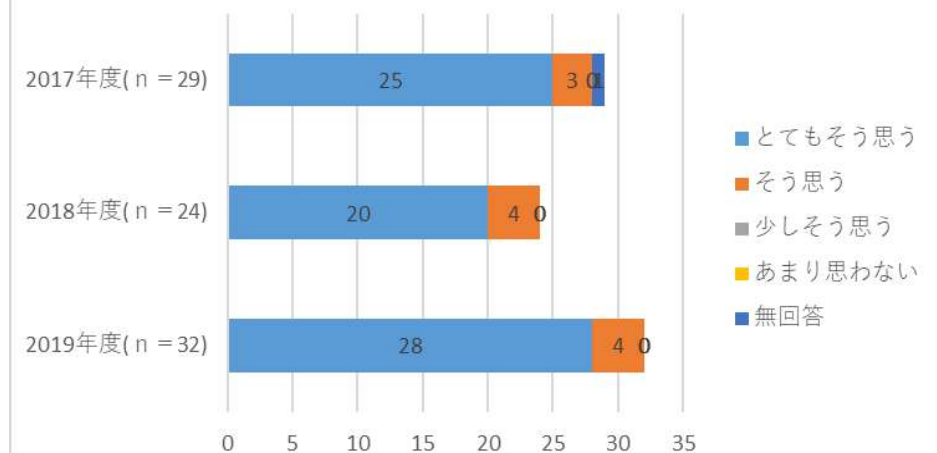


# CNS関係者によるがん看護事例検討会

## 今後の看護実践に活かされると思うか



## 内容は参考になったか



### ◆意見、感想

- ・CNS関係者によるがん看護事例検討会の回数を増やして欲しい
- ・悩んだ事例の共有がとても勉強になった
- ・CNSとしての深い部分を感じ取ることが出来る良い機会だった

### ◆検討してみたい内容、事例

- ・高齢がん患者の事例
- ・AYA世代の看護介入
- ・遺伝子検査を受ける患者への看護

石川県立看護大学  
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2019年度 看護実践セミナー

参加費  
無料

臨床で行なう

# リンパ浮腫のケア

～基礎編～

日時

2019年  
**8月24日(土)** 9:30~16:00(受付 9:00~)

会場

石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
教育研究棟 2階 成人・老年看護学実習室

講師

富山県立中央病院  
がん看護専門看護師  
**時山 麻美 先生**

内容

**【午前】** 講義:リンパ浮腫の基礎知識  
**【午後】** 演習:リンパ浮腫ケアの演習

持ち物

昼食・内履き  
半袖・半ズボン  
(午後の演習で使用します)

定員 **50名**

※定員になり次第  
締切とさせていただきます。

本研修は  
修了証を  
発行します

申し込み締め切り **2019年8月2日(金)** **申込QRコード**

★託児希望(定員あり)の方は**7月26日(金)**までにお申込ください。

お申込み方法については裏面をご覧ください。

主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)  
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)



石川県立看護大学 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2019年度 看護実践セミナー

参加費  
無料

臨床で行なう

# リンパ浮腫のケア

～アドバンス編～

講師

富山県立中央病院 がん看護専門看護師  
日本医療リンパドレナージ中級セラピスト

**時山 麻美 先生**

福井県済生会病院 看護師  
日本医療リンパドレナージ上級セラピスト

**山野 洋子 先生**

演習内容

- \* 事例のグループワーク
- \* 患者指導場面のロールプレイ
- \* 進行がん・終末期の浮腫へのアプローチ

本セミナーは  
修了証を発行します

対象

医療職者**18名** 2016年度以降、本学で開催された  
リンパ浮腫セミナーに参加経験のある方

申込締切: **2019年10月15日(火)**

2019年

**10月26日** (土)

9:30~15:30 (受付 9:15~)

WEBにてお申し込み下さい。  
右記のQRコードからアクセスできます。  
詳しくは裏面をご覧ください。



会場

石川県公立大学法人  
石川県立看護大学 教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

主催: 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)  
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)

【お問い合わせ先】 石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地  
TEL 076-261-8300(代) E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp (担当: 阿山)



# 臨床で行なうリンパ浮腫のケア (2019年度写真)

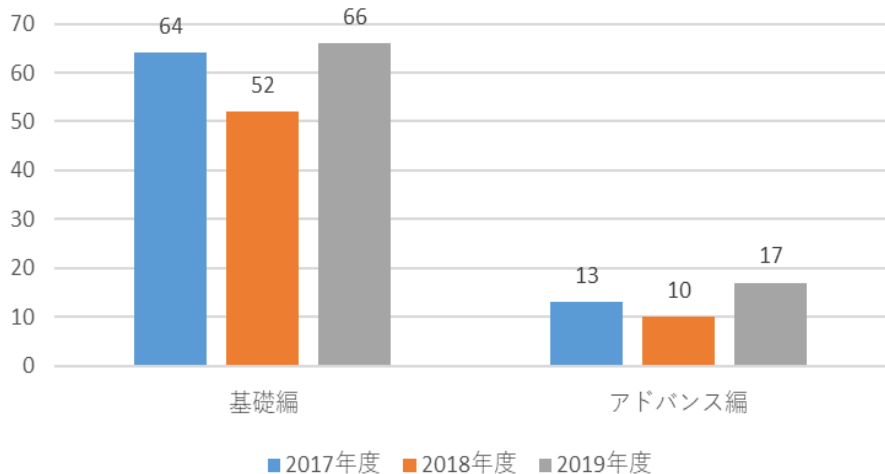
## 基礎編



## アドバンス編



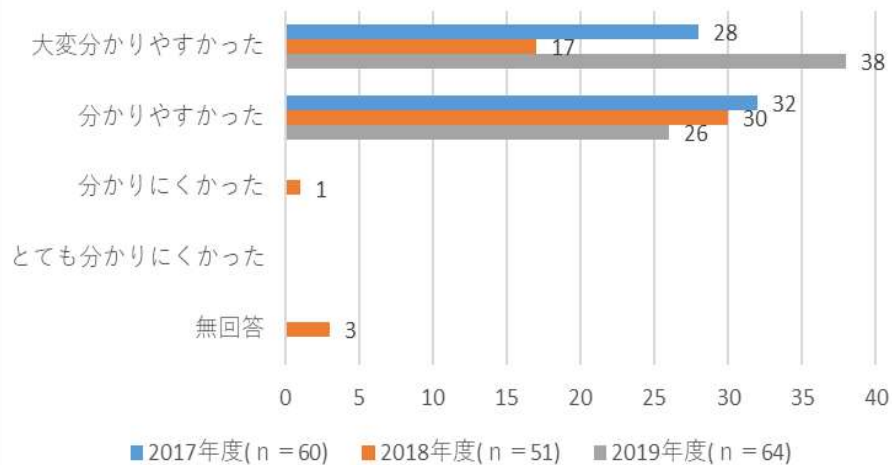
リンパ浮腫研修 参加者数



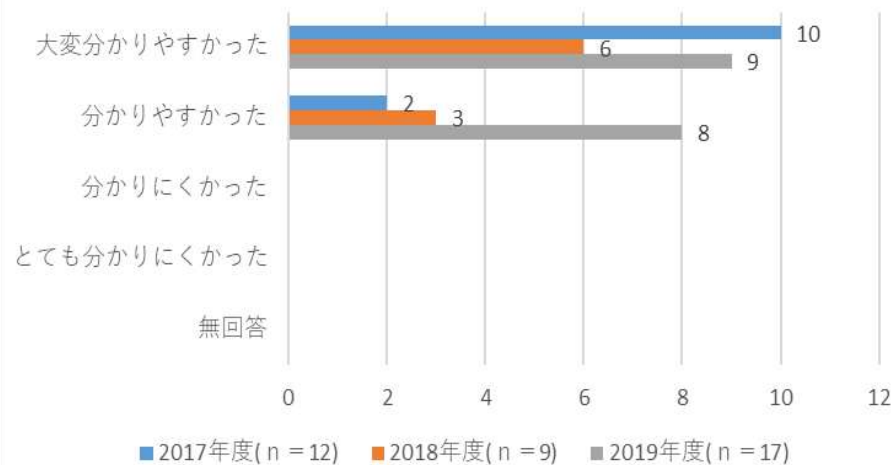
◆意見、感想

- ・基礎編、アドバンス編と内容を深めることが出来た
- ・セラピストの方々に指導して頂き、とても分かりやすく有意義な時間だった
- ・実践に繋がる研修であり、学んだことを活かしたい
- ・マッサージの圧が軽くて驚いた。実際に足が軽くなるのを感じた
- ・浮腫がある方の手浴、足浴時のケアを学びたい

リンパ浮腫研修基礎編 セミナー内容



リンパ浮腫研修アドバンス編 セミナー内容



# ゲノム医療の現状と 薬物間相互作用を知り、 現場に活かそう

第Ⅰ部 「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」 10:00~11:10

講師 村上 好恵 先生 東邦大学 看護学部 がん看護学研究室 教授

座長 牧野 智恵 石川県立看護大学 成人看護学領域 教授

第Ⅱ部 「抗がん剤のPK/PDと相互作用」 11:20~12:20

講師 大野 能之先生 東京大学 医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長

座長 菅 幸生 金沢大学 医薬保健研究域薬学系 准教授 臨床薬学研究室

質疑応答 12:20~12:30

参加者には **修了証** を発行します

- ・「がんライフケアコース」  
「がんゲノム多職種連携入門コース」  
の修了要件に含まれます。
- ・「石川県病院薬剤師会生涯認定制度 (1単位)」、  
「日本病院薬学認定薬剤師制度 (1単位)」に申請中です。

定員  
150名

参加費  
無料

2019年 **10月6日** (日)

会場 / ホテル金沢(5階 アプローチ) 時間 / 10:00~12:30 (受付9:30~)  
〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号 TEL:076-223-1111

【お申し込みお問い合わせ】 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 (担当:岡山)  
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地 TEL:076-281-8300

**締切 2019年9月27日(金)** ※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

- ※参加対象者は医療従事者(大学院生含む)です。
- ※駐車場に限りがありますので、公共交通機関のご利用をお願いします。
- ※裏面をご確認ください。

申し込みはQRコードまたは  
裏面をご確認ください。



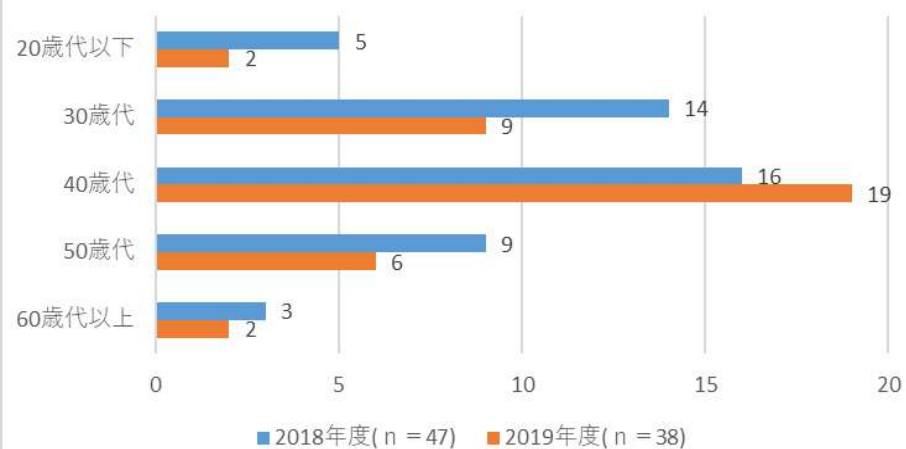
主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)  
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)  
共催：石川県病院薬剤師会  
後援：北國新聞社

(2019年度写真)

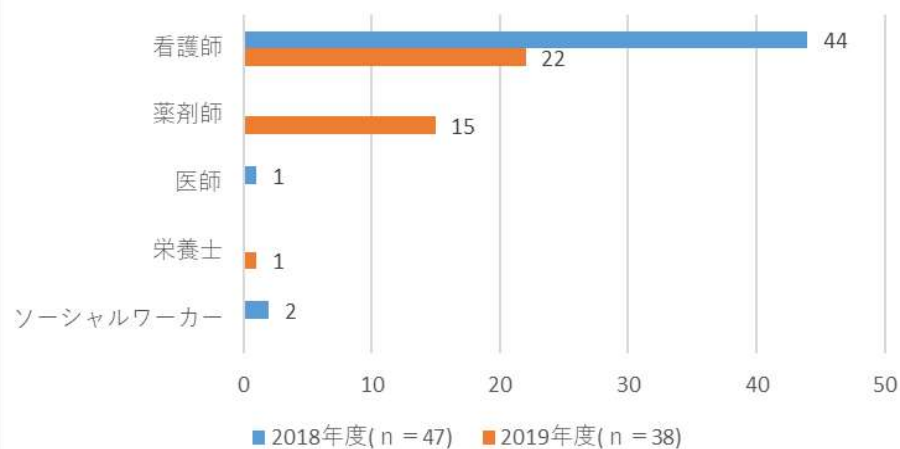


参加者数	
2018年度	63
2019年度	50

がんゲノム研修 参加者年齢



がんゲノム研修 参加者職種



#### ◆意見、感想

- ・難しい箇所もあったが興味がわき、今後も学んでいきたいと思った
- ・医療者だけでなく、一般の人にも広く伝わっていくべき課題であると感じた
- ・とても理解しやすく身近に感じる事が出来た
- ・薬剤師との合同企画を今後も企画してほしい

# グリーフの理解と ナースに求められること

参加費  
無料

定員120名

大切な方を亡くされた  
ご家族へのケアを  
学んでみませんか？

講師 モナシュ大学  
下稲葉 かおり氏

【下稲葉かおり先生 プロフィール】

看護師として外科病棟、ホスピス病棟勤務を経て、1997年よりオーストラリア在住。  
2001年にモナシュ大学にて修士号取得（緩和ケア専攻）、同年よりモナシュ大学  
に講師として勤務。また、看護学修士を取得し、「緩和ケア職種勤務経験者」  
2011年には、「緩和ケアに携わるナースの悲しみとサポート」をテーマにモナシュ  
大学にて博士号を取得。過去、モナシュ大学に日本人看護学生の研修研修を受け  
入れ、「緩和ケア」「国際看護」の教育に携わっている。  
2013年にはプリンセス大学にて「喪失・悲嘆・トラウマカウンセリング」の取得。2015年には、モナシュ  
大学にてカウンセリング修士課程を修了し、グリーフカウンセラーとしても活動している。2013年より日本にて、  
喪失者の喪年誌、グリーフ、サポートなどに執筆を始めた「喪失者のための心のケアワークショップ」を開催している。

座長 牧野 智恵氏 (石川県立看護大学 教授)

対象：看護職の方、看護学生の方

## グリーフとは？

大切なもの、大切な人を失う  
ことで経験する全人的（心・身体）な  
反応をグリーフといい、  
その経験のプロセスに寄り添い  
サポートを提供することを  
グリーフケアといいます。

【申込締切】平成29年  
6月28日(水)

\*定員になり次第、締め切らせて頂きます。

平成29年 **7月2日(日)**

会場/石川県立看護大学 大講義室 時間/13:00~15:00 (受付12:30~)

<お申し込み・お問い合わせ> 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

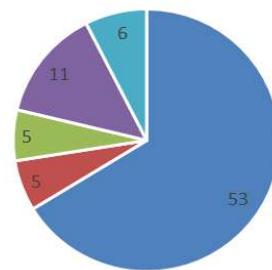
F 929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地 TEL 076-281-8308 FAX 076-281-8309

E-mail: sogocen@ishikawa-nu.ac.jp (担当: 室川)

主催：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 共催：北陸がんプロ委員会

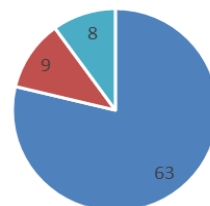
申し込みは、左記のQRコードを  
読み取るか裏面をご確認ください。

## 参加者職種 (n=80)



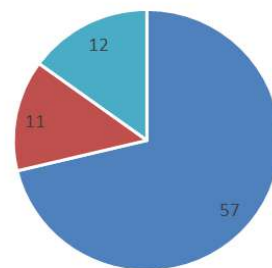
■ 病院看護師 ■ 訪問看護St ■ 看護師養成施設教員 ■ 看護学生 ■ その他

## 内容 (n=80)



■ とても参考になった ■ 参考になった  
■ 少し参考になった ■ あまり参考にならなかった  
■ 未記入

## 満足度 (n=80)



■ とても満足 ■ 満足 ■ 少し不満 ■ 不満 ■ 未記入

この講座は、医療従事者だけでなく  
一般の方々も参加いただける公開講座です。



▶申し込みはQRコードまたは裏面のお申し込み方法をご確認ください。

参加費  
無料

# がんになっても 自分らしい人生を 過ごすために

定員  
80名

ACP  
とは?

～今から家族と人生会議(ACP)を～

もしもの時のために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合う取り組みを「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」と言います。

今や、がんは2人に1人は罹患するといわれています。がんに罹ってからその後の人生を考えるのではなく、がんになる前に(元気な時から)、家族や大切な人と、もしもの時にどのような医療を受けたいか、どのような人生を送りたいか話しておきましょう。

今回の北信がんプロ企画では、御供田一座による笑いを交えて人生会議の大切さを知っていただき、また、法律家の樋口特任教授からは厚生労働省のガイドラインについてわかりやすい話をさせていただきます。ぜひ、家族、知り合いの方とお誘いあわせいただき、これからの自分らしい人生について考えるきっかけになるとうれしく思います。

希望された方に修了証を発行します(医療従事者のみ)

◀プログラム▶ 13:00 開会の挨拶 牧野 智恵(石川県立看護大学 教授)

13:05 第1部

「病気になっても自分らしく生きている私の人生」

講師：御供田 幸子氏

「爆笑 婆ちゃんコント」

金沢市生まれ。劇団「花嫁会」座長。幼少時に患った大病の克服をきっかけに、小さい頃から好きだった劇と踊りを活かしたボランティア劇団活動を開始。県内各所の福祉施設の要請を続ける。また、講演会、各種イベント、TV・CM、ラジオ、雑誌、新聞コラムの執筆などその活動は多岐にわたり、今では年間200回を超えて活躍中。



14:00 第2部

「アドバンス・ケア・プランニングと厚生労働省ガイドライン」

講師：樋口 範雄 先生

1978年 学習院大学法学部 専任講師 その後助教授、教授を経て  
1992年 東京大学大学院法学政治学研究所 教授  
2017年 定年退職 名誉教授  
2017年 法政大学法学部 特任教授(規定に至る)  
厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療提供体制構築事業」に携わっている

2020年

3月22日(日)

13:00~15:00

(受付 12:30)

※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

【申込締切】2020年 3月15日(日)

ホテル金沢(ダイヤモンドC)

〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号 TEL 076-223-1111



お申し込み・お問い合わせ

石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
〒929-1210 石川県かほく市学舎台1丁目1番地 (担当: 岡山)  
TEL 076-281-8300(代) FAX 076-281-8319

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)  
石川県立看護大学、金沢大学、金沢医科大学、  
富山大学、福井大学、信州大学

共催：北陸CNSの会  
後援：かほく市、北國新聞社





「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ

# 金沢大学の活動状況報告

事業責任者 矢野 聖二

金沢大学附属病院がんセンター

金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科

WPI 金沢大学ナノ生命科学研究所

# 北信がんプロの教育コース（受入目標と実績）

（令和元年12月12日現在）

## 金沢大学抜粋

### ◆本科生コース（平成30年4月受入開始）

コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計
先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5			14
個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	2			3
高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4			7

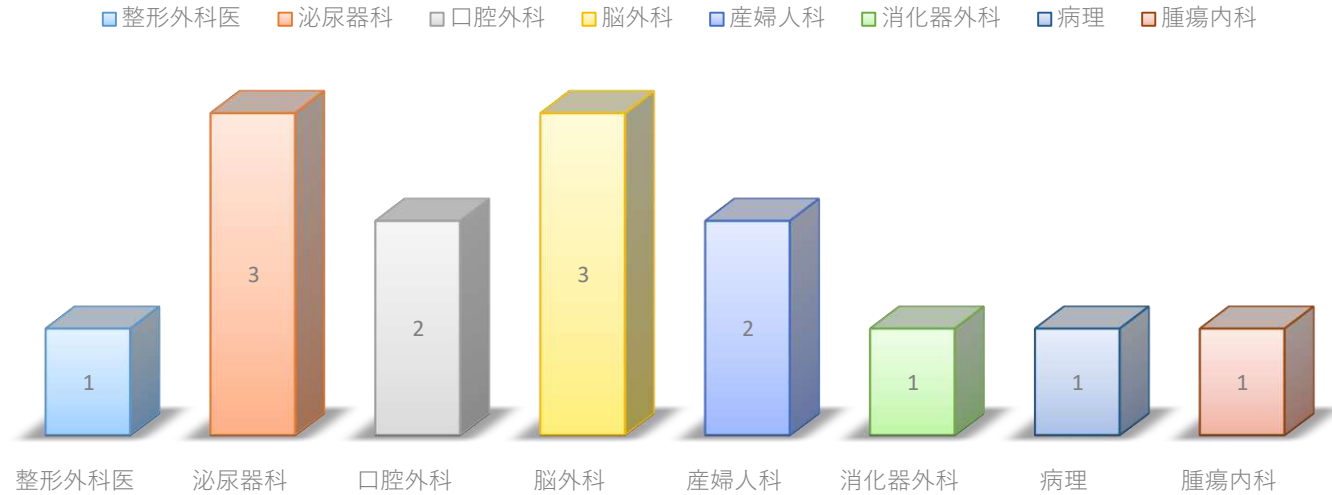
### ◆インテンシブコース 平成29年10月受入開始（一部30年4月受入開始）

コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計
がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11			25
個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3			7
がんゲノム多職種連携入門	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	13			45

# 本科コース受講生内訳

## 職種内訳

### ◆医師コース



### ◆薬剤師コース

■ 薬剤師



薬剤師

### ◆医学物理士コース

■ 診療放射線技師

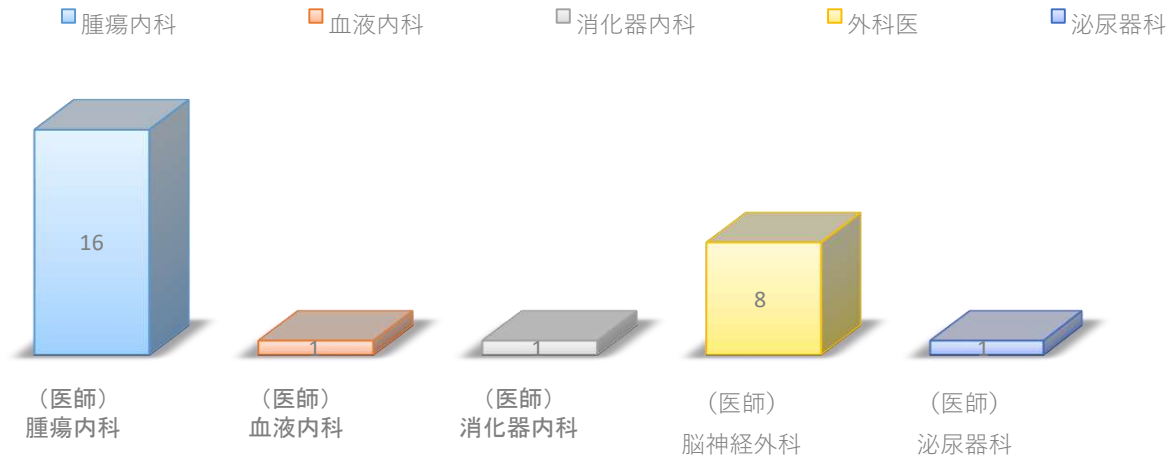


臨床検査技師

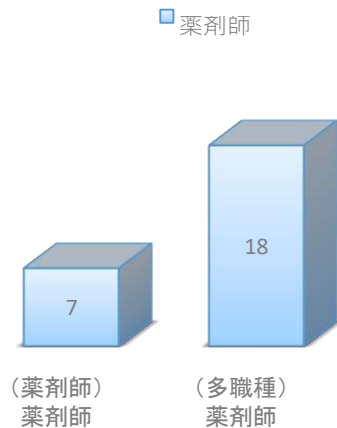
# インテンシブコース受講生内訳

## 職種内訳

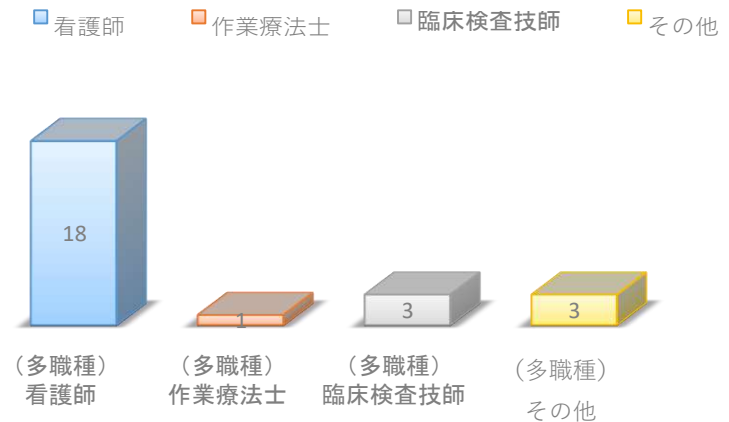
### ◆医師コース



### ◆薬剤師コース



### ◆医学物理士コース



# 実施行事

## ◆金沢大学主催行事

主催	月	日	行事	内容	
金沢大学	4	17	がんサロン	がんサロンハーモニー「免疫療法の最新情報」	
	5	15	がんサロン	がんサロンハーモニー「薬剤師さんに聞いて見よう～上手な医薬品情報の使い方～」	
	6	15	がんサロン	<b>第43回日本頭頸部癌学会 市民公開講座（日本頭頸部癌学会 共催）</b>	
	6	19	がんサロン	がんサロンハーモニー「NST・栄養サポートチームの試み～サルコペニアと腸能力のおはなし～」	
	7	11	FD	石川県がん診療連携拠点病院研修会 「大腸癌薬物療法の最新のトピックスと展望」 国立がん研究センター東病院 消化管内科 科長吉野 孝之先生 ほか	
	7	17	がんサロン	がんサロンハーモニー「自分にご褒美、癒しのスキンケア」	
	9	18	がんサロン	がんサロンハーモニー「大腸がん治療で大事なこと」	
	9	21	会議	第31回石川県がん診療連携協議会	
	10	16	がんサロン	がんサロンハーモニー「心とからだに寄り添う音楽療法」	
	10	17	FD	第44回石川県がん診療連携拠点病院研修会 「クリニカルパスの基礎」 名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター 副センター長助教 船田 千秋先生 ほか	
	10	20	市民公開講座	北信がんプロ市民公開講座「令和元年最新のがん医療」	
	11	20	がんサロン	がんサロンハーモニー「がんと就労支援～ハローワークの出張相談を受けてみませんか～」	
	12	18	がんサロン	がんサロンハーモニー「患者力を高めよう」	
	1	15	がんサロン	がんサロンハーモニー「がん口コモ～あなたの骨と関節は大丈夫ですか～」	
	2	19	がんサロン	がんサロンハーモニー「がんと遺伝子/ゲノムと遺伝子～遺伝カウンセリングをご存知ですか～」	
	3	5	FD	第45回石川県がん診療連携拠点病院研修会 「消化器癌に対する放射線治療の役割と治療開発の状況」 昭和大学医学部 放射医学講座 放射線治療学部門 教授 伊藤 芳紀先生 ほか	開催中止
3	18	がんサロン	がんサロンハーモニー「対話のための対話～雑談しましょう～」	9月へ延期	

# オンコロジーセミナー

## 北信がんプロ 第10回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、  
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2020年2月7日(金) 18:00~20:00	金沢大学医学類B棟 1F 小会議室
プログラム	

### I. 症例検討会

【症例1】「10年以上肝転移再発治療を行ってきた  
乳癌患者に対するがん遺伝子パネル検査」  
山梨大学大学院 医学工学総合研究部 第1外科  
講師 井上 慎吾 先生

【症例2】「ニボルマブ投与中に劇症1型糖尿病を発症した  
腎細胞癌の1例」  
金沢大学附属病院 泌尿器科  
医員 楢瀬 佳樹 先生

### II. 特別講演

#### 「がんゲノム医療の実地臨床における課題」

岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻  
腫瘍制御学講座(臨床遺伝子医療学分野)  
教授 平沢 晃 先生



#### 受講手続き(大学院生)

・受講を希望する学生は履修届を  
所属大学の学務係に提出してください。  
・詳細は所属大学の学務係にお問い合わせください。

#### 問い合わせ先

・ご不明な点は所属大学の学務担当係または  
北信がんプロ事務局にお問い合わせください。

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成  
北信がんプロ事務局  
[金沢大学医学類B棟1階] 〒920-8640 金沢市本町13-1  
TEL 076(234)4205/ FAX 076(265)2855



E-mail [gpro@med.kanazawa-u.ac.jp](mailto:gpro@med.kanazawa-u.ac.jp)  
<http://www.gan-pro.net/>

オンコロジーセミナーへの  
ご参加お待ちしております！  
※北信がんプロe-learning講義対象の演習です※

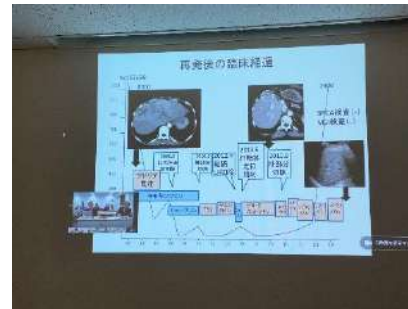
北信がんプロ第10回オンコロジーセミナーにおいて、金沢大学は症例発表を担当いたしました。

発表者: 金沢大学 泌尿器集学的治療学

楢瀬 佳樹 医員

「ニボルマブ投与中に臨床的劇症1型糖尿病を発症した腎細胞癌の1例」

(第10回オンコロジーセミナー 参加人数:84名)



金沢大学ではゲノム医療に関する内容を  
中心にオンコロジーセミナーの企画を予定

2018年12月8日 第1回(実施済)

2019年2月7日 第6回(実施済)

2020年4月9日 第11回

2021年7月~9月



# 若年がん患者妊孕性温存の現状

(2015年～2017年金沢大学附属病院)

がん腫	患者数	温存希望あり	温存実施
子宮頸がん	101 (25%)	30	0
乳がん	59 (14%)	7	4
甲状腺がん	47 (11%)	2	0
その他	205 (59%)	20	7
計	412	59 (14%)	11 (3%)

(希望者の19%)

- 後方視的検討(電子カルテの記載から情報を収集)。
- 平均年齢 33.7歳(中央値35歳、20-40歳)。
- 妊孕性温存希望の有無が**不明**の症例は**約7割**。
- 温存実施患者の診断から治療開始までの平均日数46日。



- アンケート方式で意思表示を明確にする必要あり。
- 温存療法希望時のシステム構築が必要。



石川県議会で問題提起  
(2019年11月)

石川県がん診療連携協議  
会で医療従事者の勉強会  
を提案 (2020年3月)



## 北信地域における障がい者のがん医療の実態を明らかにするための後方視的検討

長野県、富山県、石川県、福井県の

障がい者医療費受給者証情報の提供に賛同した10施設からがん登録情報を収集

				病期別割合(%)						症例数			
	全症例数	年齢中央値 (範囲)	男女 比	0	I	II	III	IV	不明	手術例 (%)	大腸癌 (%)	胃癌 (%)	肺癌 (%)
全体 健常者 障がい者	85953	68 (0-106)	5 : 4	7	34	14	11	15	19	25188 (29.3)	10828 (12.6)	10064 (11.7)	10145 (11.8)
	83483 (97.1%)	68 (0-106)	5 : 4	7	34	14	11	15	18	24424 (29.2)	10417 (12.5)	9784 (11.7)	9878 (11.8)
	2470 (2.9%)	72 (0-101)	3 : 2	5	34	14	10	15	21	764 (30.9)	411 (16.6)	280 (11.3)	267 (10.8)

- 障がい者のがん症例も、様々な臓器にがんが発生しており、積極的にがん治療されていた
- Stage 0やIの早期がんも健常人と同様に診断されていた

### 【今後の課題】

院内がん登録データのみならず、障がいの種類や生命予後、治療期間を含めたデータの追加解析し、障がい者がん患者の医療に対するニーズを明らかにする必要がある

**第43回 石川県がん診療連携拠点病院研修会**

日時 令和元年7月11日(木) 18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外装改修中4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

特別講演 I 18:00～19:00  
 座長: 大坪 公士郎先生 (金沢大学附属病院がんセンター)  
**「大腸癌薬物療法の最新のトピックスと展望」**  
 国立がん研究センター東病院 消化器内科 科長 吉野 孝之先生

特別講演 II 19:00～20:00  
 座長: 竹内 伸司先生 (金沢大学附属病院がんセンター)  
**「がんゲノム医療の臨床実装」**  
 京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 教授 武藤 学先生

問合せ先 金沢大学附属病院 医事課  
 TEL:076-265-2000 FAX:076-234-4307  
 (内線 3645)

**第44回 石川県がん診療連携拠点病院研修会**  
 (合同開催:第22回クリニカルパス大会)

日時 令和元年10月17日(木) 18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外装改修中4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

講演者 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院がんセンター)

特別講演 I 18:00～19:00  
 座長: 伏田 幸夫先生 (金沢大学附属病院 消化器外科)  
**「クリニカルパスの基礎」**  
 演者:名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター 副センター長 助産 船田 千秋先生

特別講演 II 19:00～20:00  
 座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院がんセンター)  
**「非小細胞肺癌治療における有効性 UP Date と安全性対策」**  
 演者:和歌山県立医科大学 呼吸器内科・腫瘍内科 教授 山本 信之先生

問合せ先 金沢大学附属病院 医事課  
 TEL:076-265-2000 FAX:076-234-4307  
 (内線 3645)

北信がんプロ市民公開講座  
 文部科学省 平成29年度採択 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材」育成プラン  
 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

**令和元年 最新のがん医療**

日時 令和元年10月20日(日)  
 13時00分～15時30分  
 (開場:受付開始 午後12時00分)

場所 金沢大学宝町キャンパス 十全講堂  
 Y920-0640 石川県金沢市宝町13-1

入場無料  
 定員500名

Open course in Kanazawa

第1部 **金大病院の実力 最新の集学的治療はこれだ!**  
 座長 金沢大学附属病院 副院長 藤田 敏文 氏  
 金沢大学附属病院 看護部長 渡邊 美紀 氏

「金大病院のダビンチ手術」 金沢大学附属病院 泌尿器科部長/准教授 角野 佳史 氏  
 「集学的な精密放射線治療」 金沢大学附属病院 放射線科部長/講師 高松 雅行 氏  
 「日進月歩のがん薬物療法」 金沢大学附属病院 外来化学療法センター長/講師 大坪 公士郎 氏

第2部 **金沢で受けられるがんゲノム医療**  
 座長 金沢大学附属病院 がんセンター/部長 矢野 聖二 氏  
 金沢癌研の癌研会「研心会」代表 岩田 真由美 氏

「ゲノムのABC」 金沢大学がん遺伝子診断研究開発センター 教授 松本 邦夫 氏  
 「金大病院のがんゲノム医療」 金沢大学附属病院 がんセンター 講師 竹内 伸司 氏  
 「金大病院の遺伝カウンセリング」 金沢大学附属病院 遺伝学講座 特任教授 渡邊 洋 氏  
 「ゲノム医療としての免疫子チェックポイント阻害療法」 金沢大学医学部 山田 智彦 氏

主催:北信がんプロ(超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成)、北信癌研会  
 共催:石川県がん診療連携拠点会、金沢大学がん遺伝子診断研究開発センター、金沢大学附属病院がんセンター  
 後援:石川県、金沢市、石川県医師会、金沢市医師会、石川県看護協会、石川県癌研協議会、石川県看護協議会、ナレド金沢、金沢ケアヘルスピア、エフエム石川、北信放送

参加お申し込みについては「北信がんプロ」ホームページまたはお問い合わせください

お問い合わせ申し込み先  
**金沢大学 北信がんプロ事務局**  
 Y920-3640 石川県金沢市宝町13-1 TEL:076(234)4205、076(265)2654 FAX:076(265)2655  
 http://www.gan-pro.com/ e-mail:groomed@kanzawa-u.ac.jp

**第43回日本頭頸部癌学会 市民公開講座**

**甲状腺癌を知ろう**

日時 6月15日(土) 10:00～12:00 場所 金沢市アートホール (Y920-0853 2階) 定員500名(15:00～17:00)

座長 吉崎 智一 (金沢大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授)

演者 「超音波検査でしっかり発見! 甲状腺がん」  
 萱野 大樹 (金沢大学 検査放射線科 助産)

「甲状腺癌治療の軸 手術治療」  
 石川 和也 (金沢大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助産)

「核医学治療でやつつけよう! 甲状腺がん」  
 若林 大志 (金沢大学 検査放射線科 助産)

「甲状腺癌治療の切札的存在 薬物療法」  
 西山 明宏 (金沢大学がん遺伝子診断研究開発センター 准教授)

参加費 無料

日本頭頸部癌学会 北信がんプロ 北信新聞社



### DNA変異で無限に増殖

がんは細胞の遺伝子DNAに変異が生じ、無限に増殖するようになる。ゲノム医療は、この変異を特定し、治療に役立てる。金沢大学は、ゲノム医療の最先端を走り抜けている。

ゲノム医療は、がん細胞の遺伝子DNAに変異が生じ、無限に増殖するようになる。ゲノム医療は、この変異を特定し、治療に役立てる。金沢大学は、ゲノム医療の最先端を走り抜けている。



【第4】ゲノムのABC  
松本邦夫氏(金沢大学がんゲノム医療センター長)

### 遺伝子検査で最適治療を

がんの遺伝子検査は、最適な治療法を選択するための重要なツール。金沢大学は、遺伝子検査の精度と信頼性を向上させている。

がんの遺伝子検査は、最適な治療法を選択するための重要なツール。金沢大学は、遺伝子検査の精度と信頼性を向上させている。



【第5】金大病院のがんゲノム医療  
竹内伸司氏(金沢大学がんゲノム医療センター長)

### 正しい情報伝え不安軽減

がん患者は、正しい情報を得ることが、不安を軽減し、治療に専念するための鍵。金沢大学は、患者への情報提供を強化している。

がん患者は、正しい情報を得ることが、不安を軽減し、治療に専念するための鍵。金沢大学は、患者への情報提供を強化している。



【第6】金大病院の遺伝カウンセリング  
海老澤浩二氏(金沢大学がんゲノム医療センター長)

### 免疫機能高め対抗

がん細胞は免疫システムを回避して増殖する。免疫機能を高め、がん細胞と対抗する。金沢大学は、免疫療法の研究を進めている。

がん細胞は免疫システムを回避して増殖する。免疫機能を高め、がん細胞と対抗する。金沢大学は、免疫療法の研究を進めている。



【第7】ゲノム医療としての免疫チェックポイント阻害薬  
山田雄也氏(金沢大学がんゲノム医療センター長)

## 令和元年 最新のがん医療

北信がんプロ 市民公開講座

金大など北陸三県と長野県の6大学で取り組む、がん専門医療人材養成プラン「北信がんプロ」は、金大聖野キャンパスの10全講堂で、市民公開講座を開催しました。金大附属病院のがん専門医らがロボット手術、薬物療法、放射線、ゲノム医療をテーマに、最新の研究と医療について分かりやすく解説し、がん医療の最新動向を紹介しました。

## 開会あいさつ

北信がんプロ 市民公開講座 開会あいさつ 金沢大学学長 蒲田敏文氏

今回の講座は金沢大学が単独で開催します。お話しする研究や治療方法はすべて金大附属病院が実際に取り組んでいるものです。来場者の皆さんにとって、最新のがん医療をより身近に感じてもらえるのではないかと思います。

このうち、遺伝子を調べて治療に役立てるゲノム医療は、従来のがん医療の常識を大きく変えると言われています。金大附属病院が力を入れて取り組んでいる分野であり、今年9月には厚生労働省からがんゲノム医療拠点病院の指定を受けました。皆さんに充実した医療を提供できるよう努めています。



今回の講座は金沢大学が単独で開催します。お話しする研究や治療方法はすべて金大附属病院が実際に取り組んでいるものです。来場者の皆さんにとって、最新のがん医療をより身近に感じてもらえるのではないかと思います。

このうち、遺伝子を調べて治療に役立てるゲノム医療は、従来のがん医療の常識を大きく変えると言われています。金大附属病院が力を入れて取り組んでいる分野であり、今年9月には厚生労働省からがんゲノム医療拠点病院の指定を受けました。皆さんに充実した医療を提供できるよう努めています。

# 最前線の治療、研究紹介

### 【第1部】金大病院の実力 最新の集学的治療はこれだ!

## ロボット使い安全追求

がん治療の最先端を走る金大病院。ロボット手術の精度と安全性を追求し、患者の負担を軽減しています。

がん治療の最先端を走る金大病院。ロボット手術の精度と安全性を追求し、患者の負担を軽減しています。



【第1】金大病院のダビンチ手術  
角野佳史氏(金沢大学附属病院がん外科部長)

### 【第2部】集学的な精密放射線治療

## 腫瘍だけに強力照射

放射線治療は、腫瘍だけに強力照射し、正常組織を保護する。金大病院は、集学的な治療法を開発しています。

放射線治療は、腫瘍だけに強力照射し、正常組織を保護する。金大病院は、集学的な治療法を開発しています。



【第2】集学的な精密放射線治療  
高松繁行氏(金沢大学附属病院放射線科部長)

### 【第3部】日進月歩のがん薬物療法

## 新薬で副作用少なく

がん治療は日々進化しています。副作用が少なく、効果が大きい新薬が開発されています。

がん治療は日々進化しています。副作用が少なく、効果が大きい新薬が開発されています。

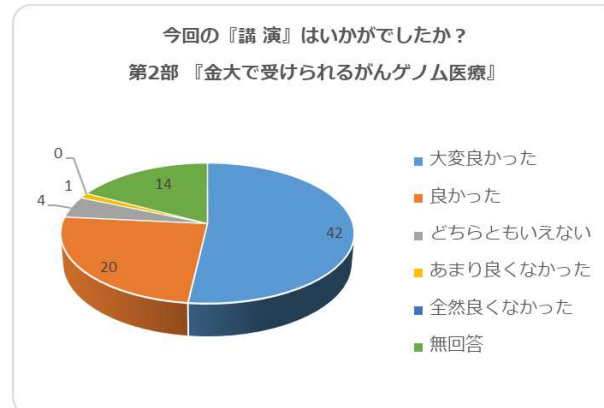
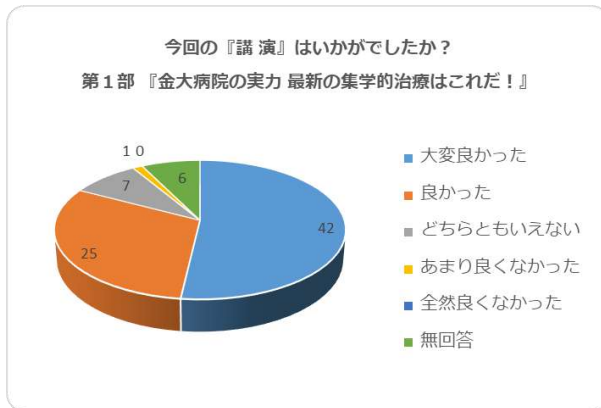
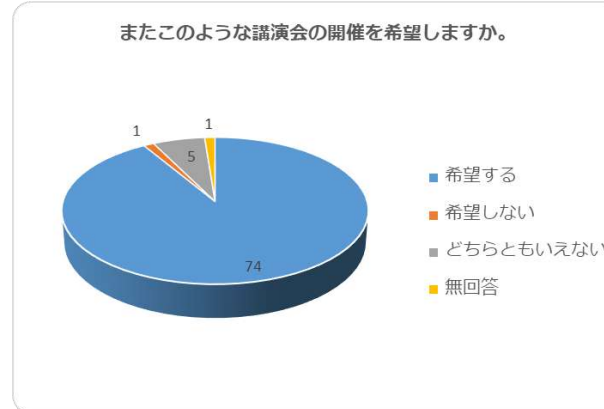
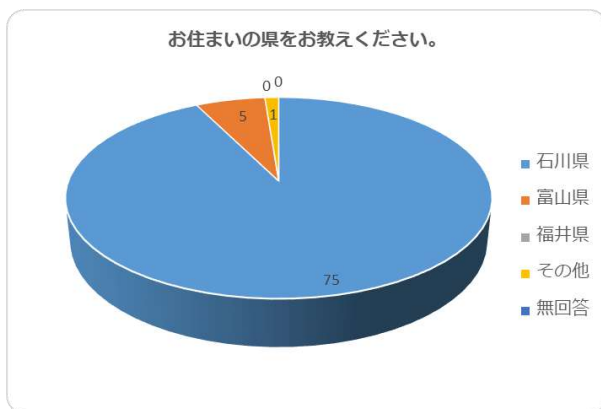
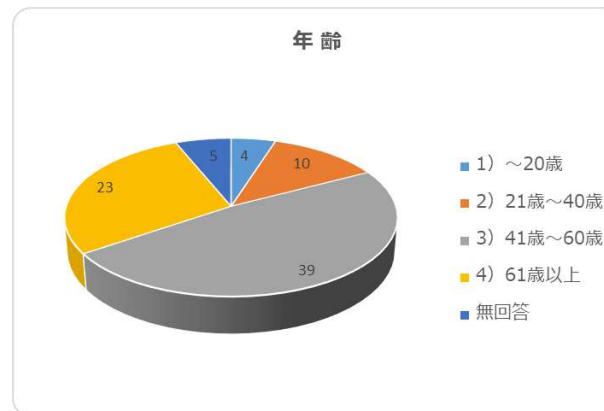
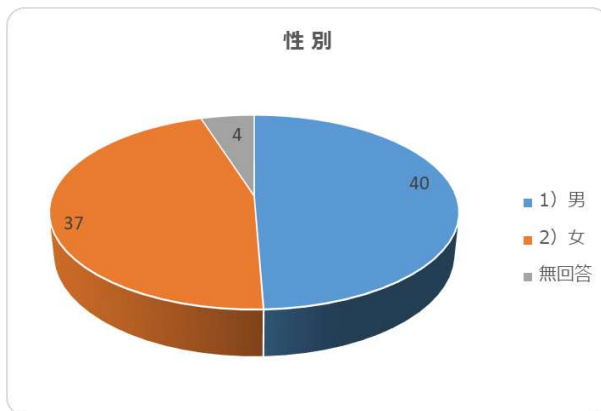


【第3】日進月歩のがん薬物療法  
大坪公土郎氏(金沢大学附属病院がん内科部長)



主催：北信がんプロ(北陸3県と長野県での先進的がん医療人養成)、北信新聞社

# 市民公開講座での参加者の声（アンケート結果）

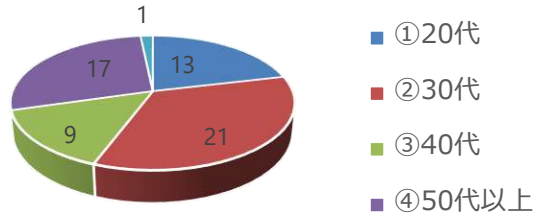


# 市民公開講座での参加者の声（アンケート結果）

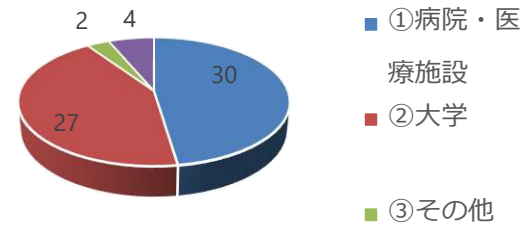
アンケート項目	ご意見・ご感想
<p>取り上げて欲しい テーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婦人科系のこともお聞きしてみたい</li> <li>・100才人生を生きる健康法についての健康すこやか生活をすすめてほしい</li> <li>・遺伝子とがん化されないようにする生活、食事など。</li> <li>・がん治療の例を年齢別に多くおしえてほしい</li> <li>・白血球、若年患者の治療</li> <li>・光免疫療法について</li> <li>・緩和ケアについて。ホスピスとか。終末期医療。</li> <li>・学生さんの発表はわかりやすくてよかった。</li> <li>・在宅医療（訪看 訪診他）と病院でのリハビリ強化について</li> <li>・がんの予防や早期発見をするための心がけやがん検診それ自体についてや受け方について</li> <li>・ガン末期寸前の友人が心も体も苦しんでいる。その時の治療法は？私らの言葉かけはどうしたら良いのかな？</li> <li>・医師から見る、患者や家族の治療選択への支援</li> <li>・ゲノム</li> <li>・最新の外科手術、化学治療の最新薬</li> <li>・乳がん 腎がん</li> <li>・高血圧と塩分=ガンとのかかわり。昔は(年齢+90)と言われたけど何処現代は130以上なのか？</li> <li>・膵臓癌について 手術 術後 再発転移が一事不安の中で生活している</li> <li>・経営や会計とコンピューター、AIの関係性の今と今後</li> <li>・学生さんの話はわかりやすかった・集学的治療はわかりやすかった。</li> <li>・全体的なこともお聞きしたいのですが、メジャー？でない種の専門的なこともお聞きできる機会があるとありがたいと思います。 方向性など。</li> </ul>
<p>ご意見、ご感想をお聞 かせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒かったです。会場に冷たい風が吹いていたのが辛かったです。</li> <li>・参加費は有料でもよいので各先生方の資料があると良かったです。特に竹内先生。</li> <li>・身近に医療についてふれる時間をもつことができ、ありがとうございました。</li> <li>・今後の新しい治療がまた受けられるということで興味深く聞きました。金沢で最新の検査、治療が受けられるということうれしく思います。</li> <li>・家族にもがん発症はケースがあり ゲノム医療の話 大変勉強になりました。</li> <li>・講演内容が高度で専門用語が多いので各テーマについて事前に要点項目だけでも記した資料を用意配布、この中に受講者がメモ追記できる様にして貰えたら有難い。事務局は大変だろうが改善してほしい。ゲノムのABC等は初歩的な基礎を教えてもらってわかった。良かった。</li> <li>・がんゲノム医療や遺伝子パネル検査が徐々に保険診療としてみとめられていることがわかり今後の治療に希望がもてた。今後の医療の発展に期待したいです。</li> <li>・パワーポイントで表示される資料を紙に印刷したもので配布してもらえれば、家に帰って復習する時より理解が深まると思われます。せっかくのすばらしいデータが目の前をさっささささっと通りすぎるだけでもったいないと思います。外部に出せないのもあるかと思いますが。</li> <li>・本日の話は分かりにくかった。スピードが早すぎて理解不能。時間の関係か各講師の話のスピードが早く理解できなかった。今日の時間ならば、第1部だけでよかったのではないか。市民を相手にする場合ゆっくり話をした方が良い。</li> <li>・初めて参加しました。主人が大腸がんの手術をして治療中でありいろいろ勉強になりました。ありがとうございました。</li> </ul>

# オンコロジーセミナーでの学生からの声 (アンケート結果)

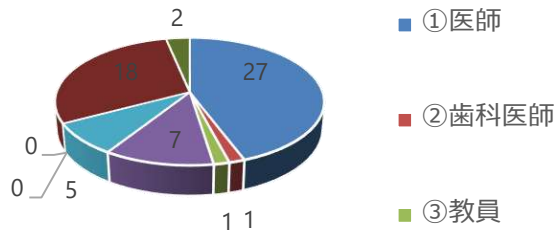
## 年齢



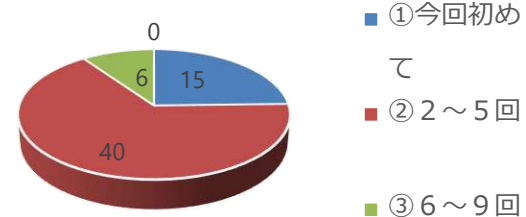
## 所属【複数回答有】



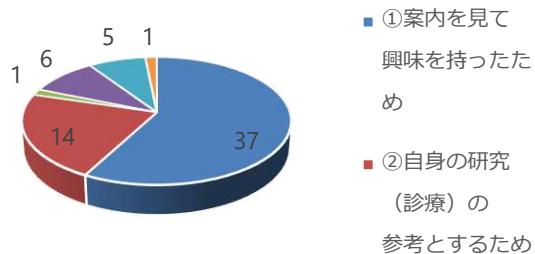
## 参加者職種



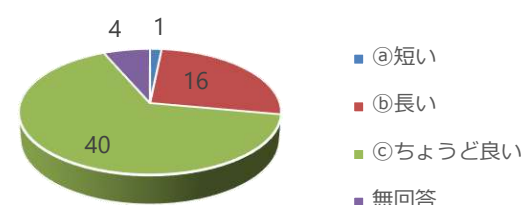
## オンコロジーセミナー参加回数



## 参加動機【複数回答有】

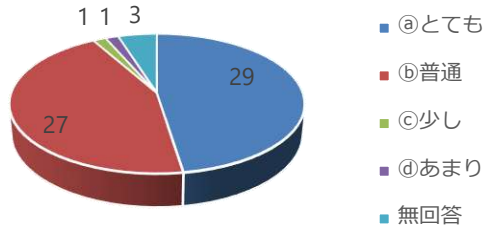


## 所要時間はどうでしたか?

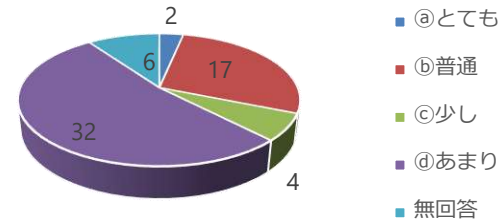


# オンコロジーセミナーでの学生からの声 (アンケート結果)

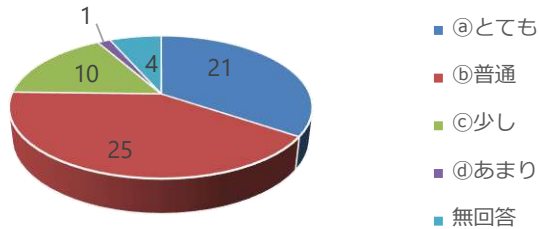
内容は参考になりましたか？



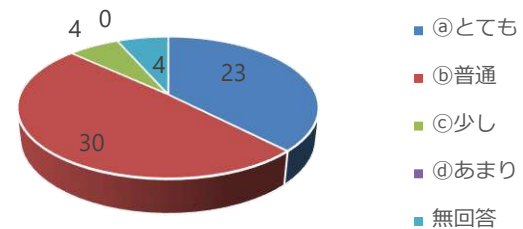
会場での討議に積極的に参加できましたか？



今後の活動に活かせると思いますか？



今後も参加したいと思いますか？



## アンケート項目

## ご意見・ご感想

ご意見、ご感想をお聞かせください。

- ・自分は医療従事者ではないので、臨床の話を聞く機会があるということはとても勉強になります。ただ専門知識がないのでフォロー出来ない点もありますがそれはそれでしょうがないと思ってます。
- ・平沢先生の話がとてもわかりやすかったです。
- ・HBOC診療の現状と、Samatiの中でのgermlineのあり方など知る考える機会をいただけてとても良かったです。
- ・勉強になった。
- ・HBOCについての最新情報が聞けて良かったです。
- ・RRSOやRRMなど難しい問題だと思いました。
- ・難しい内容だった。

# 今後の展望

3/6総務委員会の結果などを受けて  
今後の計画反映

**A 各大学の特徴を生かした具体的な有機的な連携  
北信4県における妊孕性保存の連携体制の構築**

**B 相互評価する体制  
相互評価体制の構築**

**C 本事業の普及・促進の具体的な取り組み  
小中高のがん教育に役立つ資材を作成する**



# 外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： \_\_\_\_\_

## 【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

(優れた点)

(改善を要する点)

## 外部評価結果（総括）

<b>【評価結果】</b>
<input type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。
<input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。
<input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント]
(優れた点)
(改善を要する点)

**平成29年度大学教育再生戦略推進費  
「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材  
(がんプロフェッショナル)」養成プラン」  
申請書**

【様式1】

**事業の構想等**

申請担当大学名 (連携大学名)	金沢大学 (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学) 計6大学
事業名 (全角20字以内)	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

事業責任者 連絡先	職名・氏名	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授・矢野 聖二
	TEL	076-265-2780
	FAX	076-234-4524
事務担当者 連絡先	E-mail	syano@staff.kanazawa-u.ac.jp
	職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部学生課長・中平 泰
	TEL	076-265-2126
	FAX	076-234-4208
	E-mail	iyakuhogakusei-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉2期の北陸がんプロ(金沢大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大)では、1)本科生充足率138%の達成、2)チーム医療の柱となる延べ139名の認定資格取得者輩出、3)TV会議システムを活用したがんプロキャンサーボード(109回、194症例、6,337名参加)による多施設・多職種連携の基盤構築、4)小・中学校教諭向けがんe-learning教材の作成・無料配布等、特色ある活動によって北陸地域のがん医療・がん教育向上に貢献し、地域でのがん医療人材育成システム構築の基盤が形成された。

本事業では、先駆的ゲノム医療を実施し、平成7年に全国初の遺伝子診療部を設立した信州大を加えた国公私立の6大学(北信がんプロ)で、北信地域でのがん医療人材育成に取り組む。北信地域には金沢大がん進展制御研究所の高い基礎研究力、附属病院の高い臨床研究力(医師主導治験4件立上げ/3年間)や国内・国際連携力(国立がん研究センターや復旦大等と連携協定締結)、信州大の遺伝カウンセラー養成等先進的特徴がある。また、北信地域は全国と比較し、15年以上進んだ超少子高齢化状態にあり、将来の日本を反映したモデル地域である。北信地域でも全国と同様最先端のゲノム医療による高度医療実現、小児・AYA世代・希少がん治療、ライフステージごとの対応が必要だが、進行した超少子高齢化により、社会を支える小児・AYA世代・働き盛り世代がんの最適な診療・治療・就労支援、増加した高齢者がんの最適な治療・在宅緩和ケアが喫緊のニーズである。これまでは金沢大の先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大の小児・AYA世代がん診療、金沢医大の希少がん病理診断や集学的治療、富山大の高齢者がん対策、福井大の先進的在宅緩和ケア、石川看護大の全人的ケアと認定看護師養成等、各大学が特徴ある診療やがん医療人育成を行ってきた。しかし北信地域では医療スタッフが少ない、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人育成における地域的医療課題がある。北信地域に適合するがん医療人材育成のためには、6大学の強みを生かした相互補完的教育の実施、症例数が少ないがんでも効率よく経験できる遠隔教育・研修システムの確立、北信地域全体の症例・がん医療のデータベース化による医療実態の把握等に取り組み、**県の枠を超えた戦略的がん医療人育成システム構築が必要**である。現状の北信地域で多様なニーズに対応した患者中心のチーム医療を行う先進的がん医療人材育成モデルを構築できれば、将来の日本の超少子高齢化社会で活躍するがん医療人材を育成できると考えられる。

### 〈事業の概要〉

本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人材育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

## ②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデル確立を目指す本事業は、「高度職業人養成に資する学習事業や、付加価値が高い学習事業を開発・実施する」とする金沢大の行動計画（YAMAZAKIプラン2016:VISION VIII）と完全に合致する。また、本事業における連携校のそれぞれの強みを生かした相互補完的教育プログラム、多施設・多職種連携の演習による医療人材教育システム構築は、「大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する」とする金沢大第3期中期目標を実践するプロジェクトである。

## ③新規性・独創性

本事業（北信がんプロ）においては、北信6大学の強み（金沢大：先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大：がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、小児・AYA世代がん診療、金沢医大：希少がん病理診断や集学的治療・就労支援、富山大：高齢者がん対策、福井大：先進的在宅緩和ケア、石川看護大：患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成）を生かした相互補完的教育プログラムを19コース新設（本科10コース、インテンシブ9コース）し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換の導入によって、北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる特色がある。

また、2期がんプロでの北陸5大学と共通のTV会議システムを信州大にも導入し、TV会議システムを活用した従来の北陸がんプロキャンサーボードをさらに充実・発展させた、北信地域での遠隔教育システムの構築・活用に取組む。遠隔教育システムにより6大学やがん診療連携拠点病院の専攻生や教員、医療スタッフ等の多職種が一堂に会する北信オンコロジーセミナー（病態や治療中心）やライフステージ事例検討会（患者ケア・支援中心）を定期開催する。これにより北信地域全体の多職種が、最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習することができる。地域医療機関との人材交流、金沢大がん進展制御研究所や国立がん研究センター、シンガポール国立大、復旦大等との連携を利用した国際シンポジウムも実施する。さらに、各大学教員を海外連携機関へFD研修に派遣（平成33年度末までに各大学1回）し、スタッフの活性化とレベルアップを図る。海外FD研修の参加者は、上記TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表（成果共有・還元）すると共に、多職種のスキルアップ指導を行う。これらの取組みによって、多施設・多職種連携を一層推進するチーム医療教育を行うところに本事業の独創性がある。

北信地域のがん症例・がん医療（先進的医療を含む）の実態を把握するため、北信地域のがん診療連携拠点病院（28施設）の院内がん登録データを活用するとともに、金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネージメント部門）が作成する電子入力システム（Ptoshを応用）を用い、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬使用症例、在宅緩和ケア実施症例、障がい者がん症例、妊孕性保存症例など特色ある症例を対象とした独自の北信地域がんデータベースを新たに構築する。それを基盤とした臨床研究（高額な薬剤の有効利用法の探索を含む）成果の国内・国際学会発表や英語論文発表を推進することで、専攻生や教育スタッフの意欲を高め、本事業の求心力を保ち、データベースの情報や論文等の成果を北信がんプロの教育コースへも還元する。研究成果を継続的に社会に発信・還元することで、将来のがん対策の一環として地域住民へ「がん教育（がんの理解）・予防・検診受診・早期発見・早期治療・早期社会復帰」に対する啓蒙を行う。

以上の県の枠を超えた戦略的がん医療人材育成システム構築活動により6大学から輩出される医師・歯科医師・薬剤師・看護師・遺伝子カウンセラー等は、現状の北信地域、ひいては将来の日本の超少子高齢化社会において、ゲノム医療や多職種による就労支援及び切れ目ない緩和ケアを実践し活躍できる先進的がん医療人材となることが期待されるが、このような育成モデル確立に挑戦する点に最大の新規性がある。

#### ④社会との関係（がん患者及びその家族等の視点）

信州大を中心とした遺伝カウンセラー養成では、家族性腫瘍（乳がん、卵巣がん等を含む）の患者・家族のカウンセリングを行い、心のケアや検診・早期発見・早期治療を支援する。また、北信地域の患者会等と連携し、地域メディア（テレビ、新聞、雑誌等）や合同市民公開講座を通じて地域住民にがん教育を行い、がん予防、検診受診による早期発見・早期治療、早期社会復帰等の啓蒙活動を積極的に行う。これらの活動を通じて患者や家族の意見を収集し、北信がんプロ運営協議会でその対応を議論し、がん患者及び家族の視点に立った取組みを推進する。また、2期北陸がんプロでは小・中学校教諭向けがんe-learning教材を作成し、北陸3県の小・中学校に無償配布を行った。本事業ではゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん等の内容を盛り込んだ教材の改訂を行い、北陸3県に加えて長野県や高校にも配布し、がん教育を支援する。全国的にも実態が把握されていない障がい者のがんや特にAYA世代のがん患者や家族において重大な問題となる妊孕性保存についても北信地域がんデータベースで実態を把握し、患者や家族のための対策立案に取組む。

#### ⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画, 働きやすい職場環境, 勤務継続・復帰支援等も含む。)

北信がんプロでは教員（各大学数名ずつ）を海外連携機関へFD研修に派遣し、後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行う。また、多職種連携、役割分担によるチーム医療を通じて業務の効率化を試み、女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指す。2期北陸がんプロで看護師の復帰支援の取組を行い実績を上げたが、連携施設間で他施設の長所を取り入れ、医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行う。

#### ⑥達成目標・評価指標

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：平成29年10月（一部平成30年4月より開始）
- ・教育プログラム・コースの実施数：本科コース 10、インテンシブコース 9、計19コース

これらの教育プログラム・コースにより、本事業全体として、355名の医師、薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー等を輩出し、北信地域における超少子高齢化社会に対応した地域医療従事者の輩出および北信地域医療へ貢献する。  
（職種別数値目標は右の表を参照）

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。  
（それぞれの数値目標は右の下表を参照）

教育コース	対象	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大 先進的個別化医療	医師等	5	5	5	5	20
個別化薬物療法	薬剤師	1	2	2	2	7
高度化医学物理士	物理士	2	2	2	2	8
信州大 ゲノムがん治療	医師	2	2	2	2	8
遺伝カウンセラー	多職種	1	1	1	1	4
富山大 高齢がん患者対策	医師	4	4	4	4	16
個別化医療薬剤師	薬剤師	1	1	1	1	4
福井大 地域がん専門医	医師	2	2	2	2	8
金沢医大 がん専門医リーダー	医師	2	2	2	2	8
石川看護大 ライフステージ	看護師	2	2	2	2	8
合計		22	23	23	23	91

教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大 がんゲノム生涯教育	医師等	2	6	6	6	6	26
個別化薬物実践	薬剤師	0	1	2	2	2	7
富山大 高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10
高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9
在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7
福井大 在宅栄養管理	医師等	0	12	22	22	22	78
在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	24	96
金沢医大 がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大 がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22
合計		8	55	67	67	67	264

名称	参加校数	開催数	参加者数
多職種連携 北信オンコロジーセミナー	6	18	6,500
セミナー ライフステージ事例検討会	6	30	4,500
FD 海外FD研修	6	1回/校	30
FD講習会	6	3	90
人材交流 国際シンポジウム	6	2	400
市民公開講座	6	5	1,000
地域医療機関での診療	6	3,000	3,000
実態把握 北信地域がんデータベース	7種類以上の機能する疾患データ		

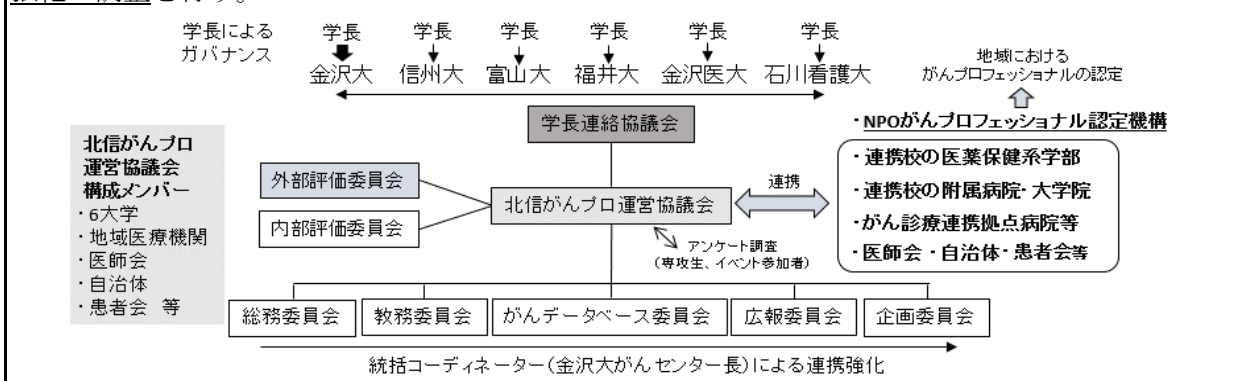
#### （2）教育プログラム・コース → 【様式2】

## 2. 事業の実現可能性

### (1) 事業の運営体制

#### ①事業の実施体制

各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進する。全学長が集まる**学長連絡協議会**を設置し、事業の進捗を管理する。6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による**運営協議会**（年1回開催）を設置し、実際の意思決定及び運営を行う。さらに6大学による**総務委員会**（ステアリングコミッティー）、**教務委員会**、**がんデータベース委員会**（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、**広報委員会**、**企画委員会**等を設置（年数回開催）し、実務を担当する。金沢大学がんセンター長が**統括コーディネーター**として6大学の**連携強化・調整**を行う。



#### ②事業の評価体制

**内部評価委員会**（研究科長等の内部有識者）及び**外部評価委員会**（地域医療機関の長や患者会代表等の外部有識者）を立上げ、事業（特に数値目標の達成状況や一般向け情報発信状態）を定期的（中間、最終）に評価する。各評価委員会が評価結果を北信がんプロ運営協議会に提出し、同協議会で評価に対するPDCAサイクルを回して**事業計画**を見直し、運営状態の改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者への**アンケート調査**を行い、同様に事業内容改善を図る。

#### ③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携6大学では学長連絡協議会・北信がんプロ運営協議会等の実施体制を整備し、各大学の強みを生かした**相互補完的教育プログラムのコース**を設置する他、北信オンコロジーセミナーやライフステージ事例検討会等を実施することで、多施設・多職種連携・チーム医療教育を行いスキルアップを図る。北信地域がんデータベースは金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネジメント部門）による電子入力システム（Ptoshを応用）構築で、**円滑なデータ管理・運用**が可能となるメリットがある。

また、本事業の実施にあたり、金沢大がん進展制御研究所、国立がん研究センター、がん拠点病院・医師会、患者会、海外連携施設、他のがんプロチーム、文科省人材養成プログラム等と連携する。金沢大がん進展制御研究所により**がんゲノム等の基礎知識教育**を実施する。国立がん研究センター（金沢大が連携協定締結）が実施中の**がん遺伝子解析事業(SCRUM-JAPAN)**と連携し、分子標的薬等による個別化医療研究・医師主導治験に関する支援を受け北信がんプロ及び**北信地域の先進的医療の推進**を図る。シンガポール国立大や復旦大等の海外連携施設では教育・医療スタッフが**海外FD研修**（各大学が1回海外外向）を受け、医療のグローバル化を見据えて教育・医療スタッフの能力向上を図るとともに、FD講習会により北信地域の医療従事者や北信がんプロの教育コース専攻生に**教育成果を還元**する。北信4県のがん拠点病院（28施設）や医師会との連携では北信地域がんデータベース作成の支援を受ける一方で、人材交流による**地域がん医療レベルの向上**に貢献する。また、合同市民公開講座開催で**予防・検診受診による早期発見・早期治療・早期社会復帰の概念を市民に啓蒙・普及**させる。4県の患者会とは運営協議会や市民公開講座を通じて患者の意見を広く取り入れ、**患者目線の医療立案**に役立てる。他のがんプロチームとは合同シンポジウムを開催（H30年2月に名古屋大等と血液がんシンポ開催予定）し、連携を深め本事業の普及を図る。他の文科省人材養成プログラム「（未来医療人材養成プログラム、課題解決型高度医療人材養成プログラム（金沢大・北陸認プロ、信州大・次世代スーパードクターの育成）」とも合同シンポジウム等で交流し相互の事業内容の改善を図る。全国規模のe-learningシステムに参画し、**新規教材作成に協力**して本事業の情報発信を行う一方で、**必須科目教材の提供**を受ける。

## (2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

### ①取組の継続に関する構想

将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域ひいては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

### ②事業成果の普及に関する計画

本事業で構築するがん医療人材育成システムは、将来の日本の超少子高齢化社会においても機能するがん医療人材育成モデルであり、国内のがん関連学会（日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会等）や市民公開講座、ホームページ、マスメディア（TV、新聞、雑誌等）等を通じて成果を発信し、国民に「がん教育・予防・検診受診促進・早期発見・早期治療・早期社会復帰」の意識付けができるよう啓蒙に努める。

## 3. 年度別の計画

### (1) 年度別の計画

29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 6月 学長連絡協議会、北信がんプロ各種委員会（総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会、企画委員会、広報委員会）の開催、事業計画（中期、年度）等協議</li> <li>② 6月～各教育コース設置に伴う関係規定等の整備に着手</li> <li>③ 6月 ホームページの立ち上げ</li> <li>④ 6月 全国規模e-learningシステムへの参加</li> <li>⑤ 7月 北信がんプロ運営協議会の開催（事業計画承認・決定）</li> <li>⑥ 8月 北信地域がんデータベース構築に着手</li> <li>⑦ 9月 北信オンコロジーセミナー（TV会議方式）の開始（2回/年度）</li> <li>⑧ 9月 FD講習会の開催（海外FD研修の説明）</li> <li>⑨ 10月 ライフステージ事例検討会（TV会議方式）の開催（2回/年度）</li> <li>⑩ 11月 教育コースの一部開始（インテンシブコースの一部）</li> <li>⑪ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑫ 1-3月 海外FD研修（2大学が実施予定）</li> <li>⑬ 3月 内部評価委員会の開催</li> </ul>
30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議）</li> <li>② 5月 北信がんプロ運営協議会の開催（事業年次計画の承認・決定）</li> <li>③ 5月 ライフステージ事例検討会（TV会議方式）の開始（7回/年度）</li> <li>④ 6月 北信オンコロジーセミナー（TV会議方式）の開始（4回/年度）</li> <li>⑤ 9月～海外FD研修（4大学が実施予定）</li> <li>⑥ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑦ 1月 国際シンポジウムの開催</li> <li>⑧ 3月 外部評価委員会（中間）の開催</li> <li>⑨ 3月 FD講習会の開催</li> </ul>
31年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～④ 前年度事業と同じ</li> <li>⑤ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑥ 3月 内部評価委員会の開催</li> </ul>
32年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～⑦ 前年度事業と同じ</li> <li>⑧ 2月 国際シンポジウムの開催</li> </ul>
33年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～⑤ 前年度事業と同じ</li> <li>⑥ 1月 内部評価（最終）の実施</li> <li>⑦ 2月 外部評価（最終）の実施</li> <li>⑧ 3月 事業成果報告会の開催</li> </ul>
34年度 [補助期間 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議）</li> <li>② 4月～北信地域がんデータベース関連の会議の定期開催（改善・発展のための協議）</li> </ul>

## (2) 事業実施期間に係る補助事業予定額

(単位：千円)

年 度		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
事業予定額		131,900	131,900	131,900	95,800	54,000
内訳	補助金申請予定額	131,900	131,900	131,900	87,000	43,500
	自己負担予定額	0	0	0	8,800	10,500

## (3) 平成29年度の補助金申請予定額の積算内訳

(単位：千円)

経費区分	金額	積算内訳
物 品 費	33,931	設備備品費 29,250千円
		TV会議システム・MCU一式 7,650千円 【⑥⑨関係】
		北信地域がんデータベースサーバ 10,000千円 【⑥関係】
		コンピューター・複合機1式(3台) 1,000千円 【③⑨関係】
		UV&RF-HPLC(液体クロマトグラフ)一式 7,000千円 【⑪関係】
		e-learning教材収録機器 3,600千円 【④関係】
		消耗品費 1,301千円
		プログラム支援・教材用消耗品 1,301千円 【⑩⑪関係】
		分担金配分予定(信州大) 100千円
		大学院コース、講座用消耗品 100千円 【⑦⑩関係】
		分担金配分予定(富山大) 1,700千円
		医療職者セミナー・講座用消耗品 1,700千円 【②⑪関係】
		分担金配分予定(福井大) 180千円
		講座・セミナー用消耗品 180千円 【②⑨関係】
		分担金配分予定(金沢医大) 1,000千円
事業推進用、教材用消耗品 1,000千円 【②⑧関係】		
分担金配分予定(石川看護大) 400千円		
事務用消耗品・図書購入費 400千円 【②⑨関係】		
人件費・謝金	36,373	人件費 10,000千円
		プログラム補助用事務補佐員 175千円×10月×2名=3,500千円 (6月～3月：930円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪⑬関係】
		プログラム担当特任教員 650千円×10月×1名=6,500千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(信州大) 11,013千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：960円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		プログラム担当特任助教 450千円×8月×2名=7,200千円 (8月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		コーディネーター 257千円×9月×1名=2,313千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(富山大) 1,500千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：880円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		分配金配分予定(福井大) 7,800千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：960円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		プログラム担当特任教員 630千円×10月×1名=6,300千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(金沢医大) 1,350千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×9月×1名=1,350千円 (7月～3月：1,250円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		分配金配分予定(石川看護大) 1,600千円
プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：880円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】		
謝金 3,110千円		
FD講演会等講師謝金(25回) 1,200千円 【⑧⑪関係】		
市民公開講座講師謝金(計27回) 1,350千円 【⑩関係】		
ワークショップ等講師謝金(8回) 560千円 【⑦⑨関係】		



旅費	16,806	旅費 10,250千円 運営協議会等旅費(30人×1回)金沢 450千円【⑤⑩関係】 関連学会(2人×5回)国内外 2,300千円【②関係】 海外FD研修会(5人×3大学)1月 7,500千円【⑫関係】 分担金配分予定(信州大) 472千円 関連学術調査(3人×2回)神戸、東京 273千円【②関係】 会議等交通費(1人×5回)金沢 171千円【⑤関係】 講演会講師旅費 28千円【⑩関係】 分担金配分予定(富山大) 1,200千円 関連学術調査(2人×5回) 750千円【②関係】 シンポジウム等講師旅費(14回) 450千円【⑩関係】 分担金配分予定(福井大学) 60千円 シンポジウム講師旅費(2人×1回) 60千円【⑩関係】 分担金配分予定(金沢医大) 2,314千円 関連学術調査(1人×7回)国内外 1,200千円【②関係】 国際セミナー講師招聘旅費(2名×2回)中国 890千円【⑧関係】 事業推進交通費(1人×3回) 224千円【⑤関係】 分担金配分予定(石川看護大) 2,510千円 関連学術調査(1人×3回) 150千円【②関係】 セミナー・実習講師等旅費 1,160千円【⑧⑩関係】 海外研修旅費(2人×1回)オーストラリア 1,200千円【⑫関係】
その他	34,890	外注費 21,750千円 教材コンテンツ作成委託・保守 7,220千円【⑩関係】 ホームページ作成・保守(3大学分) 7,680千円【③関係】 がんデータベースサーバー保守費 5,000千円【③関係】 テレビ会議システム保守費 1,850千円【⑦⑨関係】 印刷製本費 3,620千円 受講生募集資料等 620千円【⑩関係】 活動報告書 300千円【⑩⑫関係】 シンポジウム等ポスター等(9回) 2,700千円【⑩関係】 会議費 3,500千円 シンポジウム会場借上(9回) 3,300千円【⑩関係】 会議飲料等(6大学) 200千円【①⑤関係】 通信運搬費 750千円 各種案内状等送料等(6大学分) 450千円【①⑤関係】 テレビ会議通信費 300千円【⑨関係】 その他(諸経費) 5,270千円 シンポジウム設営費等(2回) 1,800千円【⑩関係】 シンポジウム採録記事掲載(2回) 3,470千円【⑩関係】
間接経費	9,900	
合計	131,900	

4. 同一又は類似の事業(該当が無い場合は「なし」と記入)

他の補助金等の名称	なし
選定年度	
取組名称	
取組の概要(5行以内)	
今回の申請との関連性(5行以内)	

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	先端的個別化医療コース						
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療（手術、放射線、薬物治療等）を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目10単位を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択必修科目&gt;分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習（1単位）ほか10科目</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の個別化医療は主に遺伝子解析に基づく薬物療法であったが、本コースでは、今後のわが国で必要とされる遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て北信がんプロ科目において学習し、実践できる能力を養う点に独創性がある。演習で、金沢大学附属病院において実施されている医師主導治験や先進医療等の実際を学ぶ（先端医療開発センターや国立がんセンターと連携）。選択演習として、ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的基础を実際に行う（がん進展制御研究所との連携）プランを設定するところにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学がん進展制御研究所や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやTV会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、がんゲノム医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム診療のリーダーとして貢献するとともに、高額な薬剤の有効利用により医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療生涯教育コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師及び歯科医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びキャンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p>&lt;履修方法&gt;全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したキャンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て教育し、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師及び歯科医師は、多職種と連携できるがんゲノム診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師及び歯科医師	2	6	6	6	6	26
	計	2	6	6	6	6	26

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース						
対象者	医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 以上の様な業務を先駆けて実践し、広めていくことができるリーダー。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目6単位〔必修科目2単位、選択必修科目(実習、演習)1単位を含む〕を修得すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。実習演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に富山大学を含めた他大学及び医療施設と共同で実施する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;分子腫瘍学特論、臨床統計学特論（各1単位）</p> <p>&lt;選択必修科目&gt;先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;&gt;腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）ほか3科目</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全国的にも非常に少ない6年制学士課程の本コース入学者が、将来の薬剤師の教育者、研究者・指導者となること目標とし、がん個別化薬物療法に特化した専門能力を向上させるための4年制博士課程教育の充実をはかる点に独創性がある。患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に必要な薬剤師のスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・職種の間を越えて教育し、多職種連携のリーダーとなる薬剤師を養成するところに新規性がある。						
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等でon-the-jobトレーニングにより指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。更に、がん薬物療法の個別化及び安全性向上を実践し、ん薬物療法及び地域包括ケアを推進する多職種連携のリーダーとなる薬剤師のキャリア形成につながる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース（インテンシブ）
対象者	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。
修業年限（期間）	3月から1年（延長可）
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。 次世代のリーダーになることを目指す人材。
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びがんボードへの出席又は多職種連携セミナー（がんライフステージ事例検討会等）への参加。 全国e-learningクラウド等のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したがんボード、がんライフステージ事例検討会等の多職種連携セミナー等への参加による学習を行う。実習演習については富山大学との共同開催として、他大学での開講科目も履修可能とする。
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）等
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本プログラムの特色は、がん患者に対する地域包括ケアにおいて、薬剤師が患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に要求されるスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・施設間の壁を越えて、受講者の能力・ニーズに応じた教育を受けられることにある。そのために、先進的がん薬物療法個別化実習では、受講者がそれぞれの能力・ニーズに合致する実習ユニット（個別化薬物療法、在宅緩和医療、病院がん薬物療法、先進的注射薬管理、フィジカルアセスメントなど）が選択できる。また、有害事象解析演習については、TV会議システムを用いて、北信がんプロ参加大学間で協働して実施する。このユニットは、教育プログラムを発展させ、大学間多職種参加型研究プロジェクトとして、がん薬物療法の有害事象対策を多職種連携により確立することを目指すことによって、エビデンスを発信するスキルも学べる点に新規性・独創性がある
指導体制	本コースでは、がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する薬学系教員・薬剤師が、臨床現場において、on-the-jobトレーニングにより指導する。また、e-learningを活用した受講者の能動的学習を促し、実習により知識を定着化させる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者には、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。さらには、地域において、がん・緩和薬物療法の個別化および安全性を向上させ、地域包括ケアの牽引者となる。そして、それらの経験を生かし、薬剤師や薬学生に対する講義、実習を行うことで、次世代の医療者の育成者となる

受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース						
対象者	医薬保健総合研究科（博士後期課程）保健学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	がん治療において基礎的及び臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において放射線技術および医学物理学による個別化医療を目指す臨床研究を實踐できる診療放射線技師・医学物理士を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目12単位以上を修得し、個別化医療の基礎・臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択必須科目&gt;腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、コンサルテーション論（2単位）、分子生物学入門（1単位）、医療統計学特論（2単位）、放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	2期までのがんプロで放射線治療技術の底上げを目指した教育により、放射線治療技術の均てん化は進んできた。その為、2期がんプロのがん専門放射線技術・医療物理コースを改修し、放射線治療技術の更なる高度化や個別化医療に資する人材を育成することを目指す。本コースはその点に新規性がある。また、より高精度な放射線治療技術及び個別化放射線治療の包括的な知識を習得させ、自身で個別化要因を洗い出し、研究を計画・実施・評価できる能力を養う点に独創性がある。金沢大学附属病院におけるon-the-jobトレーニング演習と北陸オンコロジーセミナー等への参加により、より実践的な技術及びがん治療の全体像を学習する点に特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻と金沢大学附属病院の教員やがんプロ卒業生により直接on-the-jobトレーニングを行う。e-learningやTV会議等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について、連携協議会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、世界水準の研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における研究及び放射線治療の品質管理のリーダーとして貢献する。得られた知識や研究からの副作用の少ない放射線治療を医師と共同で実践し医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医学系専攻						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース						
対象者	医学系研究科医学系専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	1) 遺伝性・家族性のがんを含めた幅広いがん治療に精通する医師、2) 個別化医療やゲノム医療の実際を経験し、その重要性を理解し、その推進に関わることができる医師 3) 個別化医療やゲノム医療へのリサーチマインドを有する医師						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞必修科目6単位、選択必修科目6単位、コース選択科目は研究特論を含む18単位、計30単位を修得し、研究論文が学位審査に合格すること。 ＜履修方法＞e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞医科学研究遂行特論ほか2科目（各2単位） ＜選択必修科目＞人類遺伝学研究方法特論（2単位）ほか6科目（各2単位） ＜コース選択科目＞臨床腫瘍学研究特論（8単位）、臨床腫瘍学（4単位）、放射線治療学（4単位）、緩和医療学（4単位）、小児血液・腫瘍学（3単位）、遺伝学的病態学論（2単位）、小児科学研究特論（8単位）、産婦人科研究特論（8単位）、外科学研究特論（8単位）ほか10科目、新設する北信がんプロ科目（5科目：各1単位） 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当研究科では 1) 先のがんプロ事業で新規講座を開設し、その担当診療科で、AYA世代から高齢者に渡り、多がん種のがん診療を行う体制を整備した。2) 小児の血液がんおよび悪性腫瘍の診療・研究・指導体制が充実している。3) 附属病院遺伝診療研究センターで、遺伝性・家族性腫瘍患者のデータベースおよび診療が整備されている。4) 附属病院ではゲノム医療推進の試みとしてクリニカルシーケンス開設の準備中である。5) このコースでは、幅広いがん診療・治療を経験させながら、個々のがんゲノム医療の重要性とリサーチマインドを持つ医療人を育成する。						
指導体制	当研究科は従来より大学院生に対して主および副担任制度を設けている。本コースに配属する大学院生に関しては必ずコーディネイターおよび事業推進委員のどちらかの担任となり指導体制をとる。事業推進委員の各教室が連携して幅広い領域の臨床研鑽を可能とし、研究指導を行う。なお、本学医学系研究科（博士課程）は、平成30年度に総合工学系研究科とともに「総合理医工学研究科」を設置すべく準備中であり、新たな研究科の中で人材養成を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	当施設は先のがんプロにおいて大学院修了者を県内の地域がん拠点病院に輩出（2名）及び学内で指導者（2名）として雇用している実績がある。また当附属病院は都道府県がん拠点病院としての責務もあり、院外からも多くの若手ががん治療医の短期研修（総勢3名）の受け入れをし、がん薬物療法専門医等の受験資格までの指導を行ってきた。この事業でも修了者は、県内7か所の地域がん診療連携拠点病院との人材ネットワークの中核として県内全体のがん研究・診療の向上に寄与させる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医科学専攻
教育プログラム・コース名	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース
対象者	医学系研究科（修士課程）医科学専攻大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	認定遺伝カウンセラー資格を取得できる能力を身につけた医療人。 家族性・遺伝性がん診療における遺伝カウンセリングの重要性を理解でき、臨床の現場で実践できる医療人。 がん診療におけるクリニカルシーケンスの意義を理解し、臨床の現場で実践できる医療人。 遺伝性がんに関するリサーチマインドを有する医療人。
修了要件・履修方法	<修了要件> 遺伝カウンセリングコースの科目（修士課程必修科目26単位、修士課程選択必修科目4単位、計30単位及びコース必修科目23単位）に選択科目として臨床腫瘍学、がんサロン実習等を加え、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーとなるに相応しい能力があることを試験により確認する。 <履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。
履修科目等	<必修科目> 医科学研究概論（1単位）、生命倫理・医学概論（3単位）、健康科学概論（1単位）、人間機能・形態学概論（1単位）、ほか8科目 <選択必修科目> 医科学研究方法論演習Ⅰ～Ⅵ（各2単位） <コース必修科目> 基礎人類遺伝学（4単位）、遺伝医学（1単位）、染色体検査実習（1単位）、遺伝カウンセリングロールプレイ（2単位）、ほか6科目 <コース選択科目> ライフサイエンス知的財産概論（2単位）、医学科臨床腫瘍学（2単位）、臨床腫瘍学研究特論（2単位）、がんサロン実習（6単位）、ほか4科目 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	信州大学では平成15年本邦で初めて遺伝カウンセリングコースを設定し、毎年1～3名の学生を受け入れ、今までに15名の認定遺伝カウンセラーを全国（長野県以外では、長崎県、岡山県、福岡県、福島県2名、兵庫県、奈良県、新潟県、大分県）に輩出してきた。このコースでは、従来存在するコースの履修内容に追加して、がんに関する講義と実習の場を選択的に設定することで、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーを養成する。北陸5大学との連携により、広報に努め、北陸地方からの応募者を積極的に受け入れる。
指導体制	従来の修士課程遺伝カウンセリングコースでは、遺伝医学・予防医学教室及び附属病院遺伝子医療研究センターの教員が、担任として、ほぼマンツーマンの体制で指導し、認定遺伝カウンセラーを養成してきたが、今回開設する「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーコース」では、遺伝医学・予防医学教室、附属病院遺伝子医療研究センターに加えて包括的がん治療学教室及び小児医学教室の教員が副担任となり、学生の指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、臨床の現場特に当院で始めるクリニカルシーケンスの現場に携わる医療人を目指す。また、関連施設で、遺伝子性のがん診療の現場で遺伝カウンセリングに対応し、遺伝性腫瘍の疫学、臨床研究に参加・関与・推進する。
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	カウンセラー	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース						
対象者	医学研究科大学院学生、医学科研究医養成コース履修者（学部学生）						
修業年限（期間）	4年（学部2年）						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢がん者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医を養成する。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目26単位以上、選択科目8単位以上を履修し、高齢者がんに関する基礎又は臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;腫瘍薬物学等（12単位）、特別研究（14単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;分子腫瘍学、がん基本生物学等（9単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p> <p>注：他大学の授業科目履修は10単位まで認められる</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢がん者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢がん者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山県を含む北信地域は国内でも高齢化率が高い地域で、本プログラムを行う地盤は充実している。富山大学では大学病院でありながら地方の特性を生かし、地域密着型の診療を行っている。在宅療養を目指した地域連携を強化しており、高齢がん患者の看取りまでを踏まえた指導を実現する。富山大学では学部生に対し、研究医養成コースを設けており、このコース学生を本プログラムの対象とすることにより、専門医教育の底辺拡張を目指す。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	e-learningを含む座学による知識習得のほかに、実際の症例を検討する北信オンコロジーセミナーや高齢がん患者の診療を通して専門医としてのスキルを習得する。さらに、北信地域の高齢がんの実態を調査するデータベース研究を展開し、リサーチの実践にも取り組む。コース修了者は地域において最も重要な高齢がん患者診療のプロとして機能するほか、研究を発展させて他地域、次世代への貢献も期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	学部学生		2	2	2	2	8
	計	0	4	4	4	4	16

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース(インテンシブ)						
対象者	各種医療機関で実際にごん診療に携わる医師						
修業年限(期間)	1年(延長可)						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢担癌者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあつた診療を実現する専門医。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医。スピリチュアルペインに対応し、患者の人生観、死生観にも向き合える医師。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びキャンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p>&lt;履修方法&gt;全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したキャンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、がんライフステージ演習(1単位)</p>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢担癌者に焦点を絞つた研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢担癌者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山大及び連携機関に所属する高齢者の代表的がんである肺癌の医療を専門とするエキスパートであるスタッフが、老年がん患者診療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する(e-learningやシンポジウム参加、TV会議システムで受講)。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できる高齢者がん診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における地域医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース
対象者	医学薬学教育部薬学専攻大学院学生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん化学療法のほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目4単位を含む）を修得し、研究論文が学位論文審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修用法&gt;授業はe-learning及び対面で行う。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p>
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習、地域包括医療でのがん治療演習、ライフステージ事例検討演習（各0.5単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;腫瘍薬物学特論、がん緩和医療学特論、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論、ほか4科目（各1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	国立大学での6年制薬学教育を受け、薬剤師免許を有する博士課程薬学専攻の学生を対象とすることから、15年後の日本のがん治療を薬学的観点から担える人材の育成を意識している。現在の病院・薬局薬剤師が、すでに行っていることだけでなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶシステムをとる。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となれるよう本学独自の在宅研修ラボを使用して演習をし、加えて、医療現場での実習も行う予定である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。

指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関する実習のために、同医療薬学研究室 藤 秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	全国の医学部附属病院へ薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指し、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年生薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学医学薬学教育部薬学専攻
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）
対象者	北陸3県及び長野県の病院及び薬局薬剤師、特に、がん専門薬剤師の資格を取得しようとする者。日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師。
修業年限（期間）	3カ月から1年（延長可）
養成すべき人材像	がん治療や緩和医療に加えて、地域包括ケア制度の策定と、高齢化に伴い、在宅での抗がん剤の使用や緩和医療への関与も求められるようになった。特に北陸や長野県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつある。一方で、在宅医療に薬剤師が参画して、間もないことから、理論や技術の習得が困難なのが現状であり、経験則で医療が行われていることも否めない。そこで、薬学系大学院が地域を牽引して、要請度の高い在宅医療でのがん治療に対する薬剤師の役割、最近の抗体医薬品やゲノム医療の講義や演習を実施し、がん治療に関して、最先端医療から地域での在宅医療を担える先導的な人材の育成をする。少子高齢化が日本で最も進んでいる地域であることから、地域全体でも、がん医療を薬学的にリードする人材を育成し、チーム医療を介して、がん患者を全人的に支えることができる薬剤師を輩出する。
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目4単位を含む）の修得。</p> <p>&lt;履修方法&gt;授業はe-learning及び対面で行う。本プログラムから開始する高齢者における薬物治療やゲノム医療については、本学の専門家が講義をすることから、1年目は、講義を実施するが、TV会議システムを活用し、金沢大学や他の地域へも公開する。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p>
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、ほか3科目</p> <p>&lt;選択科目&gt;腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床疫学（2単位）、最先端医療（2単位）、AYA世代診療（2単位）、腫瘍学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、ほか3科目</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	講義科目は、e-learningにより受講。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、平成29、30年度は講義を実施し、平成31年度以降はe-learningに移行する。演習、実習科目は、金沢大学と共同で開催する。金沢大学附属病院での実施分も単位認定を行い、地域連携をする。
指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究部 藤秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関係する講義については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。

<p>教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想</p>	<p>日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。受講者の所属している医療提供機関によって異なるが、急性期病院に勤務する者は、がん化学療法を含むチーム医療に貢献し、ゲノム医療を含めた先進的な化学療法の従事し、臨床研究への参画を期待している。慢性期病院や薬局に所属する者は、緩和医療や終末期医療をはじめ、がん患者へのケアを地域で牽引するようにする。実務実習指導薬剤師となり、次世代の人材養成にも貢献する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成29年10月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>H31年度</p>	<p>H32年度</p>	<p>H33年度</p>	<p>計</p>
	<p>病院・薬局薬剤師及び薬系大学 教員</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>9</p>
	<p>計</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>9</p>



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学医学薬学研究部（博士前期課程）医学領域看護学専攻成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	在宅がん緩和リハビリテーションコース（インテンシブ）						
対象者	看護師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目指して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージの個人、家族、及び集団に対して、総合的な判断能力と問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養い、全人的緩和医療が行える看護師。						
修了要件・履修方法	<修了要件>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）及び「公開講座」又は「実技演習」（1単位）を修得すること。 <履修方法>授業は、TV会議システムにより行う。						
履修科目等	<必修科目>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位） <選択科目>「公開講座」又は「実技演習」（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県におけるTV会議システムや富山がん事例検討会にて、緩和ケア・がんリハビリ、在宅療法、化学療法中患者等の困難事例について意見交換・演習を通して、在宅医療における患者・家族のQOL向上・症状コントロールを図るための知識・技術を得る点に特色がある。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師を中心に、医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどそれぞれの立場から意見交換や講義演習を実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者にはNPOがんプロフェッショナル認定機構より、「在宅がん緩和リハビリテーション・スペシャリスト」（仮）の認定証を授与する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん専門医養成コース						
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻先端応用医学コース腫瘍医学部門の大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、本学の特色を活かしたPET、MRIの機能画像診断を用いた臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt; 共通科目18単位、腫瘍医学部門の科目6単位以上、分野専門科目6単位以上を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。なお、腫瘍医学部門の科目においては、腫瘍専門科目（北信がんプロ科目）との読み代えにより、修了要件の単位数に算入する。</p> <p>&lt;履修方法&gt; e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;共通科目&gt; 医科学基礎総論（4単位）、実験基礎演習（2単位）ほか2科目          &lt;選択科目&gt; 臨床腫瘍学特論（4単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（2単位）、臨床腫瘍学演習Ⅱ（4単位）、機能画像医学特論Ⅱ（2単位）、機能画像医学演習（4単位）、新設する北信がんプロ科目（5科目：各1単位）          全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門の科目及び北信がんプロ養成プログラムの科目を履修すると共に本学医科学コースの機能画像医学部門（高エネルギー医学研究センター担当）の科目を履修することにより、画像診断能力の知識を修得する。						
指導体制	福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の教職員が対応する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	研修の修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	在宅栄養管理コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	栄養学は全ての医療の基本であり、在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や、脳血管障害その他の慢性疾患で在宅医療を行う場合にも地域の医療資源として在宅栄養管理を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養法を安全に行う事が求められる。そのためには在宅栄養パスの効率的な利用も必要である。この研修は、日本静脈経腸栄養学会NST専門療法師資格取得にも繋がる。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目（e-learning）3単位を履修し、試験に合格すること。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設にて20時間以上の研修又は以下の研修を持ってこれに代えることができる。医師にあっては、日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師資格セミナーを受講。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;臨床栄養、在宅緩和ケア、在宅栄養（各1単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;以下のいずれかを演習として履修する。NST実習（20時間）</p> <p>医師：日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。</p> <p>医師以外のスタッフ：日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師セミナーを受講。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	在宅緩和医療を推進する上で最も重要な技術は栄養管理である。がんにかかわらず全ての慢性疾患で終末期のQOLを高く維持するためには一定以上の技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフがこのインテンシブコースを履修することで、在宅栄養管理パスが機能し、シームレスな在宅移行が可能となる。また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高い在宅医療が実現できる。						
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。日本静脈経腸栄養学会北陸支部会、TNT委員会もサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法師資格の取得をめざすことができる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	医師以外		10	20	20	20	70
	計	0	12	22	22	22	78

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	在宅緩和医療コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和は全ての医療の目的であり、特に在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。在宅医、訪問看護師、訪問薬剤師又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目（e-learning）4単位を履修し、試験に合格すること。がんプロキヤンサーボードにおける緩和ケア症例検討会に2回以上参加すること。又は国の定める緩和ケア研修会の受講をこれにあてることができる。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt; 緩和医療（1単位）、在宅緩和ケア（1単位）、栄養、在宅栄養（1単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt; がんプロキヤンサーボードにおける緩和ケア症例検討会に2回以上参加する。又は国の定める緩和ケア研修会の受講。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸地域で用いられている在宅緩和医療パスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。在宅栄養にも重点をおく。						
指導体制	北陸信州の大学緩和ケアチームと緩和医療学会専門医、認定医、暫定指導医が中心に教育を行う。緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		4	4	4	4	16
	医師以外のスタッフ		20	20	20	20	80
	計	0	24	24	24	24	96

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース						
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	希少がんを含むがん患者を臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望を叶えられるように努力できる、がん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;博士課程に4年以上在学し、所定の単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格することで博士（医学）を授与する。専門医養成コースの授業科目のうち必修科目12単位を含む15単位を修得したのものには北陸がんプロフェッショナル認定医の申請資格を授与する。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）ほか9科目</p> <p>&lt;選択科目&gt;分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論、臨床統計学演習、分子生物学入門 がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論、がんライフステージ演習、北信がんプロ科目（5科目）（各1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢医科大学再生医療センターにおける希少がん等対象の免疫療法・再生医療、金沢医科大学病院集学的医療部遺伝子医療センターにおける遺伝カウンセリングにおける独自の教育内容を有する。また金沢医科大大学院医学研究科腫瘍内科学/金沢医科大学病院腫瘍内科では肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明癌などの臓器横断的分野の診療・教育・研究を行っている。						
指導体制	腫瘍内科学：元雄 良治、安本和生、再生医療学：下平 滋隆、先進呼吸器外科学：浦本 秀隆、消化器外科治療学：小坂 健夫、遺伝子医療センター：新井田 要、をはじめとする本施設の教育スタッフが指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育コースの修了者は、各専門分野の専門医・認定医等の資格を取得し、その後は地域を問わず広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん集学的治療医養成コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	富山県西部能登南部連合地域および能登北部地区を重点にがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療などに造詣の深い医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びカンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p>&lt;履修方法&gt;全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、TV会議システムを利用したカンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当施設が実地医療を担当している地域のがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療の教育機会を提供する点に新規性がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがん集学的治療のエキスパートであるスタッフが、様々ながん種に対する集学的治療を行うために必要なスキルをe-learning又はシンポジウムで講義する（e-learningやシンポジウム参加、TV会議で受講）。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できるがん集学的治療のリーダーとして、地域基幹病院におけるがん医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフステージコース						
対象者	看護専門看護師コース大学院学生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目的として、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける痛みに関する知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。						
修了要件・履修方法	共通科目と各専門看護分野の専門科目から38単位の他に「がんライフステージ演習」を履修すること。「がんライフステージ演習」は、各大学のTV会議システムからの参加でも可能とする。						
履修科目等	<必修科目>看護科学論（2単位）、看護研究（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、特別研究（6単位）、成人看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、がん病態治療学特論（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、がん看護学演習Ⅰ（2単位）、ほか6科目 <選択科目> コンサルテーション論（2単位）、ケアと哲学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、ほか5科目 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでの「がんライフステージ演習」は、テレビ会議システム等を活用し、がん看護専門看護師養成コースを有する大学（石川県立看護大学、富山大学、福井大学）が提携し、単位互換を可能とする。従来の教育とは異なり、各大学の教授陣の専門を学ぶことが出来る。講師として、がん看護、小児看護、老年看護、リエゾン看護の専門看護師を採用することで、それぞれの専門性の視点から、各ライフステージにおけるがん看護について理解を深めることができる。						
指導体制	北信越におけるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師を講師に迎え、講義や演習を通してライフステージにおけるがん看護の特徴と支援の在り方を教授する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了には北信がんプロNPO機構より「がんライフステージ・スペシャリスト」の認定を授与する。また、本コース修了生は、北信がんプロのインテンシブコース等で講義、演習を行い、さらに自身のキャリアアップを行う。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフケアコース（インテンシブ）						
対象者	看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	6月～1年						
養成すべき人材像	これまでのがん看護経験又はすでに取得している専門看護師が、がん看護、小児看護、老年看護のそれぞれの専門性を活かし、全人的痛みに関する事例やミニレクチャーを通して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける全人的痛みに関する生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞がんライフステージ演習1単位以上の修得及び公開講演への参加。 ＜履修方法＞TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞がんライフステージ演習（1単位）、公開講演への参加。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県においてTV会議システムやWeb会議システムを利用して、各専門看護師や薬剤師、医師で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法中の患者への疼痛ケア事例について意見を交換をおこない、各対象に応じた緩和ケアの知識・技術を得ることができる。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師と薬学部の学生、薬剤師を中心に、小児専門看護師、老人看護専門看護師、薬剤師、医師、理学療法士がそれぞれの専門的立場からテレビ会議システムを通して、事例検討する。それぞれの専門を互いに共有することで、小児、AYA世代、老年期の特徴を理解すると共に患者の全人的理解とそのケアについて検討していく。がん患者の会などとも連携を取り、事例検討のうち1-2回は、患者会にも参加していただく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、地域基幹病院のみならず、僻地におけるがん医療に貢献する。また、この経験を生かし、看護師、学部生（看護、薬学、医学）への関わりの中で、次世代のがん医療従事者の育成に関わる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	1	3	3	3	3	13
	看護師以外の多職種	1	2	2	2	2	9
	計	2	5	5	5	5	22



## 事業の実施体制（担当者一覧）

	氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
	(事業責任者)		
1	矢野 聖二	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、がん進展制御研究所教授	事業推進統括コーディネーター、北信がんプロ運営協議会会長、総務委員会
2	山崎 光悦	金沢大学学長	学長連絡協議会会長
3	吉崎 智一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院研修医・専門医総合教育センター長	広報委員会委員長
4	絹谷 清剛	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院核医学診療科長	プログラム間連携担当
5	中田 光俊	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院脳神経外科診療科長	がんセンターハウス委員会委員長
6	溝上 敦	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院泌尿器科診療科長	教務委員会委員長
7	大島 正伸	金沢大学がん進展制御研究所教授	広報委員会委員長
8	村山 敏典	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院臨床開発部長	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
9	土屋 弘行	金沢大学医薬保健研究域医学系教授、附属病院整形外科主任教授	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
10	衣斐 寛倫	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻准教授、がん進展制御研究所准教授	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
11	堀 修	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科長	医学系内の調整
12	原田 憲一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授	教育カリキュラム開発・編成担当
13	蒲田 敏文	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院病院長	実習総括
14	谷本 梓	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻助教、がん進展制御研究所助教	実習コーディネーター担当（医学総括）
15	稲垣 美智子	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻長	北信がんプロ運営協議会委員、保健学系内の調整
16	武村 哲治	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授	保健学系内の調整
17	松下 良	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授	北信がんプロ運営協議会

18	菅 幸生	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻助教	教育カリキュラム開発・編成担当
19	松永 司	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授	薬学系内の調整
20	国嶋 崇隆	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻長	薬学系内の調整
21	玉井 郁巳	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻長	薬学専攻内の調整
22	濱田 州博	信州大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
23	田中 栄司	信州大学学術研究院医学系教授、大学院医学系研究科長	事業総括
24	小泉 知展	信州大学学術研究院医学系教授（包括的がん治療学教室）	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
25	中沢 洋三	信州大学学術研究院医学系教授（小児科学教室）	教育カリキュラム開発・編成担当
26	伊藤 研一	信州大学学術研究院医学系教授（外科学第二教室）	事業推進委員会委員
27	塩沢 丹里	信州大学学術研究院医学系教授（産婦人科教室）	事業推進委員会委員
28	古庄 知己	信州大学学術研究院医学系准教授（遺伝子医療研究センター）	事業推進委員会委員
29	本田 孝行	信州大学学術研究院医学系教授、医学部附属病院長	事業推進委員会委員
30	遠藤 俊郎	富山大学長	事業総括
31	齋藤 滋	富山大学附属病院長	事業推進プロジェクトリーダー
32	林 龍二	富山大学附属病院臨床腫瘍部教授	教育カリキュラム開発・編成担当（総括）
33	長田 拓哉	富山大学附属病院集学的がん診療センター人材育成部門長	広報戦略担当
34	北村 寛	富山大学大学院医学薬学研究部泌尿器科教授	教育カリキュラム開発・編成担当
35	関根 道和	富山大学大学院医学薬学研究部疫学・健康政策学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
36	梶浦 新也	富山大学附属病院集学的がん診療センター緩和ケア部門長	実習コーディネーター担当（総括）
37	牧野 輝彦	富山大学大学院医学薬学研究部皮膚科准教授	実習コーディネーター担当
38	新田 淳美	富山大学大学院医学薬学研究部・薬物治療学研究室教授	富山地域での薬学関連事業の総括、金沢大学や他大学病院との連携担当
39	藤 秀人	富山大学大学院医学薬学研究部・医療薬学研究室教授	地域医療に対する実習・演習担当
40	櫻井 宏明	富山大学大学院医学薬学研究部・がん細胞生物学教授	ゲノム医療に関する講義実施の総括
41	眞弓 光文	福井大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
42	片山 寛次	福井大学大学院医学領域附属病院部がん診療推進センター長	総務委員会委員、教務委員会委員、広報・ICT委員会委員、キャンサースポード運営委員会委員

43	谷澤 昭彦	福井大学大学院医学領域 がん専門医育成推進講座教授	総務委員会委員、カンサポード運営委員会委員、備品調達委員会委員
44	上野 栄一	福井大学大学院看護学領域 基礎看護学分野教授	広報・ICT委員会委員、看護保健系会議委員
45	磯見 智恵	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野教授	総務委員会委員、教務委員会委員
46	小林 基弘	福井大学大学院医学領域腫瘍 病理学分野教授	教務委員会委員
47	山下 芳範	福井大学大学院医学領域附属 病院部医療情報部准教授	備品調達委員会委員
48	繁田 里美	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野准教授	看護保健系会議委員
49	神田 享勉	金沢医科大学学長	事業総括・学長連絡協議会委員
50	元雄 良治	金沢医科大学腫瘍内科学教授	金沢医科大学コーディネータ、教育カリキュラム開発・編成担当
51	安本 和生	金沢医科大学腫瘍内科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
52	下平 滋隆	金沢医科大学再生医療学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
53	浦本 秀隆	金沢医科大学呼吸器外科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
54	小坂 健夫	金沢医科大学消化器外科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
55	新井田 要	金沢医科大学総合医学研究所 准教授	教育カリキュラム開発・編成担当
56	石垣 和子	石川県立看護大学（看護学・ 地域看護）学長	事業総括・学長連絡協議会委員
57	牧野 智恵	石川県立看護大学（看護学研究科・ がん看護）研究科長	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
58	川島 和代	石川県立看護大学（看護学研究科・ 老年看護）教授	がん看護教育カリキュラム開発
59	西村 真実子	石川県立看護大学（看護学研究科・ 小児看護）教授	がん看護教育カリキュラム開発
60	岩城 直子	石川県立看護大学（看護学研究科・ がん看護）准教授	事業推進委員

## 申請資格の適合状況

以下に記載の i) から vii) の各指標について、該当する場合は<該当する>欄に○を、該当しない場合は<該当しない>欄に○を記入してください。

	該当する	該当しない
<b>(組織運営関係)</b>		
i) 学生募集停止中の大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
iv) 平成28年度に実施した再推費の事後評価の結果において、「事業目的が達成できなかった」と評価された大学（対象プログラムは別紙1のとおり。）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
v) 申請時点において、再推費のプログラムの中間評価で、「中止することが必要」と評価された大学（対象プログラムは別紙1のとおり。）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<b>(設置関係)</b>		
vi) 設置計画履行状況等調査において、「警告」が付されている大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
vii) 大学、大学院、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第1条第3号の要件を満たしていない大学又は第2条第1号若しくは第2号のいずれかに該当する者が設置する大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

-----

上記の回答について、間違いありません。

事業責任者職名・氏名 金沢大学がん進展制御研究所教授 矢野 聖二

## 申請の基礎となる教育改革の取組状況

設置計画履行状況等調査への対応状況

【指標への対応状況】対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応予定時期を記入。

対応済	○	未対応		(全学での対応完了時期)
-----	---	-----	--	--------------

【実施計画】

--

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン  
取組の概要と推進委員会からのコメント

整理番号

5

申請担当大学 (連携大学)	金沢大学(計6大学) (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)
プログラム名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事業推進責任者	矢野 聖二(金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授)
取組の概要	
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>	
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>	
<p>○北信地域は超少子高齢化地域であり、本地域でのがん医療の進め方は、今後、他地域や都市圏でのがん医療のモデルとして評価できる。</p> <p>○各大学の役割分担に具体性があり、かつ連携のメリットが明示されている点が評価できる。</p> <p>○相互補完的教育プログラムの追加と導入は、本事業活性化の点で評価できる。</p> <p>○地区医師会や患者会を含めた運営協議会を設置し、意思決定や運営を行うこと点は先進的な取組であり評価できる。</p> <p>●取組継続に関して、各大学の学長のガバナンスにおいて予算確保の継続は評価するが、中長期的戦略も必要であり、公的資金以外にも資金確保の工夫を期待したい。</p> <p>●事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。</p> <p>●少子高齢化と小児・AYA世代のがん医療についてどのような問題点があり、どのように解決していくのか明確となっていない。</p> <p>●外部評価は隔年施行予定とあるが、アドバイスの、監査的要素も入れて毎年関与されるシステムの構築が望ましい。</p> <p>●北信地域の特徴は記してあるが、遠隔教育システムやデータベースを新たに構築する以外、その特徴に対して、具体的な教育・研究活動が明瞭に示されていない。</p> <p>●各大学の得意な領域を活用する趣旨は評価できるが、他大学の院生がどのような形でその恩恵に与えるのか具体策が不明確である。</p> <p>●人材養成モデルの情報発信の方法が不明確である。単なる教員、院生の研究成果の発表にとどまらないよう考慮する必要がある。</p>	

**取組大学：金沢大学（連携大学：信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）取組名称：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成**

○取組概要：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成では①各大学の強みを生かした相互補完的教育コース(本科10コース、インテンシブ11コース)②テレビ会議を使用した多施設・多職種連携の定期演習(北信オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会)③特徴ある症例の地域がんデータベース構築に取り組んでいます。

**地域での症例や先進的がん医療の実態を把握し、戦略的がん医療人を育成するシステムを構築**

**◆各大学の強みを生かした相互補完的教育コース：多職種のがん医療人を数多く育成**

**本科10コース 68 / 45名(充足率 151.1%)**

コース名	職種	受入目標人数	受入実績
金沢大 先端的個別化医療	医師	10	14
個別化薬物療法	薬剤師	3	3
高度化医学物理士	医学物理士	4	7
信州大 ゲノムがん治療医	医師	4	4
遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	2	4
富山大 高齢がん患者対策	医師	8	16
個別化医療薬剤師	薬剤師	2	3
福井大 地域がん専門医	医師	4	9
金沢医大 がん専門医リーダー	医師	4	4
石川看護大 がんライフステージ	看護師	4	4
平成30年4月受入開始～令和元年10月	合計	45	68

**インテンシブ11コース 227 / 156名(充足率 145.5%)**

コース名	職種	受入目標人数	受入実績
金沢大 がんゲノム生涯教育	医師	14	25
個別化薬物実践	薬剤師	4	7
がんゲノム多職種連携入門	多職種	20	45
信州大 がん専門医療人養成	多職種	5	6
富山大 高齢がん患者対策	医師	6	6
高齢対策薬剤師	薬剤師	5	9
在宅緩和リハ	看護師	3	9
福井大 在宅栄養管理	多職種	34	46
在宅緩和医療	多職種	48	51
金沢医大 がん集学的治療	医師	5	5
石川看護大 がんライフケア	多職種	12	18
平成29年10月受入開始～令和元年10月	合計	156	227

**◆実施体制：学長連絡協議会による進捗管理、運営協議会で意思決定、外部評価委員会による定期評価**



**北信がんプロ 連携6大学による運営**

**学長連絡協議会 各大学長**

**北信がんプロ運営協議会**

6大学、地域医療機関、医師会、自治体、患者会等

**外部評価委員会**

**NPO北信がんプロ**

- 総務委員会 運営一般
- 教務委員会 カリキュラム、E-learning教材など
- オンコロジーセミナー委員会 演習計画
- がんデータベース委員会 データベース作成法、解析方法
- 広報委員会 決定、成果発表法など管理
- 企画委員会 Web管理、印刷物作成など
- 多職種連携会議 シンポジウム、市民公開講座、FD研修など
- 看護、保健、薬学系の事案
- 事例検討会の計画など

**学長連絡協議会**

各大学の学長による事業の進捗管理(3回)



**運営協議会**

自治体・がん拠点病院患者会との協議(3回)



**外部評価委員会**

外部の評価委員による定期的評価(年1回)



**NPO北信がんプロ**

NPO北信がんプロ機構設立 平成31年4月：事業を側面支援



**▶ 主な取組と進捗状況：テレビ会議システムによる各種セミナー がんデータベース解析結果を情報発信**

**特徴ある症例の地域がんデータベース構築**



北信4県のがん診療連携拠点病院から平成22年～平成27年の院内がん登録データ(21施設:15.7万症例)と障がい者がん情報(10施設:医療費受給者証を有する2479症例)を収集し、データベースを構築 学会において3演題を報告

特徴：石川県では小児・AYA世代がんの割合が大

小児がん医療費負担軽減、妊孕性保存体制構築の必要性を **石川県議会に政策提言**

**市民への啓蒙・成果の還元**



合同市民公開講座 3回 開催



採録記事を4県の地元新聞で掲載

**多施設・多職種連携の定期演習**

遠隔教育システム活用

e-learning教材 19科目作成



北信オンコロジーセミナー 計8回開催 671名参加

ライフステージ事例検討会 計21回開催 1,767名参加

海外研修者によるFD講習会 (ゲノム医療、緩和ケア等) 海外研修3回実施 41名派遣

九州がんプロとの合同シンポジウム (プログラムの情報発信・普及)

北信がんプロの3病院ががんゲノム医療拠点病院に指定

▶ 北信地域のがんゲノム医療提供体制を構築

# 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン 進捗状況報告書(中間評価用)

申請担当大学名 (連携大学名)	国立大学法人金沢大学 信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学
事業名称	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

## <連絡先>

事業責任者 連絡先	職名・氏名	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科教授 矢野 聖二
	TEL	(076)265-2780
	E-Mail	syano@staff.kanazawa-u.ac.jp
事務担当者 連絡先	職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部学生課長 酒本 喜浩
	TEL	(076)265-2126
	E-Mail	iyakuhogakusei-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

## (記入要領・共通)

- ・着色した記入欄に記入してください。
- ・本報告書については、平成29年度、平成30年度、令和元年度における取組実績を記入してください。  
(令和元年度の実績については、令和元年10月末までの取組を対象とします。)
- ・記述欄については、重要な箇所やポイントとなる部分に下線を用いるなど、読みやすさを考慮して記入してください。なお、ページ設定やフォント、フォントサイズの変更はしないよう留意してください。
- ・定性的な成果・効果を記述する際は、数値データ等による根拠と併せて記入してください。
- ・記入欄は、決められたページ数を超えて記入することはできません。(公平を期するため、印刷した際に超えた分等に記載されている内容は評価の対象外とします。)
- ・行が不足する場合は、適宜追加してください。また、列の追加や削除等を行わないでください。
- ・事業開始前から各大学が行っている取組の成果や効果は、本事業による成果や効果と見なしませんので記入しないでください。
- ・進捗状況報告書に虚偽の記載が判明した場合、翌年度以降の事業を停止とすることもありますので、記入にあたっては十分留意願います。



## 1. 総括表（(1)及び(2)で1ページ以内）

## (1)取組概要

（申請書の「1. (1)①事業の概要等〈事業の概要〉」を転記してください。）

## ＜事業の概要＞

本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンプ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

## (2)達成目標に対する進捗状況

## 【達成目標】

本事業は、①県の枠を超えた北信地域6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学修できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンプ9)を設置、継続する。②2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。③さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルの確立を目標とする。

## 【達成目標に対する進捗状況】

①外部評価委員会からの指摘に対応し、当初予定よりインテンプコースを2コース(多職種向けのがんゲノム医療を中心とした教育コース)増設して、本科生10コース、インテンプ11コースを開講した。全年度、全コースで目標を上回る受入数(本科生コース68名/45名(達成率151.1%)、インテンプコース227名/156名(同145.5%))を達成した。

②新規19科目に対するe-learning教材作製を完成し、全国e-learningに提供して北信地域の815名が受講した。連携6大学および北信4県のがん診療連携病院等とのTV会議システムネットワークを拡張(増設6か所、更新10か所、計32施設が接続可能)し、双方向性演習として北信オンコロジーセミナーやがんライフステージ事例検討会等を計画通り実施し、合計2,929名が受講した。

③海外FD研修を合計3回実施し41名が参加した。米国、豪州、台湾の合計9施設を訪問し、最新のがんゲノム医療等の研修を受け、TV会議システムを用いたFD研修報告会で研修成果を北信地域の医療従事者に還元した。付随的な効果として、北信がんプロの3大学病院ががんゲノム医療拠点病院に指定されるという成果をあげ、地域住民にがんゲノム医療を提供できる体制を構築した。国際シンポジウムを6回開催し、学生や医療従事者の国際化を促進した。

④北信4県のがん診療連携拠点病院など(21施設)の平成22年から平成27年までの院内がん登録データを基にした157,196症例(男:89,023例、女:68,173例)の臨床情報を収集し、データベースを構築した。これまでほとんど実態が明らかになっていない障がい者有するがん患者については、10施設から85,979症例(男48,040例、女37,939例)分の臨床情報を収集し、うち2479症例が障がい者医療費受給者証を有することを明らかにした。これらのデータを基に解析を進めた結果、石川県では小児・AYA世代がん症例の割合が全国と比較し高いこと等が明らかになった。その成果を3演題として学会発表した。さらに、令和元年の合同市民公開講座でも公表し地域住民に成果を還元した。また、小児医療費制度や妊孕性保存の課題について石川県議会に提言を行った。

⑤北信がんプロ活動の広報の一環として、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを平成31年2月6日に開催し、特別講演(九州大)や症例報告(富山大、金沢大、九州大)に対する双方向の活発な質疑を行った。また、平成29年度から東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを計5回開催(355名参加)し、希少な小児がん症例の治療などに関する情報共有を行うと共に、北信がんプロの活動を小児がん学会へ広げた。

⑥合同市民公開講座を合計3回(金沢市、福井市、長野市)開催し、合計400名以上の参加者に対し最新のがん医療をわかりやすく解説した。北信4県の地元新聞への採録記事(約100万部)や同エリアケーブルテレビでのダイジェスト版放送(約40万世帯が視聴可能)で、参加できなかった市民にも講座の概要や本事業の広報を行った。

(3)年度別の計画(工程表)に対する実施状況(実績欄は、インプット・プロセス、アウトプット、アウトカムのそれぞれについて最大1ページ以内)

(計画部分は工程表から転記し、対応する実施状況を実績欄に記入してください。)

年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度		
区分	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	
イン プ ッ ト ・ プ ロ セ ス	計画 ( 工 程 表 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織設置(学長連絡協議会、内部評価委員会、総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会、広報委員会等を設置、開催)</li> <li>・運営協議会・内部評価委員会開催(1回)</li> <li>・FD研修の実施(2大学)</li> <li>・第一期大学院生専攻・社会人コース受講者選考・一部受入れ開始</li> <li>【定員】インテンプコース(受入れ)／医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画、アクションプラン協議</li> <li>・特任教員の採用</li> <li>・金沢大学及び各連携大学にがんプロ事務局を設置</li> <li>・信州大学にテレビ会議システム導入、ネットワーク環境整備</li> <li>・平成30年度教育コース学生募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長連絡協議会開催</li> <li>・総務委員会開催(1回)</li> <li>・運営協議会開催(1回)</li> <li>・がんデータベース委員会開催(1回)</li> <li>・FD研修の実施(4大学)</li> <li>・外部評価委員会開催(1回)</li> <li>・第二期大学院生・社会人コース受講者受入れ</li> <li>【定員】本科コース/医師15名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師3名、医学物理士2名(計22名)</li> <li>・インテンプコース/医師17名、看護師4名、薬剤師4名、その他30名(計55名))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画、アクションプラン等協議</li> <li>・平成31年度教育コース学生募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長連絡協議会開催</li> <li>・総務委員会開催(1回)</li> <li>・運営協議会開催(1回)</li> <li>・がんデータベース委員会(1回)</li> <li>・内部評価委員会(1回)</li> <li>・第三期大学院生・社会人コース受講者受入れ</li> <li>【定員】本科コース/医師15名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師3名、医学物理士2名(計23名)</li> <li>・インテンプコース/医師17名、看護師5名、薬剤師6名、その他40名(計68名))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画、アクションプラン等協議</li> <li>・令和2年度教育コース学生募集</li> </ul>
	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織設置(学長連絡協議会、外部評価委員会、総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会等を設置、各々数回開催)</li> <li>・運営協議会及び外部評価委員会を設置、開催</li> <li>・第一期大学院生本科コース開設準備完了</li> <li>・インテンプコース(受入れ)／医師7名、看護師3名、薬剤師2名(計12名)</li> <li>・海外FD研修の実施 がんゲノム医療研修12名、緩和ケア研修14名参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長連絡協議会、運営協議会を開催し、事業計画、アクションプランを協議、各委員会にて計画検討実施</li> <li>・特任教員の選考、採用決定(連携各大学順次採用)</li> <li>・金沢大学及び連携各大学にがんプロ事務局を設置、担当事務員を順次採用</li> <li>・大学・病院間にテレビ会議システム導入・更新し環境整備</li> <li>・平成30年度全教育コース受講生募集ポスター、チラシを大学、がん拠点病院等に配布</li> <li>・がん治療の専門知識を持った薬剤師向け講義を開講、緩和ケア連携調整員研修へ参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会、学長連絡協議会、外部評価委員会を各々開催</li> <li>・総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会を各々開催</li> <li>・海外FD研修の実施(11月、14名参加)</li> <li>・第二期大学院生・社会人コース受講者受入れ</li> <li>本科コース/医師21名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師2名、医学物理士3名(計29名)</li> <li>インテンプコース/医師16名、看護師56名、薬剤師28名、臨床検査技師6名、管理栄養士7名 その他10名(計123名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長連絡協議会、運営協議会を開催し、事業計画、アクションプランを協議、各委員会にて計画検討実施</li> <li>・特任教員選考、採用決定</li> <li>・平成31年度全教育コースの学生募集のポスター、チラシを作成し、連携大学、がん拠点病院に配布</li> <li>・個別化医療分野での薬剤師選択へのゲノム解析実習を実施</li> <li>・高齢化社会での在宅でのがん治療に向けての演習を実施、緩和ケア連携調整員研修へ参加</li> <li>・がん治療の専門知識を持った薬剤師向け講義を開講</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長連絡協議会、運営協議会開催通知(11月実施)</li> <li>・総務委員会開催(5月)</li> <li>・海外FD研修の参加者募集(2大学主催、2月実施)</li> <li>・外部評価委員会開催通知(3月実施)</li> <li>・第三期大学院生・社会人コース受講者受入れ</li> <li>本科コース/医師24名、遺伝カウンセラー3名、看護師3名、薬剤師4名、医学物理士4名(計38名)</li> <li>インテンプコース/医師31名、看護師32名、薬剤師13名、臨床検査技師2名、管理栄養士11名、その他5名(計94名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長連絡協議会、運営協議会の開催を通知し、事業計画、アクションプランを協議する場を設け、各委員会において計画検討実施</li> <li>・令和元年度全教育コースの学生募集のポスター、チラシを作成し、連携大学、がん拠点病院に配布</li> <li>・インテンプコースパンフレットを薬剤師会などに周知、配布</li> <li>・「高齢化した地域医療を支えることができる専門的薬剤師養成コース(大学院生本科・インテンプ)演習」を開催</li> <li>・個別化医療分野での薬剤師選択へのゲノム解析実習を実施</li> </ul>

年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
区分	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	
計画 (工程表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同市民公開講座(1回)</li> <li>・合同シンポジウム(1回)</li> <li>・国際シンポジウム(1回)</li> <li>・合同FD講習会開催(1回)</li> <li>・オンコロジーセミナー(2回)、ライブステージ事例検討会(8回)</li> <li>・第1期インテンプコース修了者(修了者見込み、医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの公開</li> <li>・第1期志願者書類審査及び面接試験の実施</li> <li>・e-learning講義内容の決定、作成</li> <li>・各教育コース関連規定等整備</li> <li>・連携大学及び関連地域医療機関との連携、情報ネットワーク整備</li> <li>・内部評価委員による評価</li> <li>・外部、地域への情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同市民公開講座(1回)</li> <li>・合同シンポジウム(1回)</li> <li>・国際シンポジウム(1回)</li> <li>・合同FD講習会開催(1回)</li> <li>・オンコロジーセミナー(4回)</li> <li>・ライブステージ事例検討会(12回)</li> <li>・第2期インテンプコース修了者(修了者見込み、医師17名、看護師4名、薬剤師4名、その他30名(計55名))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期志願者書類審査および面接試験の実施</li> <li>・外部評価委員による評価</li> <li>・外部、地域への情報発信</li> <li>・e-learning講義作成、完成</li> <li>・地域包括医療への貢献を各病院が実施する。それらの病院で本学部生または大学院生が実習を受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同市民公開講座(1回)</li> <li>・合同シンポジウム(1回)</li> <li>・国際シンポジウム(1回)</li> <li>・合同FD講習会開催(1回)</li> <li>・オンコロジーセミナー(4回)、ライブステージ事例検討会(12回)</li> <li>・第1期本科コース修了者(遺伝カウンセラー1名、医学物理士2名、看護師2名)</li> <li>・第3期インテンプコース修了者(修了者見込み、医師17名、看護師5名、薬剤師6名、その他40名(計68名))</li> <li>・資格取得者(認定遺伝カウンセラー1名、医学物理士、がん看護専門看護師2人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期志願者書類審査および面接試験の実施</li> <li>・内部評価委員による評価</li> <li>・外部、地域への情報発信</li> <li>・e-learning講義作成、完成</li> <li>・地域包括医療への貢献を各病院が実施する。それらの病院で本学部生または大学院生が実習を受ける</li> </ul>	
	アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同市民公開講座開催(1回、10月、157名参加)</li> <li>・国際シンポジウム開催(1回、10月、221名参加)</li> <li>・合同FD講習会の開催(1回、10月、171名参加)</li> <li>・オンコロジーセミナー開催(2回、延べ182名)ライブステージ事例検討会開催(7回、延べ499名参加)</li> <li>・第1期インテンプコース修了者看護師3名修了。</li> <li>・市民公開講座開催(計12回、延べ1,376名参加)</li> <li>・看護・福祉関係者向けセミナー開催(延べ323名参加)</li> <li>・小児血液がんセミナーin中部開催(2月、85名参加)</li> <li>・FD講習会・FD講演会(各1回、延べ106名参加)、看護実践セミナー開催(77名参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信がんプロの新ホームページ公開(9月)</li> <li>・第一期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月)</li> <li>・全教育コースを網羅した募集要項作成、大学に配布</li> <li>・インテンプコース募集要項を作成し、関係者に配布</li> <li>・地域医療機関と大学間の連携強化新TV会議システムを6拠点に追加設置</li> <li>・外部評価委員による評価</li> <li>・ニュースレターを発行し病院等に配布、地方新聞での北信がんプロに関する記事掲載</li> <li>・地域包括医療への貢献を連携各病院にて実施。</li> <li>・養護教員等に対しがん教育講義を実施、在宅緩和ケア推進会議を開催(2回)</li> <li>・患者の意向を尊重した意思決定の研修会を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同市民公開講座開催(1回、12月、250名参加)</li> <li>・国際シンポジウム開催(2回、307名参加)、合同FD講習会の開催(5月、73名参加)</li> <li>・オンコロジーセミナー(4回、延べ307名参加)、ライブステージ事例検討会(8回延べ733名参加)、金沢大エキスパートセミナー(2回延べ70名参加)</li> <li>・第2期インテンプコース修了者看護師10名</li> <li>・信州大学がん哲学外来 in 軽井沢(3回、参加者55名)</li> <li>・市民公開講座の開催(計7回、延べ1,105名参加)</li> <li>・小児血液がんセミナーin中部(3月、78名)FD講習会講演会開催(6回、528名参加)</li> <li>・OCNS対象看護事例検討会実施(2回、27名参加)</li> <li>・看護実践セミナー開催(2回、延べ65名参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ更新</li> <li>・第2期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月)</li> <li>・全教育コースを網羅した募集要項を作成し配布</li> <li>・インテンプコース募集要項をがん拠点病院に配布</li> <li>・地域医療機関連携、新TV会議用PCを4拠点更新</li> <li>・外部評価委員による評価</li> <li>・ニュースレターを発行し関係各所に配布、地方新聞などでの北信がんプロに関する記事掲載</li> <li>・北陸・長野のケーブルTVで市民公開講座の模様放送</li> <li>・地域包括医療について学部生及び大学院生が受講</li> <li>・市民参加による公開緩和ケア合同討議を開催</li> <li>・長野県地域がん診療連携拠点病院と連携し、医療者研修会を実施、小中学校の養護教員、小中学校児童等に対しがん教育の講演を行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同市民公開講座開催通知(1回、11月実施)</li> <li>・国際シンポジウム開催(2回、207名参加)、合同FD講習会の開催(6月、46名参加)</li> <li>・オンコロジーセミナー開催(2回、延べ196名参加)、ライブステージ事例検討会開催(4回延べ420名参加)</li> <li>・第2期インテンプコース修了者薬剤師1名</li> <li>・市民公開講座開催(計13回、延べ1,394名参加)</li> <li>・小児血液がん症例検討会中部開催(10月、104名参加)</li> <li>・各大学でFD講習会・講演会開催(5回、212名参加)</li> <li>・OCNS対象看護事例検討会実施(2回、33名参加)</li> <li>・看護実践セミナー(2回、延べ83名参加)医療者向けセミナー(6月、46名参加)</li> <li>・信州大学がん哲学外来開催(10月、参加者22名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信がんプロ及び連携大学のホームページを更新</li> <li>・第3期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月)</li> <li>・全教育コースを網羅した募集要項を作成し配布</li> <li>・インテンプコース募集要項をがん拠点病院に配布</li> <li>・地域医療機関連携、新TV会議用PCを4拠点更新</li> <li>・ニュースレターを発行し関係各所に配布</li> <li>・各地方新聞などでの北信がんプロに関する記事掲載</li> <li>・北陸・長野のケーブルTVで公開講座の模様を放送</li> <li>・地域包括医療について学部生及び大学院生が受講</li> <li>・長野県地域がん診療連携拠点病院と連携し、医療者の養護教員、小中学校の児童等に対しがん教育の講演を行った</li> </ul>
実績							

年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
区分		定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの
アウトカム	計画（工程表）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部学生、研修医をはじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知</li> <li>・北信データベース情報収集</li> <li>・地域医療で活躍する薬剤師の輩出(1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育コースの構築</li> <li>・連携大学及び関連地域医療機関等の連携強化</li> <li>・本プランの周知</li> <li>・内部評価を基にした検討、改善</li> <li>・北信がんデータベース情報内容の精査及び方向性決定</li> <li>・情報発信として学会発表や論文発表を行い、得られた成果を共有する</li> <li>・北信地域における在宅医療、在宅緩和医療への理解度が高くなる。両立支援、意志決定支援が充足する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信地域におけるがんの実態把握</li> <li>・地域医療で活躍する薬剤師の輩出(2名)</li> <li>・北信地域における在宅移行率、死亡率の1%上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善、次年度事業の実施体制検討、本プラン周知と入学希望者確保</li> <li>・チーム医療リーダー養成</li> <li>・地域医療に貢献できる専門医師の養成並びに臨床研究の推進、先進的医療を担う国際的人材育成とキャリア形成、がん予防、検診受診、早期発見治療等、社会啓蒙効果</li> <li>・多職種連携が可能なゲム診療リーダー輩出によるゲム医療への貢献</li> <li>・がんデータベース内容充実及び履修生・教員らが学会発表等を行い、成果を共有し、在宅医療、在宅緩和医療の理解度を向上させた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業に関与する大学院生や教官の英文論文発表数5件以上。</li> <li>・地域医療で活躍する薬剤師の輩出(2名)</li> <li>・北信地域における在宅移行率、死亡率の2%上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善、次年度事業の実施体制検討、本プラン周知と入学希望者確保</li> <li>・チーム医療リーダー養成</li> <li>・地域医療に貢献できる専門医師の養成並びに臨床研究の推進、先進的医療を担う国際的人材育成とキャリア形成、がん予防、検診受診、早期発見治療など社会啓蒙効果</li> <li>・多職種連携が可能なゲム診療リーダーの輩出によるゲム医療への貢献</li> <li>・がんデータベース内容充実及び履修生・教員らが学会発表等を行い、成果を共有し、在宅医療、在宅緩和医療の理解度を向上させた</li> </ul>
	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部学生、研修医をはじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知(ポスター掲示、パンフレット、チラシ等配布)</li> <li>・北陸、長野のがん診療拠点病院にアンケート調査を実施、情報収集への協力依頼(20拠点参加予定)</li> <li>・在宅医療で活躍する薬剤師のスキルアップ及び薬薬連携を行い、地域医療で活躍する薬剤師を輩出(2名)</li> <li>・各大学にて北信がんプロ事業に関する告知、広報活動を行うとともに、教育コースの受講者を募集した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院学内規則や科目等履修生規則を見直し、教育コースの構築し、教育指導体制を確立、運営協議会や各種セミナーを通し、大学及び関連医療機関等との連携強化、外部評価結果を基に取組を改善した</li> <li>・北信がんデータベース情報内容の方向性の決定、情報発信として学会発表や論文発表を行い得られた成果共有</li> <li>・市民公開講座や新聞報道を通し、北信地域における在宅医療、在宅緩和医療両立支援、意思決定支援を行った</li> <li>・TV会議システム基盤整備で多様なセミナーが受講可能となり学習、研修機会増加</li> <li>・教育学部でがん教育講習を必修化した(福井大学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信地域のがん診療連携拠点病院(21拠点)の院内がん登録データの検証を行った</li> <li>・長野県における院内および全国がん登録から見た肺がんの特徴を解析し、合同市民公開講座にて発表を行った</li> <li>・本学薬学科より県内急性期病院へ薬剤師を輩出した</li> <li>・県内の病院や薬局での地域連携業務に従事するインテックコース受講者受入</li> <li>・市民公開講座でライフステージに応じたがん患者の終末期在宅医療の講演会開催</li> <li>・大学院入学対象者への北信がんプロの告知(ポスター掲示、パンフレット、チラシ等配布)</li> <li>・各大学で事業に関する告知、広報活動を行い、教育コース受講者を募集した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価委員会の設置等による事業計画を改善した</li> <li>・学長連絡協議会、運営協議会による事業計画を承認</li> <li>・総務委員会にて事業の実施体制を調整・確立した</li> <li>・運営協議会にて地域医療機関等と連携強化を行った</li> <li>・教育コース・セミナーによりチーム医療のリーダー養成、薬学会にてがん医療シンポジウムを開催した</li> <li>・海外FD研修への派遣と成果発表による国際的人材育成キャリア形成を行った</li> <li>・多職種多施設連携によりがん医療スタッフ養成</li> <li>・データベース解析結果を大学教員らが学会発表を行った</li> <li>・市民公開講座を通じ在宅医療、がん治療と就労の両立支援の情報を発信した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信地域のがん診療連携拠点病院(21拠点)の院内がん登録データ分析結果を利用して学会等での発表によるキャリア形成を図った</li> <li>・合同市民公開講座において、小児・AYA世代のがんについての現状や治療、ケアについての講演会を開催</li> <li>・県内の病院や薬局での地域連携業務に従事するインテックコース受講者受入</li> <li>・大学院入学対象者へポスター掲示、パンフレット、チラシ等配布、ホームページにて告知した</li> <li>・各大学にて北信がんプロ事業に関する告知、広報活動を行うとともに、教育コースの受講者を募集した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価委員会の評価を受け事業計画を改善した</li> <li>・総務委員会において事業の実施体制を調整した</li> <li>・運営協議会にて地域医療機関等との連携を強化した</li> <li>・教育コース・セミナーの実施によりチーム医療のリーダーを養成し、海外FD研修の成果発表により人材育成とキャリア形成を図った</li> <li>・多職種多施設連携によるがん医療スタッフ養成を図った</li> <li>・北信がんデータベースを用いた4件の研究が学会発表等に向けて解析した</li> <li>・市民公開講座等を通し、がんゲム医療、緩和ケア、在宅医療、免疫チェックポイント阻害薬への理解が向上した</li> <li>・学校教育現場にてがん教育への理解が深まった</li> </ul>

## (4)これまでの取組全般における成果・効果

- 本事業の実施によって解消することを目指している課題に対する成果・効果及び本事業の実施による付随的な効果等  
 ○新しい人材養成システム等が導入されたことによる、従来とは異なる新規性・独創性のある成果・効果  
 ○連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との連携体制の構築による成果や効果  
 などについて、可能な限り数値的な根拠を示しつつ、具体的に記入してください。

(図表等の挿入も可。全体で1ページ以内)

## 【取組全般における成果・効果】

少子高齢化が進んでいる北信地域では医療スタッフが少ない、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人養成に対する地域的医療課題があり、以下の取組を行った。

- ①教育コースの当初予定は本科10コース、インテジコース9コース計19コースであったが、外部評価委員会から「がんゲム医療に対応できる医療従事者養成を促進するコースの増設」を勧められたため、金沢大と信州大が多職種向けのインテジコースを新設し、合計21コースを開講した。
- ②北信がんプロ独自の取組として、学長連絡協議会を毎年1回開催し教育コースの履修生受入の進捗管理を行った結果、令和元年10月末現在で本生コース68名(実績)/45名(目標)(達成率151.1%)、インテジコース227名(実績)/156名(目標)(同145.5%)と目標を大幅に上回る成果をあげた。
- ③新3科目を含む独自のe-learning教材を計19科目分公開し、全国がんプロe-learningシステムに提供した。令和元年10月末現在で、北信地域の学生や医療従事者815名が受講中である。
- ④TV会議システム(連携大学・地域医療機関の33施設が同時接続が接続可能)による多施設・多職種連携の双方向性演習を実施し、オンコロジーセミナーの診断・治療に関する16症例(計8回、669名参加)、および看護事例19例(計19回、1,706名参加)の検討計画通り行った。また、27名の講師による特別講演を行った。その結果、北信4県での症例不足が課題であった希少がんや各施設で課題となっている高齢者がん、在宅緩和ケアなどについて、多くの学生や医療従事者の学習に貢献した。
- ⑤連携6大学の教職員が引率する海外FD研修を合計3回にわたり実施し延べ41名が参加した。米国、豪州、台湾の合計9施設を訪問し、最新のがんゲム医療や緩和ケア等について研修を受け、各自のキャリア形成につなげた。TV会議システムを用いたFD研修報告会を合計2回開催して研修の成果を北信地域の医療スタッフにフィードバックし、日常業務におけるチーム医療の中心的な役割を担う人材育成に貢献した。その付随的な効果として、令和元年9月に北信がんプロの5大大学病院のうち3病院ががんゲム医療拠点病院に指定されるという成果をあげ、地域住民にがんゲム医療を提供する体制を整えた。
- ⑥北信4県のがん診療連携拠点病院21施設において倫理委員会の承認を得たのち、平成22年～平成27年の院内がん登録データを基にした157,196症例(男: 89,023例、女 68,173例)の臨床情報を収集し、データベースを構築した。障がいを持つがん患者については、10施設から85,979症例(男48,040例、女37,939例)分の臨床情報を収集し、うち2479症例が障がい者医療費受給者証を有することを明らかにした。4研究課題の提案をデータベース委員会で承認し、解析を開始した。その成果として、小児・AYA世代のがん患者が全国と比較しても石川県に多い傾向があることが明らかとなり、小児がんの治療を成人後も継続した場合医療費負担が著増する問題や妊孕性保存の問題があり解決する体制を確立する必要があることを石川県議会に提言した。日本内科学会で合計3演題の発表を行った。
- ⑦自治体、地域医療機関、患者会代表が参加する運営協議会(関連20施設からおおよそ50名が参加)を毎年1回ずつTV会議システムを用いて開催し、北信がんプロの事業取組や教育コース等を広報するとともに意見交換を行った。その結果、地域医療機関の医療従事者のインテジコース履修申し込みにも貢献した。
- ⑧北信がんプロの教育システムの広報の一環として、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを平成31年2月6日に開催した。九州がんプロの大学院生および教員が金沢大を訪問し症例報告や特別講演をTV会議システムを通じて金沢大から発信するとともに、TV会議システムで九州大にも中継を結び九州大での参加者から北信がんプロの症例報告に対する双方向の活発な質疑を行った。本シンポジウムの成功により、その他のがんプロチームとのジョイントシンポジウム開催の可能性を示すことができた。
- ⑨小児・AYA世代、希少がん症例対策のひとつとして、平成29年度より東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを計5回開催(延べ355名参加)開催し、希少な小児がん症例の治療などに関する情報共有を行うとともに、活動ががんプロから小児がん学会へと広げること成功した。
- ⑩金沢大がん進展制御研究所等と共催でシンガポール国立大や復旦大等と国際シンポジウムを合計6回開催し、合計820名以上の参加者を集め、学生や医療従事者の最新のがん研究成果の学習や国際化に貢献した。
- ⑪連携大学が主幹を持ち回りで担当して合計3回(金沢市、福井市、長野市)の合同開市民公開講座を開催し、合計400名以上の参加者に対し最新のがん医療をわかりやすく解説した。公開講座の概要を採録記事として北信4県の地元新聞誌に掲載(約100万部)したほか、同エリアのケーブルテレビでも公開講座のダイジェスト版を放送(約40万世帯が視聴可能)し、参加できなかった市民に対する最新のがん医療や北信がんプロ事業の広報を行った。

【定量的に示すことのできる成果・効果(事業前後での比較等)】※ 受入人数等、他の様式で確認できるものは除く。

- ①各大学ホームページの開設 0→6  
北信がんプロ6大学では各大学においても独自のがんプロホームページを開設し、事業本体のホームページとリンクしており、学内外への北信がんプロ情報の発信の一助となっている。
- ②他のがんプロとの連携事業 0→2  
中部小児血液がんセミナーや、各種講演会において、他のがんプロとの共動したり、全国がんプロe-learningクラウドに参画することにより、他拠点・他地域の取り組みを学ぶ機会が推進された。
- ③がんゲム拠点病院の指定 0→3  
医科系大学はいずれもがんゲム連携病院であったが、本事業での取り組みを通じ、令和元年度、金沢大・信州大・富山大の附属病院ががんゲム拠点病院に指定され、がんゲム医療の推進がなされている。
- ④富山県がんゲム医療研修会の開催(第1回70名、第2回72名、第3回31名、第4回32名)

【補助金の使途のうち、成果・効果を上げるための貢献度が高かったもの】※理由と併せて具体的に記入してください。  
**TV会議システムの整備・拡張**: 遠隔地の学生・医療従事者にも同時に双方向で講演聴講や議論を行う場を提供できたため、合計2,900名以上が参加している演習(セミナー)に加え、各種会議にも使用しており、交通費の削減、参加者数の増加に貢献している。

**海外FD研修**: 海外の最先端の医療現場で研修・見学できたことにより、研修に参加した北信がんプロの医療従事者の知識のみならず意識改革やモチベーションの向上に大きく貢献した。間接的には、3大大学病院のがんゲム医療拠点病院指定に貢献した。

**E-learning教材作成**: 履修者が自由な時間帯に聴講し学習が可能になったため、815名が聴講した。

## 3. 推進委員会からの要望、指摘事項等への対応状況

## (1) 推進委員会からの要望への対応状況について

(下線部分のこれまでの実施状況や検討状況について、具体的に記入してください。①～③で2ページ以内)

推進委員会からの要望事項	対応状況
<p>① 本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。</p>	<p><b>【事業の責任体制・実施体制】</b>  ※複数大学が連携する取組は、連携体制についても記入してください。また、本取組により新たな講座等が設置された場合の新たな運営体制等についても記入してください。</p> <p>○事業の責任体制：連携各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進するとともに、6大学の学長が参加する学長連絡協議会において定期的に取り組事業の進捗状況を管理している。学長連絡会議で進捗管理を行った結果、全年度、全コースで目標を上回る受入数（本科生コース68名/45名（達成率151.1%）、インテンシブコース227名/156名（同145.5%））を達成した。また、e-learning教材作成では各大学の役割分担を決め、それぞれが強みを持つ領域の教材作成（がんゲノム医療・金沢大、小児・AYA世代がん：信州大・金沢医大、ライフステージ：富山大・福井大・石川看護大）を行い19科目の教材作成を完成させた。演習や合同市民公開講座、海外FD研修会も持ち回りで主催・主幹を分担しワンチーム体制で開催した。</p> <p>○実施体制：6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による運営協議会（年1回開催）を設置し、取組事業における意思決定及び運営を行うほか、主幹である金沢大がんセンター長が統括事業責任者として6大学の連携強化・調整を行い、さらに6大学による総務委員会（ステアリングコミティー）、教務委員会、がんデータベース委員会（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、広報委員会、企画委員会等を設置・開催し、実務を行った。</p> <p><b>【自立化した事業継続体制】</b>  ※長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について、記入してください。その際、将来的な財源確保（学内共通経費や寄附金を含む外部資金等の有力な財源を示すこと）に関する具体的な状況についても必ず記入してください。</p> <p>将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的な育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる方針である。</p> <p>特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域ひいては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。令和元年度までに15万症例以上の臨床情報を収集しデータベースを構築、解析を開始した。今後は、自己資金の支出のみに依存せず、自治体等の公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う予定である。</p> <p>また、新たにNPO法人（北信がんプロ認定機構）を平成31年4月に設立した。地域におけるがんプロフェッショナルの認定により、がん医療人材のスキルアップ、キャリア形成につなげると共に、資金を確保し事業継続に伴う広報や教育システム維持にかかる資金の一部費用負担を行うなどの経済的な支援も予定している。</p>

推進委員会からの要望事項	対応状況
<p>② 厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行いつつ、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。</p>	<p><b>【事業の不断の見直し】</b>  <b>※評価から改善の流れ等について、具体例等を含めて記入してください。</b>  当初は、内部評価委員会と外部評価委員会を隔年で実施する予定であったが、推進委員会からの指摘を受け、外部評価委員会を毎年実施するように変更した。患者も構成員に含めた外部評価委員会を平成30年3月16日と平成31年3月8日に開催し、有益な改善点の指摘を複数受けた。また、患者、自治体、地域のがん診療連携拠点病院等よりなる北信がんプロ運営協議会を毎年1回（平成29年9月18日、平成30年11月14日、令和元年11月7日）開催し、広く意見を取り入れ事業見直しに努めた。したがって、現在北信がんプロでは、外部評価委員会、運営協議会、総務委員会での評価やセルフチェックにより改善点を抽出し、総務委員会では対応方針を決定し、下部委員会が対応策の策定および実施を行う体制をとっている。  具体的には、外部評価委員会で新設を勧められた多職種向けのがんゲノム医療に関するインテンブコースに関しては、総務委員会で新設の意思決定後、教務委員会で新設の作業を行い、よく年度内に新設を実現した。  また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者へのアンケート調査を行い、取り上げるべき講演テーマの決定に活用した。</p> <p><b>【キャリアパス形成に資する取組】</b>  <b>※修了者のキャリアパス形成に対してどのような支援を行っているか具体例等を含めて記入してください。</b>  北信がんプロではキャリアパス形成の試みの一つとして、海外FD研修会を実施した。教員（各大学数名ずつ）を海外連携機関へFD研修に派遣し、最新の医療が行われている現場で1週間程度の研究を受けさせ、その成果を後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行った。この取り組みは、人員不足のため長期海外留学が困難な地方大学病院の医療従事者にとって、大変モチベーションを向上させる事業となった。平成30年2月は金沢大主幹で米国NCIなどでゲノム医療を、3月には石川看護大主幹で豪州メルボルンの6医療施設で緩和ケアを、11月には金沢医大主幹で台湾高雄大で先進医療の研究を実施した。今後予算確保ができる場合には海外FD研修を継続し、海外FD参加者の選出においては修了者を優先させる方針である。  女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指し2期北信がんプロでは看護師の復帰支援の取組を行い実績を挙げたが、北信がんプロでは、出産等で休職した女性医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行っている。その学習ツールとして、e-learning教材による学習やオンコロジーセミナーやがんライフステージ事例検討会などの演習への参加を呼び掛けている。  今後、教育コース修了者に対して、NPO北信がんプロ認定機構による認定証を発行する予定となっており、キャリアパス形成につなげると共に、認定取得者の輩出により、認定取得者周囲への波及効果が望まれ、履修者、修了者のさらなる増加につながる。</p> <p><b>【客観的なアウトプット・アウトカム】</b>  <b>※客観的なアウトプット・アウトカム等について具体的に記入してください。</b>  ①平成29年度：学長連絡協議会、キックオフミーティング（運営協議会）を通じ、連携大学及び北信・長野の地域医療機関と大学間での連携を確認した後、取組事業の紹介や受講者募集等を行い、北信がんデータベースへの協力を求めたほか、オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会など、TV会議システムを用いた多施設、多職種演習（延べ594名参加）の参加協力を求めた。  また、一般市民、医療機関への情報発信としてホームページ、ニュースレター、新聞各紙、ケーブルテレビなどの媒体や、市民公開講座を開催しそれぞれの場において取組事業の紹介を行ったほか、関連機関への受講者募集等の広報活動を行うことで各教育コース受入数の当初目標の達成につながった。  さらに、東海地区の小児血液がん学会関係施設と連携し、小児血液がんセミナーin中部を開催（85名参加）するなど、これまでの連携エリアの枠を超えた新たな連携が形成された。  ②平成30年度：前年度同様、学長連絡協議会、運営協議会を通じ、連携大学間、地域医療機関との協力連携により、オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会など、テレビ会議システムを用いた多施設、多職種演習を12回（延べ1,040名参加）開催したほか、外部評価委員会の指摘を受け、ホームページを更新充実させた結果、年間閲覧数が7万を超えた。  ③令和元年度：前年度同様、学長連絡協議会、運営協議会を通じ、連携大学間、地域医療機関との協力連携による事業運営体制を整えたほか、オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会など、TV会議システムを用いた多施設、多職種演習を6回（延べ618名参加）開催した。</p>
<p>③ 成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。</p>	<p><b>【成果等の情報発信、他大学への普及・展開】</b>  <b>※成果等の情報発信や、他大学への普及について、具体例等を含めて記入してください。</b>  ・本事業による人材養成モデルや成果に関して受講者向け、患者向け、医療従事者向けと大別し、それぞれ連携大学、地域医療機関、社会一般向けに各大学が主催する市民公開講座、シンポジウム、ホームページ、ニュースレター（計5回発行、毎回約200部発行）、マスメディアを通じて情報発信を行い、「がん教育、予防、検診受診、早期発見、早期治療、早期社会復帰」に向けた情報を発信、意識付けが出来るよう啓蒙に努める。  ・他大学に対しても参考となるよう取組モデルをまとめた事業報告書を作成・配布するほか、facebookやtwitterなどのSNSも有効活用し、多角的な情報発信を図る。  ・薬学系の演習で服薬指導のロールプレイに用いたシナリオを国内74薬学部へ配布するなど、積極的に情報展開を行い、成果の普及・展開を行う。  ・合同市民公開講座の採録記事（全15段記事）を、北信4県（石川、富山、福井、長野）新聞に掲載したほか、北信4県のケーブルテレビにて、合同市民公開講座の様子を収録したダイジェスト版（60分）を各地で4回程度放送した。</p>

## (2) 推進委員会からの指摘事項(改善を要する点等)への対応状況について

(指摘事項に対するこれまでの実施状況や検討状況について、具体的に記入してください。全体で1ページ以内)

推進委員会からの指摘事項	対応状況
取組継続に関して、各大学の学長のガバナンスにおいて予算確保の継続は評価するが、中長期的戦略も必要であり、公的資金以外にも資金確保の工夫を期待したい。	本事業で設置した教育コース、連携事業等は各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる方針である。 また、自己資金の支出のみに依存せず、研究費獲得に向けた申請を継続的に行うほか、NPO法人北信がんプロ認定機構を平成31年4月に設立し、事業継続に伴う費用負担の一部を補う基盤を整えた。今後自治体などの公的資金獲得の申請を行う。
事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。	進捗管理については連携6大学の学長連絡協議会により学長ガバナンスにより進捗管理を行っており、本科生コース、インテンシブコースともに140%以上の充足率を達成している。 データベース構築については、研究申請書を金沢大学で倫理委員会承認を得たのち、本事業に賛同した北信4県のがん診療連携拠点病院21施設において倫理委員会の承認を得た。次に、平成22年～平成27年の院内がん登録データを基にした157,196症例(男: 89,023例、女 68,173例)の臨床情報を収集し、金沢医大公衆衛生学教室(西野教授)でデータベース化した。これまでほとんど実態が明らかになっていない障がいや有するがん患者については、10施設から85,979症例(男48,040例、女37,939例)分の臨床情報を収集し、うち2479症例が障がい者医療費受給者証を有することを明らかにした。連携大学から申請された4研究課題の提案をデータベース委員会で検討・承認し、研究者による解析を開始した。その成果として、小児・AYA世代のがん患者が全国と比較しても石川県に多い傾向があることが明らかとなり、小児がんの治療を成人後も継続した場合医療費負担が著増する問題や妊孕性保存の問題があり解決する体制を確立する必要があることを石川県議会に提言した。日本内科学会で合計3演題の発表を行った。今後もデータ集積を進め、同様の手順で履修生の学術活動や、北信地域のがん医療対策として活用する予定である。
少子高齢化と小児・AYA 世代のがん医療についてどのような問題点があり、どのように解決していくのか明確となっていない。	地域として医療実態の把握がなされていないという問題については、上述の手法で地域がんデータベースを構築し、実態把握についての作業を開始している。小児・AYA世代・希少がん症例が少ないという問題については、地域がんデータベースの成果として、石川県では小児・AYA世代がん症例の割合が全国平均よりもむしろ高いという特徴が明らかになった。すでに、石川県議会に小児がんの医療費負担や妊孕性保存に関する問題提起まで行った。医療スタッフが少ないという問題については、1)海外FD研修を行うことで参加したスタッフの知識レベルやモチベーションの高めた、2)現在スタッフ数不足が深刻な遺伝カウンセラーに対し、養成する本科コースを信州大学で設置しているほか、金沢大学でも修士大学院コースを令和2年度に新設するなどの対応を行った。
外部評価は隔年施行予定とあるが、アドバイスの、監査的要素も入れて毎年関与されるシステムの構築が望ましい。	学長連絡協議会で検討の結果、内部評価と外部評価を隔年で実施するのではなく、外部評価委員会を毎年開催ことに変更し、平成29年度は平成30年3月16日(金)に、平成30年度は平成31年3月8日(金)に開催した。今後も、外部評価を毎年行う監査体制で事業を推進する予定である。
北信地域の特徴は記してあるが、遠隔教育システムやデータベースを新たに構築する以外、その特徴に対して、具体的な教育・研究活動が明瞭に示されていない。	2段上のコメントに対する回答と同様である。 さらに、金沢大がん進展制御研究所、シンガポール国立大、復旦大等との連携により国際シンポジウムを合計6回開催し、先進的な研究成果の理解を高めたとともに、英語による国際交流の場を提供した。 また、看護系大学では臨床薬理や臨床腫瘍学、フィジカルアセスメントの講師などが不足している為、金沢大の教員が1対1～2という教育環境で講義を行うなど、密度の濃い教育を行った。更に、金沢大と富山大では、共に薬学系の実習において相互補完的に履修可能とするなど、教育、研究活動の連携、充実を図った。
各大学の得意な領域を活用する趣旨は評価できるが、他大学の院生がどのような形でその恩恵に与れるのか具体策が不明確である。	連携各大学の得意な領域において北信がんプロ独自のe-learning教材を作成し、他大学院生は共通科目として受講が出来る体制を構築した。TV会議システムを活用した演習も各大学が強みを有する領域の症例を連携各大学の受講者が学修した。さらに、大学院生を対象とした小児がん診療、がんゲノム医療など交換研修も可能な体制であり、学会認定資格、専門医取得などで恩恵を受けるシステムを構築した。
人材養成モデルの情報発信の方法が不明確である。単なる教員、院生の研究成果の発表にとどまらないよう考慮する必要がある。	連携各大学において市民公開講座、シンポジウム、ホームページ、マスメディアを通じ、「がん教育、予防、検診受診、早期発見、早期治療、早期社会復帰」に向けた情報を発信、意識付けする啓蒙を行った。また、facebookやtwitterなどのSNSも有効活用し、多角的な情報発信を行った。さらに、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを開催し、お互いの教育システムに関する情報交換や情報発信を行った。



## (3)事業の実施体制(担当者一覧)

	氏名	実務上の責任者に「○」	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
1	矢野 聖二	○	金沢大学がん進展制御研究所教授	事業推進統括コーディネーター、北信がんプロ運営協議会会長、総務委員会
2	山崎 光悦		金沢大学学長	学長連絡協議会会長
3	稲垣 美智子		金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授	北信がんプロ運営協議会委員、保健学系内の調整
4	武村 哲治		金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授	保健学系内の調整
5	松下 良		金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授	北信がんプロ運営協議会
6	濱田 州博		信州大学学長	事業総括・学長連絡協議会委員
7	中山 淳		信州大学学術研究院(医学系)教授・大学院医学系研究科長	事業総括
8	小泉 知展		信州大学学術研究院(医学系)教授(包括的がん治療学教室)	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
9	中沢 洋三		信州大学学術研究院(医学系)教授(小児科学教室)	教育カリキュラム開発・編成担当
10	齋藤 滋		富山大学学長	事業統括
11	林 篤志		富山大学附属病院長	事業推進プロジェクトリーダー
12	林 龍二		富山大学附属病院臨床腫瘍部教授	教育カリキュラム開発・編成担当(総括)
13	長田 拓哉		富山大学附属病院集学的がん診療センター 副センター長	広報戦略担当
14	上田 孝典		福井大学学長	事業総括・学長連絡協議会委員
15	廣野 靖夫		福井大学医学部附属病院がん診療推進センター長	総務委員会委員、教務委員会委員、広報委員会委員、オンコロジーセミナー運営委員会委員
16	片山 寛次		福井大学大学院医学領域がん専門医育成推進講座特命教授	総務委員会委員、教務委員会委員、オンコロジーセミナー運営委員会委員
17	神田 享勉		金沢医科大学・学長	事業統括、学長連絡協議会 委員
18	元雄 良治		金沢医科大学医学部腫瘍内科学・教授	金沢医科大学コーディネータ、教育カリキュラム開発・編成担当、総務委員会・運営協議会 委員
19	下平 滋隆		金沢医科大学医学部再生医療学・教授	教育カリキュラム開発・編成担当、総務委員会・教務委員会・運営協議会 委員
20	安本 和生		金沢医科大学医学部腫瘍内科学・特任教授	教育カリキュラム開発・編成担当、オンコロジーセミナー企画委員会・運営協議会 委員
21	石垣 和子		石川県立看護大学学長(地域看護学)	事業総括・学長連絡協議会委員
22	西田 義明		石川県立看護大学事務局長	事業総括・総務委員会
23	牧野 智恵		石川県立看護大学学長補佐、教授(成人看護学)	看護大学コーディネータ、事業推進プロジェクトリーダー
24	谷本 千恵		石川県立看護大学准教授(精神看護学)	広報委員会
25				

## 4. 評価

### 4-1. 取組についての自己評価（全体で1ページ以内）

(1) これまでの事業の進捗状況の自己評価を下記から選択してください。

選択欄	①順調に進捗しており、当初目標を上回る効果・成果が出ている。
-----	--------------------------------

- ①順調に進捗しており、当初目標を上回る効果・成果が出ている。
- ②おおむね順調に進捗している。
- ③予定通りに進んでいない点もあるが、当初目標を達成できる見込みである。
- ④予定通り進んでおらず、当初目標を達成することが難しい状況である。

(2) 上記自己評価に関して、これまでの事業の進捗状況をどのような体制で点検・評価したのか、また、自己評価の結果を踏まえて、今後どのように改善・発展するのかについて、記入してください。

#### 【点検・評価体制】

推進委員会の指摘に対応し、外部評価委員会を毎年実施することにした。外部評価委員会からのコメントを真摯に受け止め、総務委員会で現状を把握し改善策を検討・立案した。その改善策を担当委員会でさらに議論し、実効性のある改善対応を行った。具体的には、がんゲノム医療に関する多職種連携のインテンシブコース立ち上げを外部評価委員会から勧められ、総務委員会で立ち上げの必要性を理解し総意を得たうえで、教務委員会に諮り、金沢大学と信州大学で多職種向けのがんゲノム医療に関するインテンシブコースの新設を実現した。

今後も、あらかじめ数値目標を設定していたものに関してはそれを達成できるように努力を継続して行う。さらに、毎年外部評価委員会を実施し、客観的な評価を受けてそれに対応することで継続的に改善を行っていく予定である。

#### 【当初目標を上回る効果・成果を出すための取組等】

※(1)の自己評価において①を選択した場合は、当初の目標を上回る効果・成果に繋がった理由について、大学として行った具体的な工夫や取組等を記入してください。

学長連絡協議会で、履修生の受け入れを中心に事業の進捗管理を行った結果、各大学の学長が本事業の重要性を理解し各大学において責任者を支援・刺激していることにより、当初目標を上回る受入れを達成することができたと実感する。

また、6大学の責任者が北信オンコロジーセミナーやがんライフステージ事例検討会などの演習、がん関連学会等の諸活動で、常に顔が見える関係で本事業を推進しているため、北信がんプロは非常にまとまったチームになっていることも当初目標を上回る大きな要因になっていると思われる。

#### 【今後の改善・発展方策】

※(1)の自己評価において③又は④を選択した場合は、進捗の遅れの原因を記入し、具体的な改善方策を記入してください。

## 4-2. 外部評価（(1)及び(2)で1ページ以内）

(1)下表に、外部評価の実施状況を記入してください。

事業年度	外部評価の実施状況	外部評価実施(予定)年月日
平成29年度	○	平成30年3月16日
平成30年度	○	平成31年3月8日
令和元年度	○	令和2年3月実施予定

(記入要領)

実施状況について、当該年度に1回以上実施した場合は「○」を、実施していない場合は「×」を付してください(令和元年度については、実施予定がある場合も「○」を付してください)。

また、実施状況に「○」を付した場合は、当該事業年度における実施(予定)年月日を記入してください。

(2)外部評価の実施体制についてお答えください。

①他機関委員の参画の有無

選択欄	○
-----	---

②他機関委員の氏名、所属・役職等(①が「○」の場合のみ記入)

No.	氏名	所属・役職等
1	松浦 成昭	大阪国際がんセンター総長 全国がんプロ協議会会長
2	石岡 千加史	東北大学腫瘍内科教授 東北次世代がんプロ養成プラン 事業推進責任者
3	眞島 善幸	特定非営利活動法人パンキャンジャパン 事務局長 一般社団法人全国がん患者団体連合会(全がん連)
4	澁谷 武志	地元産業界 シブヤEDI株式会社 代表取締役
5		

③具体的な実施方法等

以下の手順で、外部評価を実施した。

- 外部評価委員会の各委員による評価  
外部評価委員会の各委員による評価として、各委員がそれぞれ評価結果報告書を作成する。  
(1) 評価にあたっては、活動報告資料と外部評価委員会でのプレゼンテーション・質疑応答に基づき評価を行う。  
(2) 各委員が評価結果報告書を北信がんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で取りまとめをした後、委員長へメールにて送付・提出する。
- 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果の作成  
各委員の評価結果報告書を基に、委員長が外部評価委員会評価結果(案)を作成し、評価結果(案)を各委員へ送付する。  
各委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して委員へ送付する。委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果(修正案)を作成し、各委員へ送付する。  
委員長は、メール等で対応できない場合や審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。最終的に外部評価委員会としての外部評価委員会評価結果を作成し、事務局へ通知する。

(3) 各事業年度の外部評価において、指摘を受けた内容及びその内容を踏まえた改善内容及び改善時期を記入してください。  
 なお、外部評価を実施していない場合は「実施していない」、令和元年度において、実施予定がある場合は「事業年度内に実施予定」と「主な指摘事項」欄に記入してください。

<p>平成29年度</p>	<p>主な指摘事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページを一新して内容がわかりやすく、見やすくなった点は良いが、作成中の所がいくつかあり、情報提供の上で遅れているので、改善をお願いしたい。</li> <li>2. e-learningが教育の中心であり、良い内容のものを多数作成して大変な努力とは思いますが、少し整備が遅れていて不十分な所があるので次年度の教育に間に合うように準備頂きたい。</li> <li>3. 第2期がんプロの大学院生が在籍しているので、引き続き教育に励んで頂くとともに、第3期がんプロとの関連(別個にやるのか、移行するのか)についても考慮、記載頂きたい。</li> <li>4. ゲノム人材養成がにわかに重要課題として浮かび上がってきているが、北信がんプロではゲノム人材のコースが大学院2コース、インテンシブコースのみと少ない。ゲノム医療の実現のためにはゲノム医療の専門家だけでなく、関係する幅広い医療スタッフにある程度の知識を普及啓発する活動も必要なので、可能であればインテンシブコースの形で追加することを考慮頂きたい。また、がんプロにおけるゲノム医療人材養成の取組みとゲノム医療連携病院としてゲノム医療実践との関連性を考慮しながら事業を進めて頂きたい。</li> <li>5. 多くのセミナー、シンポジウムを開催している点の評価するが、これらの開催はがんプロ事業の一環であるということを意識して、がんプロの広報にも努めて頂くようお願いしたい。</li> </ol>
<p>平成29年度</p>	<p>改善内容・改善時期</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページの内容の指摘事項については、平成30年2月20日に開催した広報委員会にて内容検討と併せて、ホームページ掲載の優先順位をつけ内容を充実させ、平成30年6月には指摘箇所の修正を行った。その後も継続的に見直しを行い、さらに充実した内容のホームページを目指し、維持管理を行った(更新回数計35回)。</li> <li>2. 外部評価開催時にはe-learning教材の収録が遅れ未公開となっていた一部の講義についても、平成30年度本科生の受入開始時(平成30年度5月)には、教育コースに必要な全ての科目の教材を公開した。</li> <li>3. 1期、2期がんプロ時の教育コース履修生については、基本的に新科目は単位互換ではないため、当面、別個に教育コースを実施することとなるが、新しい科目の受講を希望する院生については柔軟に対応しており、希望があれば受講環境を提供することとしている。</li> <li>4. がんゲノムの教育コースの充実については、平成30年5月に看護系の委員会を多職種連携委員会と改称して、平成30年8月に金沢大が多職種向けのインテンシブコース(がんゲノム多職種連携入門コース)を追加開講した。連携全5大学病院(金沢大、信州大、富山大、福井大、金沢医科大)が、平成30年4月にがんゲノム医療連携病院の指定を受けており、今後、各病院の医療従事者向けにがんゲノム医療の教育の場を提供する事としている。</li> <li>5. 連携各大学が連携または合同で、セミナー、シンポジウムを開催している。年1回開催の合同市民公開講座後に、北信4県の地方新聞に採録記事を掲載すると共に、講演内容を収録したダイジェスト版を各県ケーブルテレビで4回程度放送する等地域住民への後方に勤めた。さらに、ホームページやSNSでの情報発信に加え、様々な媒体で可能な限り広報に努めている。</li> </ol>
<p>平成30年度</p>	<p>主な指摘事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生の専門性やバックグラウンドを十分に把握したうえで、養成された人材が地域での新しいテーマに対応するがん医療が推進できるように考慮して頂きたい(評価資料やプレゼンで示して頂きたい)。</li> <li>2. オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は大学間連携・多職種連携に重要と考えられ、充実した内容であるが、大学を超えた取組み・多職種の連携を図る教育事業がほかにあまりない点を見ると、もう少し開催数をふやせないか考慮いただき、多職種が参加することによる幅広い議論を望みたい。</li> <li>3. 各大学がそれぞれ教育内容を分担する形で全体して第3期がんプロのテーマが推進されているのはよく理解できるが、必然的に大学ごとにみると特定の職種や専門性にばらつきがみられることになる。各地域に必要な人材養成の観点から考えると地域単位(大学単位)での後発的な養成も考慮すべきである。</li> <li>4. がんプロの活動内容および成果をもっと発信してアピールすることが望ましい。</li> </ol>
<p>令和元年度</p>	<p>改善内容・改善時期</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部評価委員会での指摘を受け、令和元年度当初の総務委員会(令和元年5月22日開催)で各大学の教育コース受講生の調査を決定し、調査で得られたデータを翌年度の学長連絡協議会(令和元年11月17日開催)で報告した。令和元年度の外部評価委員会でもデータを提示する予定である。</li> <li>2. オンコロジーセミナー及びライフステージ事例検討会の開催回数の増加は困難と思われる為、さらに各大学で1回あたりの参加者数の増加させるため多職種が参加しやすいテーマを取り入れるなど内容の改善を行った。各大学で開催するFD講習会の一部を単位認定セミナーとしてTV会議システムで配信するほか、各大学の本科履修生を対象とした交流セミナー(令和元年11月17日)を開催するなど、多職種が参加するセミナーを充実させた。</li> <li>3. 外部評価委員会での資料には含まれていなかったが、大学単位での人材養成を行っている。富山大では富山県がんゲノム医療研修会を合計4回開催してゲノム医療に強い医療人材養成を行った結果、がんゲノム医療拠点病院の指定を受けるという成果を挙げた。</li> <li>4. これまでも連携各大学が開催する市民公開講座開催時や、各大学のホームページ、SNSなどで活動内容をアピールしている。さらに、関係各機関へのニュースレター、各年度の活動状況をまとめた活動成果報告書を配布しているが、今後はそれぞれの媒体をリンクさせた広報活動にも注力する。</li> </ol>
	<p>主な指摘事項</p>	<p>未開催(令和2年3月に開催予定)</p>

5. 社会への発信

(1) 下表に申請担当大学が設けている本事業のWebサイト等の更新回数等を記入してください。(令和元年10月末時点)

取組内容		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		更新回数	閲覧数	更新回数	閲覧数	更新回数	閲覧数
申請担当大学が設けている本事業Webサイト等の更新回数・閲覧数	Webサイト	35回	37753回	60回	70018回	30回	42412回
	SNS等	更新回数		更新回数		更新回数	
		30回		48回		36回	

(記入要領)  
 Webサイトの更新回数・閲覧数とは、医学部等のWebサイト全体の更新回数等ではなく、軽微な修正等を除いた、本事業に関するページ・内容に関する更新回数等とします。  
 また、Facebook、twitter等のSNSによる更新回数は、「SNS等」の欄に別に記入してください。  
 なお、更新回数等を把握できない場合は、「不明」と記入してください。

(2) 申請担当大学が設けている本事業のWebサイトで公開している内容について、「○」または「×」を選択してください。(令和元年10月末時点)

<input type="radio"/>	① 事業概要、本事業に係る問合せ先、事業責任者、担当教員名等を掲載しているか。
<input type="radio"/>	② 教育プログラム・コース内容の詳細が明示されているか。(講義・実習等の詳細な内容、教員名等の掲載)
<input type="radio"/>	③ 教育プログラム・コースの受入目標人数及び履修者数が掲載されているか。
<input type="radio"/>	④ 学生向けのPRのためのページがあるか(履修者の意見、キャリアパスにつながる支援等)。
<input type="radio"/>	⑤ 最新のトピックス(新着情報、活動報告等)などの情報を随時更新しているか。
<input type="radio"/>	⑥ 他大学の参考となるような(普及促進に向けた)情報を掲載しているか(特色ある取組、導入経緯やノウハウ、留意点等)。
URL	http://gan-pro.net/

(3) 本事業で新たに取組んだ社会への情報提供や本事業の普及促進を目的として、申請担当大学及び連携大学が主催したフォーラム等(シンポジウム・事例発表会)の開催実績を年度毎に記載してください。

- ※1 本事業に関連するものとして開催したフォーラム等(シンポジウム・事例発表会)を回答してください。
- ※2 本事業開始前から実施しているフォーラム等は含まないでください。
- ※3 学内や連携大学間でのカンファレンス等は含まないでください。
- ※4 連携大学の参加者数は「学内参加者数」として回答してください。

	開催年月日	フォーラム等の名称	主催大学		学内参加者数	学外参加者数	参加大学数 (自大学・連携大学を除く)
			申請担当大学	連携大学			
H29	平成29年10月29日	合同市民公開講座	○	○	16	141	0
	平成29年10月9日 他	市民公開講座		○	109	1627	3
	平成29年12月8日 他	北信オンコロジーセミナー	○	○	172	10	0
	平成29年8月1日 他	ライフステージ事例検討会	○	○	66	433	0
	平成29年10月11日 他	合同FD講習会	○	○	115	56	0
	平成29年9月9日 他	看護セミナー		○	115	28	0
H30	平成30年12月16日	合同市民公開講座		○	10	240	5
	平成30年10月28日 他	市民公開講座	○	○	56	1049	2
	平成30年6月29日 他	北信オンコロジーセミナー	○	○	266	41	2
	平成30年6月5日 他	ライフステージ事例検討会		○	59	674	0
	平成30年5月18日 他	合同FD講習会	○	○	33	0	0
	平成30年11月30日	看護セミナー		○	66	32	1
R1	平成31年4月22日 他	市民公開講座		○	92	1302	0
	令和1年5月31日 他	北信オンコロジーセミナー	○	○	169	27	1
	令和1年6月4日 他	ライフステージ事例検討会		○	31	389	0
	平成31年6月17日	看護実践セミナー(基礎、アドバンス編)		○	2	81	0
	令和1年7月10日 他	合同FD講習会・FD講演会・SD講演会		○	162	50	0
	令和1年9月3日 他	国際シンポジウム		○	199	8	0

## 6. 成果波及のための取組(全体で1ページ以内)

(1) 他大学等への事業の普及・促進に向けた取組について、具体的な内容を記入してください。

北信がんプロの教育システムの広報の一環として、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを平成31年2月6日に開催した。九州がんプロの大学院生および教員が金沢大を訪問し症例報告や特別講演をTV会議システムを通じて金沢大から発信するとともに、TV会議システムで九州大にも中継を結び九州大での参加者から北信がんプロの症例報告に対する双方向の活発な質疑を行った。本シンポジウムの成功により、その他のがんプロチームとのジョイントシンポジウム開催が可能であることを示すことができた。

近畿大のがんプロチームが主催する国際シンポジウムに北信がんプロの教員が平成31年2月に講師として講演を行った。この講演では北信がんプロが作成したe-learning教材のスライドも一部使用しており、他のがんプロの大学院生や医療従事者に対して北信がんプロの取り組みを多少なりとも普及できた。令和2年にも同国際シンポジウムでの講演を北信がんプロの教員が依頼されており、北信がんプロの取り組みを広める予定である。

また、小児・AYA世代、希少がん症例対策のひとつとして、平成29年度より東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを計5回開催(延べ355名参加)し、希少な小児がん症例の治療などに関する情報共有を行うとともに、活動ががんプロから小児がん学会へと広げること成功した。

(2) (1)の取組等の成果として、他大学等における具体的取組(今後の予定)について記入してください。

他がんプロチームとのジョイントシンポジウムを計画していく予定である。

近畿大のがんプロチームが主催する令和2年2月の国際シンポジウムにも北信がんプロの教員が特別講演の依頼をされており、北信がんプロの取り組みを広める予定である。

小児・AYA世代、希少がん症例対策のひとつとして、東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを今後も行う予定である。

7. 今後のがん専門医療人材の養成(全体で1ページ以内)

※本様式については、今回の中間評価の対象にはなりません。

今後、我が国で養成すべきがん専門医療人材について、自由に記入してください。

アドバンスドケアプランニング(人生会議)を含めた包括的かつ終末期までの計画的ながん化学療法ができる腫瘍内科医の育成。

「がんプロフェッショナル養成推進委員会」所見

令和 2 年 2 月 2 1 日

## 1. 事業の概要

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命と健康にとって重大な問題となっている現状から、国民に対する最適で安心・安全ながん医療を提供するために、がん専門医療人材の養成が期待されている。

特に、近年、新たなニーズとして、がんゲノム医療の推進、希少がんや小児がんへの対応、AYA（Adolescent and Young Adult）世代や高齢者等のライフステージに応じたがん対策が求められており、これらの新たなニーズに対応するため、がん医療に携わる専門的な知識・技術を有する医師やその他医療従事者を養成することが必要である。

本事業は、がんに係る多様な新ニーズに対応するための優れたがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）を養成することを目的として、平成 29 年度より、複数の大学との連携による「がん医療人材養成拠点」を整備して、各大学の特色を活かした体系的な教育プログラムを構築する優れた取組を支援している。

## 2. 中間評価で確認できた成果

本委員会では、今年度 3 年目を迎えた本事業における取組の進捗状況や成果を検証し、評価結果を各大学にフィードバックすることにより、今後の事業の推進に役立てることを目的として中間評価を行った。

教育プログラム・コースの構築状況については、令和元年 10 月末時点で、本事業の実施により新たに開設された 378 の教育プログラム・コースにおいて、医師を始めとする医療従事者や大学院生など、それぞれの能力に応じた多彩な教育プログラム・コースが展開され、受講生の数は、正規課程とインテンシブコースの合計で 17,000 人を超えている。

また、多くの拠点において、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開しており、当初の目標を上回る教育プログラム・コースの開設や学生の参加を得られ、事業責任者のリーダーシップの下、連携大学が一体となって事業に取り組んでいる。



特に、全国がんプロ e-learning クラウド等を活用した教材コンテンツの拡充による教育コースの充実と新たな受講者の獲得に努めていることは大きな成果として評価できる。

なお、各取組により、養成人材の分野や事業計画、連携大学の有無、地域の実情等がそれぞれ異なることから、今回の中間評価は各取組の内容を比較して優劣をつけるものではなく、各取組が掲げた当初計画の進捗状況や本事業の目標が達成できるか否かを評価したものであることに御留意いただきたい。

### 3. 現状の課題

一方で、取組によっては例えば下記①～③のような課題もある。

- ①プログラム・コースによって、受講者数が目標に達していない大学も見られ、有効な改善策が講じられていない。
- ②連携大学毎の取組内容に差があるなど、拠点校による連携大学へのサポートや有機的な連携が十分でない。
- ③本事業の成果を他大学や社会に対して広く普及・促進させるための広報戦略や分かりやすい情報発信が十分でない。

### 4. 今後の期待

本事業の趣旨に沿った優れた人材を多数輩出するため、今後、各大学には、今回の中間評価結果における本委員会のコメントや、以下に記載の事項等を踏まえ、取組の一層の推進を期待する。

- ①修了者の多様なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースを構築し、推進すること。
- ②他大学への普及・促進を見据えた、新たな知見を含む教材・マニュアル等の充実を図ること。
- ③ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策の3つの分野ごとの養成人数や取組成果などを適切に把握するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携するなど、社会のニーズにより応えられるよう改善していくこと。
- ④広報戦略として、全国の拠点が一体となったフォーラム等の開催や、がん患者からの声を吸い上げ、本事業の取組の成果とともに社会や地域に広く情報発信していくこと。
- ⑤補助期間終了後の事業の継続のための具体的かつ実現可能性の高い計画を策定し、推進すること。

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	6
申請担当大学名 (連携大学名)	金沢大学 (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)
事業名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事業推進責任者	がん進展制御研究所腫瘍内科教授 矢野 聖二
<b>取組概要</b>	
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンプ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>	
<b>中間評価結果</b>	
(総合評価) B	
<p>おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】 ○北信がんプロ独自のe-learning教材の活用や、TV会議システムによる多施設・多職種連携の双方向性演習の実施など、多くの学生や医療従事者の学習に貢献している。</p> <p>【改善点】 ●6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。 ●自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。 ●他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取り組みが必要である。</p>	

# 外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 松浦 成昭

## 【評価結果】

■問題や不十分な点はない。

□一部問題や不十分な点がある。

□全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

## [実施状況に関するコメント]

第3期がんプロ3年目として、北信6大学がそれぞれの特徴を出しながら、がんプロ事業を質量とも優れた形で実践していることを高く評価します。外部委員の意見も大変良く取り入れて頂き、前向きに検討・改善されたことに敬意を表したいと思います。人材養成事業であるがんプロにまず問われるものは大学院生・受講生の確保ですが、6大学がすべてのコースに大学院生・受講生の受入れ実績をあげておられることに最大級の賛辞を贈らせて頂きます。がんプロ教育を支えるe-ラーニングおよびICTを用いたオンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は充実した内容でよい教育環境を提供していると高く評価されます。また、学内外向けのセミナー・講演会や一般市民向けの公開講座も興味深い内容・トピックスを取り上げて、活発に実施されました。ホームページもフェイスブック・ツイッターも併用して、広報に努められ、また昨年指摘した各大学のホームページもそれぞれわかりやすく整備頂き、広報にも積極的に務められました。

引き続き残り2年間、さらに事業を継続して、優秀な医療人材の養成を推進して頂くことを期待申し上げます。

## (優れた点)

・がんプロ大学院生（本科正コース）の人数が2019年度は38名と増加し、インテンシブコースも受入れ目標数をクリアしている点。

・オンコロジーセミナーは4回実施で平均90名が、ライフステージ事例検討会は7回実施で平均95名と多数の参加者があった点。参加内訳で見ると多職種が参加している点。ライフステージ事例検討会では、医師、看護師以外の職種の参加が増加している点。

・広報活動を強化した点。フェイスブックやツイッターも用いて様々な形で広報に努めた点。

・2回発行した北陸がんプロNEWSは大学院生リクルートに効果的

・各大学がそれぞれがんプロのホームページを作成し広報に努めた点。

・東海北陸合同で小児がんセミナーを行った点。

・(信州大学) インテンシブコースを新設し、17名の受講生があった点。認定遺伝カウンセラーコースの優れた教育内容。山梨大学との連携。合同市民公開講座および北信がんプロ大学院生交流会はよい取り組みです。

・(富山大学) スラッフ研修に力を入れている点。第7回オンコロジーセミナーに115名の参加者があり、盛況だった点。

・(福井大学) 片山寛次先生退職記念セミナーが開催され、長年がんプロに貢献いただきありがとうございます。がんプロ寄附講座・腫瘍病態治療学講座およびがん専門医育成講座の活動は素晴らしいと思いますが、がんプロにどのようにコミットしているか、も教えて頂きたいと思います。

・(金沢医大) がんプロ大学院生に対して優れた教育内容をしている点。ライフステージ事例検討会に積極的に参加している点。

・(石川県立看護大) 修了生が北陸各地でCNSとして活躍している点を評価したいと思います。FD研修として「CNS関係者によるがん看護事例検討会」もよい取り組みです。様々な研修会にアンケートをきちんと取って、分析している点。

・(金沢大) 市民公開講座、オンコロジーセミナーでアンケートをきちんと取って、分析している点。

#### (改善を要する点)

・昨年までの改善を要する点についてきちんと対応して頂きましたので、改善を要する点は特にありません。今回は発表会が中止になったので、質問と要望について記載させていただきます。

・オンコロジーセミナーの参加者内訳の数字(スライド28)とスライド27の数字はあうのでしょうか? がんプロ大学院生は是非参加してほしいのですが、68名の中でどれくらいが参加したか、調べて頂ければと思います。

・北信がんプロホームページのお知らせ・活動報告に漏れているものがあると思いますので、できるだけ記載して下さい。

・市民公開講座やセミナーはできるだけアンケートを取って、参加者の反応・意見を組んで頂きたいと思います。

・信州大学のインテンシブコースの人数は17名ですが、北信がんプロ全体の報告では6名になっているので訂正ください(スライド24)

・富山大学・福井大学・金沢大学 がんプロの教育の内容について詳細がスライドでなかったため、次の機会でプレゼンをお願いします。

# 外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員 石岡千加史

## 評価結果

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

## [実施状況に関するコメント]

申請にからの目標とその後生じた新たな課題に対する目標に向けて、順調に事業が推進されている。

## （優れた点）

- 大学院の本科生コースとインテンシブコースの療法で各大学が目標を上回る履修者を得ている点。
- e-learning について前回の外部評価後に新たに講義を収録し、教育の幅や水準を確保している点。
- 市民への広報が前回よりも積極的に行われている点。

## （改善を要する点）

がんゲノム医療に関する地域がん医療機関への普及啓発は、現在が極めて重要な時期であるため、目標にとらわれずもう少し幅広く啓発活動を展開してはどうかと考える。

# 外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 眞島喜幸

## 【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

## [実施状況に関するコメント]

- ・ 今後、がんプロのさまざまな教育面において、最新のコミュニケーションシステムの活用を進めてほしい。
- ・ 地域特性を考慮した教育プログラムになっている点はよい。
- ・ 市民公開講座は全般的によく練られたトピック、テーマを扱っており、がんプロの活動内容、事業成果のアピールにつながっている。
- ・ 医療リソースネットワーク化が進むことで、希少がんなどの領域で、患者はどこにいてもその担当医が希少がんの専門医とのコンサルテーションが可能となることから、それを踏まえた教育テーマなどもあるとよい。
- ・ e-Learning のコンテンツについては、PDCA サイクルを回して、常に受ける側のモチベーションを上げるような改善策を進めてほしい。
- ・ Web 会議の開催を進めている点は評価できる。同時に北信がんプロ施設間の協同体制をネットワークを介したコミュニケーションを活用することでさらに深化させてほしい。
- ・ 地域の患者のアンメットニーズ調査を定期的に行い、地域特有のニーズとそれに対応する医療サービスについて明らかにし、それを北信がんプロの企画に落とし込めるとよい。

## (優れた点)

- ・ 北信 6 大学の強みを生かした教育プログラム 20 コースの新設は評価に値する。
- ・ TV 会議システムを活用した遠隔教育は費用対効果の面でも高く評価される。
- ・ 北信がんプロの 5 大学病院ががんゲノム医療連携病院に指定されたこと、さらに 3 大学病院がゲノム医療の拠点病院に指定されたことは患者にとり大変心強いことである。

- ・ 多職種連携、大学間連携を図る事業であることから、北信がんプロが進めているように、開催回数は多めにし、医療の進歩にあわせたトピックを選定していく計画はとてもよい。
- ・ 信州大がインテンシブコースを開設したことは評価できる。妊孕性ネットワークの構築は高く評価できる。
- ・ 富山大が、がんゲノム医療の充実を目的とした研修会、市民公開講座を開催したことは評価できる。緩和ケア市民公開講座は斬新なアイデアで、素晴らしい。がんゲノム医療拠点病院に指定されたことは朗報である。
- ・ 福井大ががん専門委の育成講座を設置し、若手医師のサポートを進めていることは重要である。がん専門委育成講座は、これからの先進医療、ゲノム医療を念頭にがん関連の専門医の育成に取り組んでいる点は評価できる。
- ・ 金沢医大のがん治療技術に対応した人材育成はニーズにマッチしている。本科生及びインテンシブコースともに受入目標を達成できている点も評価できる。また、がんデータベースの構築も研究には重要である。
- ・ 石川看護大の人生会議（ACP）の市民公開講座はタイムリーで評価できる。
- ・ 金沢大の遺伝カウンセリングコースはアンメットニーズが高い領域なので高く評価できる。受入目標を上回ったことは評価できる。市民公開講座でのアンケート結果の提示は評価できる。また、学生からの声を集めたことは大変良いと思うので、継続していただきたい。

(改善を要する点)

- ・ 特になし

# 外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：  荒谷 武夫

（自筆にてサインをお願いします）

<b>【評価結果】</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
<b>[実施状況に関するコメント]</b> 北信がんプロの6大学は、それぞれの大学の強みや特色を生かしながら、相互補完的にガン医療人材の育成に積極的に取り組んでいると、評価できます。 がんプロ養成のための教育コースも年々、充実してきており受入人数も目標を上回る実績を上げている。
<b>(優れた点)</b> e-learningクラウド教材は内容が年ごとに拡充されてきており、北信がんプロ関係者が大学の枠を超え、自分が学びたいことを自分の都合で何度でも視聴できる、非常に有益なプログラムだと評価できます。 テレビ会議システムを用いての、特徴のある症例の検討や先端がん治療に関するオンラインセミナーの開催などは、がん治療に関わる医療従事者に大変役に立つものと思われます。
<b>(改善を要する点)</b> 市民公開講座やセミナー・シンポジウムなどを開催していることは評価できるが、参加できなかった人たちにもその内容などを知らしめる広報（新聞やWEBへの掲載）をしたらいいと思います。 北信がんプロの活動の一つとして、がんの早期発見・早期治療の大切さや、たとえガンに罹患しても治療を続けながら働けることや早期社会復帰できることなどの啓蒙活動をしていただきたい。 がん治療は世界的にもものすごいスピードで日進月歩しているので、再生医療やゲノム治療などの最新情報も北信がんプロを通じてご提供いただけたらありがたいです。



# 外部評価結果（総括）

<b>【評価結果】</b>
<p>■問題や不十分な点はない。</p> <p>□一部問題や不十分な点がある。</p> <p>□全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。</p>
<p>[実施状況に関するコメント]</p> <p>第3期がんプロ3年目として、北信6大学がそれぞれの大学の強みや特色を活かしながら、がんプロ事業を優れた形で実践していることを高く評価できる。申請時の目標に加えて、新たに発生した課題に対応し、外部評価委員の意見を適切に取り入れながら、順調に事業が推進されている。</p> <p>特に6大学がすべてのコースに多くの大学院生、受講生を確保した点、E-ラーニングの内容が充実している点、ICTを用いたオンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会で良い教育環境を提供している点、学内外向けのセミナー・講演会や一般市民向けの公開講座も興味深い内容・トピックスを取り上げて、活発に実施した点、様々な形で広報に努めた点は高く評価される。</p> <p>大きな改善点はあまりないように思われるが、さらにレベルアップするために以下の検討をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・e-Learning のコンテンツについては、PDCA サイクルを回して、常に受ける側のモチベーションを上げるような改善策を進めてほしい</li><li>・地域の患者のアンメットニーズ調査を定期的に行い、地域特有のニーズとそれに対応する医療サービスについて明らかにし、それを北信がんプロの企画に落とし込めるとよい</li></ul>
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大学院本科生コース、インテンシブコースともに各大学が目標を上回る履修者を得ている点。</li><li>・テレビ会議システムを用いたオンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会はともに多数の参加者があり。参加内訳でも多職種が参加している点。</li><li>・e-learning について前回の外部評価後に新たに講義を収録し、教育の幅や水準を確保している点</li></ul>

- ・ 広報活動を強化した点。フェイスブックやツイッターも用いて様々な形で広報に努めた点。
- ・ 各大学がそれぞれがんプロのホームページを作成し広報に努めた点。
- ・ 信州大：インテンシブコースを開設した点。妊孕性ネットワークの構築。
- ・ 富山大：がんゲノム医療の充実を目的とした研修会、市民公開講座を開催した点。緩和ケア市民公開講座は斬新なアイデアで、素晴らしい。
- ・ 福井大：がんプロ寄附講座・腫瘍病態治療学講座およびがん専門医育成講座の活動
- ・ 金沢医大：がんプロ大学院生に対して優れた教育内容をしている点。
- ・ 石川看護大：修了生が北陸各地で CNS として活躍している点。FD 研修として「CNS 関係者によるがん看護事例検討会」もよい取組みである。様々な研修会にアンケートをきちんと取って、分析している点。
- ・ 金沢大：市民公開講座、オンコロジーセミナーでアンケートをきちんと取って、分析している点。また、学生からの声を集めたことは大変良いと思うので、継続していただきたい。

(改善を要する点)

- ・ がんゲノム医療に関する地域がん医療機関への普及啓発は、現在が極めて重要な時期であるため、目標にとらわれずもう少し幅広く啓発活動を展開してはどうか
- ・ 市民公開講座やセミナー、シンポジウム等に参加できなかった人たちに、新聞や web によって内容を知らせることを検討頂きたい
- ・ ホームページのお知らせ・活動報告はできるだけ漏れのないように記載頂きたい
- ・ 市民公開講座やセミナーはできるだけアンケートを取って参加者の反応や意見を取ってみたい